

WIFE

特集 ● 長男の嫁

女たちの店 ● 手づくりパンにこもるあたたかさを売る店〈フルニエ〉

マスコミむしる ● NHKの裏側 上原友子

読者相談室 ● プライベート・ルーム

ワンポイント情報 ● 冷凍してよかったたべもの・よかったやりかた



大月書店

東京都文京区本郷2-11-9
電話 03 (813) 4651 (代表)

女たちの 昭和史 写真集

写真450点・176頁
A4判変型・定価2500円(¥3000)
喜びと悲しみと怒りとたたかいた...
女たちがつくった感動の記録

- はじめて完成した「女の手による」女たちの昭和史
- 戦争と平和を視点にすえた目でみる女性史
- 昭和における女の生活の実相にせまる
- 労働・社会参加・文化創造における女の群像を追う
- ナイロビ(国際婦人年)までの女性解放運動の発展をえがく
- 誰もが親しめ、学習テキストとしても最適
- I 希望と不安のはざま
- II 戦争へ、戦争へ
- III 平和と平等をもとめて
- IV 人間として、生きる
- V 地球をささえる女たち

● 新刊発売



理論社

新宿区若松町15

刊行中
毎月2冊・3月完結

乙骨淑子の本

熱く燃えながら駆けぬけた風。
あなたはオツコッショコを知っていますか?

全8巻

A5判上製カバー装

定価各1800円

編集委員 上野瞭・掛川恭子・山下明生

戦争下の鎖国の中にそだち、やがて敗戦。それから、それまでの一切を否定する米軍占領下の思想にたたきされ、伝統のさけめにおちてもがいた体験が、この人に、伝統から深くくみとる力をあたえた。エッセイと小説をふくめて、この人の著作は、形をかえて経済大国日本に今もつづいている鎖国を内部からちくずす方向をめざしている。
(鶴見俊輔)

- ① びいちゃあしやん
- ② 八月の太陽を
- ③ こちろボボー口島応答せよ
- ④ 青いひかりの国
- ⑤ 十三歳の夏
- ⑥ 合言葉は手ぶくろの片つぽ
- ⑦ ビラミッド帽子よ、さようなら(1)
- ⑧ ビラミッド帽子よ、さようなら(2)



いたい放題 したい放題

書きたい放題 よみたい放題の

投稿誌が わいふです

人間 ほんとにやりたいことは やれるもの

ウジウジ・イライラふり捨てて

思いっきりやれば 気ははれる

いろんな人のいろんな時の

いろんな心を材料にして

二か月に一回 わいふが出来あがるのです

仕上げに適量の“ユーモア”と

“思いやり”のスパイスを！

ピリツとくるか まろやかになるか

それはあなたの“うで”次第！



WIFE 198 わいふ目次

表紙イラスト 松本圭以子

女たちの店

手づくりパンにこもる
あたたかさを売る

ヘルニエ横山三和子さん 4

写真 佐々木恵子 文 田中喜美子

エッセイスト・クラブ 9 ★

嶋田たい子・柴田照代・藤野宏子

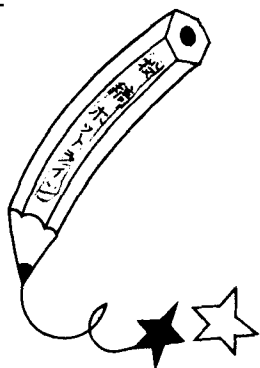
法村香音子

職場は多面体 20 ★

高本安子・NM・遠藤章代

対話のページ 24 ★

横山友子・佐々木淑恵・山下綾子
細野清美・堀内千恵子・原横悠美子
原真智子・オバーチャン



特集・長男の嫁

農家へ嫁いだ私 32

岡井美代子

舅姑より世間がこわい 38

山本陽子

マン・ウオツチング 41 ★

海老根紀子

連載 3

ただ一枚のチラシから 42

山口洋子

マスコミむしる 48 ★

上原友子

観たり聴いたり 55 ★

松本弘子

★印は
投稿ボットライン
の、ページです！

教師とケンカする法

58

門野晴子

親のホンネ 62★

赤井久美子

ファミリィ・イン・ブルー 66★

窪田潤子・ST

新連載

山の彼方の空遠く 70

声楽に憑かれた私のヨーロッパ留学記

高木 梢

マンガ笑止・笑止 栗田 笑 85

連載 4

私の昭和史 86

桜井淳子

ワンポイント情報 98★

へ冷凍してよかったたべもの・よかったやりかた

谷口知子・河野民枝・原真智子

野本美希子・中園容子



わいわいがやがや 102★

岡博之・鯉淵道子・市村幸子・たまき久美
小山たづ子・棚野みどり・岩崎八恵・大島敦子
栗屋郁子・広沢衆子・若木菊枝・関根洋子
伊藤智子・風間ゆり

生きてます活字人間 114★

柏木輝子・田中喜美子・上野八重子

菊池真奈子・和田好子

連載 6

再就職の落とし穴 118

原田静枝

読者相談室

フライベート・ルーム 128

相談 鈴木たづ子 アドバイス松崎光子

マジの発言 134★

鈴木詠子・島村雅子・岡村和代

山田淳子・河野民枝

情報コーナー 82 ほん 126

お知らせ 特集テーマ原稿募集 141

投稿規定 142 編集だより 144

女たちの店 《1》

手づくりパンにこもるあたたかさを
売るヘフルニエ
横山三和子さん
写真・佐々木恵子
文・田中喜美子



一日の初まりは掃除から





都内には珍しい麦畑や茶畑の広がる、練馬区の奥にある「手作りパン・喫茶フルニエ」。
六坪弱の店内にはテーブル四つ、椅子八脚、壁ぎわにベンチ。
オーナーの横山三和子さんは二人の子の母親。子育てで家にいる間に習ったパンづくりが、みごと現在のお店に結びついた。
仕事場に入るのは朝十時。あとは戦場のような忙しさ。六台のパンこね器にパン種を入れ、つきつきに取り出して型をつけ、三台のオーブンで焼き上げる。
十一時ごろからポツポツと、焼き立てパンを

朝の10時にはお客がポツポツ





パンをこねるには力がある



オーグンのずらり並ぶキッチン

買にくるお客が来はじめる。
喫茶コーナーには、近くの製菓工場で働くパ
ートの主婦たちも。なじみの男性客はコーヒ
ーとあんドーナツで一服していく。
「納得できる粉を作って、と思うと商売とし
ては成立ちません」と笑う横山さんだが、地
域の女子たちの交流の場として、「フルニエ」
の持つ意義は大きい。

今夜のおかずの相談相手に!!

毎日のお惣菜シリーズ 全6冊

野菜料理 I・II

バランスのよい食事が健康の第一歩。
野菜は充分摂れていますか? この本では、おなじみの野菜、今人気の中国野菜、新顔の西洋野菜を使い肉や野菜と組み合わせ、おいしく食べられる料理を約500種紹介。忙しい方でも手許の材料で手早くできるものばかりで便利です。



婦人之友社編 B6判 各980円

続刊予定

- | | | | |
|-------|-----------|-----|------|
| 6 | 5 | 4 | 3 |
| 米と麺料理 | 豆腐・乾物・卵料理 | 肉料理 | 魚料理 |
| | | | 5月上旬 |

☆お求めはお近くの書店へ

171 東京都豊島区西池袋2-20-16 婦人之友社 振替東京3-11600 電03(971)0101

教育史料出版会 千代田区三崎町1-2-2
TEL291-3571 振替2-79022

☆「相談・質問カード」付▼具体的な援助が受けられます

子どもたちを甦らせるために

家庭ではいまい何ができるか



学力おくれ 学校ぎらい

学力おくれ

八杉晴実
定価九八〇円

子ども自立を妨げている親たちへ贈る!
子別れのすすめ
わらしこ保育園
「八坂の星」山村留學記
ひとりて生きる・ひとりて暮らす
ルボ「希望の家」の子どもたち

和田 好子
赤井久美子
稲葉 敬子
吉岡紗千子
鈴木由美子



母と子の新しい絆を創るため

子連れ・子別れの手法と、その実践を収録

子どもの自立を妨げている親たちへ贈る!

母親はいつまで必要か

和田好子編 定価一〇〇〇円

子別れのすすめ

投稿ホットライン——ずっとこけた・ぶったまげた・頭にきた・ジーンときた

エッセイスト・クラブ

あの日のこと、この日のこと、つれづれなるままに……書いてみよう。
読んで面白い、読ませて喜ばれる、大傑作集

黄な粉ごはん

埼玉県越谷市 嶋田たい子

飽食時代の到来で学校給食も、時折いろいろな面から問題が取りざたされている。給食残飯量の増大、高カロリーの摂りすぎによる肥満児の増加、および子供達の骨のもろさの増加など。

それらのニュースに接するたびに二十年前のことを思い出す。

私が初めて赴任した〇小学校は、新潟県と山形県境にある僻地で、日本海側に

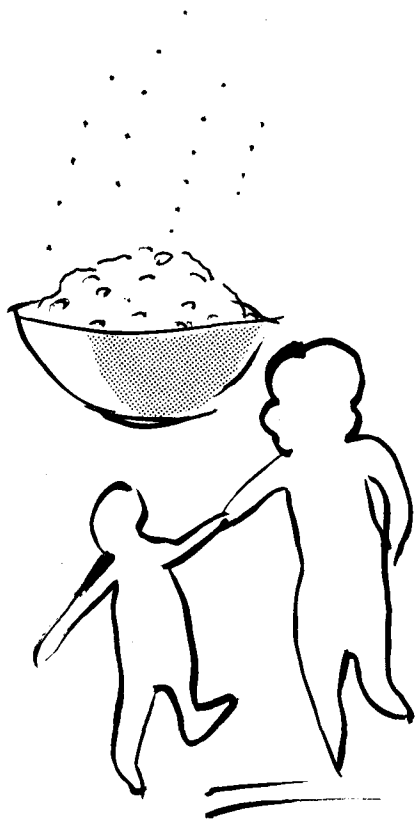
ある駅からバスで、山また山を越えて終点にあるS地区にあった。過疎化が少しずつ始まっていたものの、S地区は冬は出稼ぎ、夏は農業という経済パターンの家々が主だった。小学一年を受け持つ

た私は、可愛い生徒を相手に孤軍奮闘、山々に囲まれた絶景に感謝し張り切っていた。

二十年前のあのころは全国のほとんどの学校に給食が実施されてはいたが、私の勤務する〇小学校は、脱脂粉乳が給食の全てであった。用務員さんが、大きな釜に脱脂粉乳と水を混ぜて十一時半になると作ってくれた。プーンとしたミルクの匂いが、小さな〇小学校にしみわたると、子供達は、目をかがやかせて「給食、給食」と口々に喜んだものだ。甘くもなく、おいしさも感じられない脱脂粉乳を、唯一のごちそうよろしく一気に飲みほすものや、まだ飲み切らない子がいると、うらめしそうにのぞきこんだり、子供達にとって楽しい一時であった。

脱脂粉乳を飲み終えた子供達は、昼飯は各々の家庭に食べに帰る。私は子供達の給食の後始末を終え、自分のお弁当を食べてから午後の授業（高学年の家庭科を受け持っていた）の準備をするのが日

課であった。いつもより早目に準備が終ったある日、私は子供達の家庭での姿を観察に出掛けてみた。クラスで一番ヤンチャな聡の家から訪問してみた。父親は出稼ぎ中で、母親と祖父母は家の裏にある田の中から「先生、ご苦労さん」と声をかけてくれた。聡の姿は見えない。聡は家でご飯を食べていると母親の説明があ



った。戸が開かれている縁側から声をかけてみた。聡の後ろ姿がみえる。

「さとし君」と呼びかけてみた。聡は突然の私の声に振り向いた。口中、黄な粉だらけで「先生」と私にいつもの笑顔で飛びついてきた。身長が一メートルに満たない小さな聡は私の腕の中で「先生、ご飯食べていって」と私に昼食をすすめ

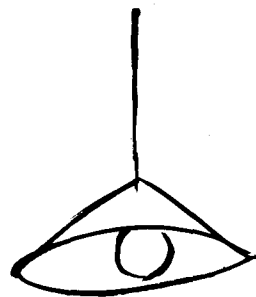
る。

「今日はおいしい黄な粉ごはんなんだから」ちゃぶ台の上にはご飯茶わんの上に黄な粉がまぶしてあった。

「さとし君、黄な粉ごはん、おいしい？」
「うん、いつも昼はね、ご飯だけで、おかずがないんだもん、黄な粉があると嬉しいんだ」と聡は言う。私の腕の中の聡は、黄な粉だらけの口から欠けた乳歯をのぞかせて、心から嬉しそうに話してくれた。

聡の家を辞して次の広子の家も同様に広子が、私の訪問を喜んで迎えてくれた。広子も一人で昼飯を食べていたが、白いご飯のままで、副食は何もなかった。

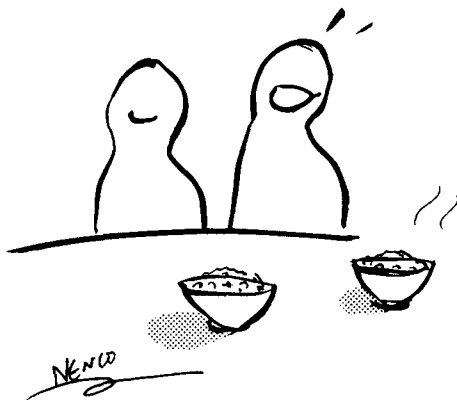
〇小学校の子供の体格が、全国平均、いや県平均より数段劣っていることは、赴任した時の学校概要の説明があったときに知ったものの、現実には彼らの食生活の一端をのぞくことによって、栄養状態の貧困さを感じた。こういう地区にこそ、学校給食が実施されてほし



いと聡や広子達の姿をみるたびに私は思うのだった。文化、行政および教育の過疎化が、これほどにまでも及んでいるのかと疑問に思った。

私は同僚の教師達に問題提起してみた。意外にも答えは、給食費が払えないという家庭がほとんどで給食が実施出来ないでいる、という段階であった。

あれから二十年たったが、あの〇小学校で給食が実施されているか、私にはわ



からない。けれどもあのときの聡や広子達のゴムマリのような敏捷な身体は、最近の子供達にはほとんどみられないのはどういうわけであろうか。あの脱脂粉乳をおいしそうに飲んで、生き生きとした瞳の子にとんとお目にかかったことがないのはなぜであろうか。

肥満児指導をしながら、ローレル指数を計算しながら、私は聡や広子の笑顔を思い出す。

吞龍っ子

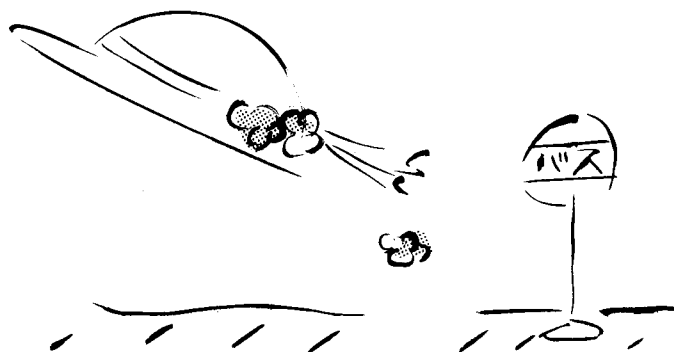
「吞龍様」とは、群馬県太田市にあるお寺のことである。山号、寺号は知らなくても、北関東のあのあたりでは、「子育て吞龍」といって知らない人はないほど有名なお寺だった。

昔、吞龍上人というえらいお坊さんが、近在の弱い子供達を守り、育てたということである。

群馬県邑楽郡の片田舎に生まれた私は、幼時、高熱をよく出す虚弱児だった。忙しい商家の嫁である母は、惣領娘の私を生んだ翌年、跡取りの弟を出産したので、私の世話は、一切祖母に任されることになった。ひとり息子の父をやっと育て上

げた祖母は、心配性だったのだろう、仏様のお力を頼もうと、二歳の私を吞龍様のお弟子にした。そのころ、男の子はみな坊主頭だったので何ということもないのだが、入門すると、女の子も頭を剃らなければならなかった。そして吞龍っ子と呼ばれた。

祖母は年に幾度か、私を連れて五里（二十キロ）ほど離れた太田の町の吞龍様へ参詣した。私の記憶の始まりは、赤いメリンスの綿入れに着ぶくれて、所々に松の木のある境内を、祖母に手を引かれて歩いている光景である。乾いた赤土の上を、上州名物の空っ風が吹いていた。



東京都渋谷区

柴田 照代

私がもの心付いたのは、三歳ほどになつていた年子の弟とふたり、祖父母と共に寝起きする隠居部屋であつた。いつも抱いて寝てくれる祖母から私は生まれ、弟は祖父から生まれたものと思つてゐた。そしていつもご詠歌のふしでうたう祖母の子守唄を聞いて眠つた。

そのころ、生まれて間もない次の弟に乳房を含ませている母の姿は、はっきり覚えてゐるのだが、父の姿は記憶のどこを探してもない。

女の子なのに坊主頭だった私は、何歳だったろう。

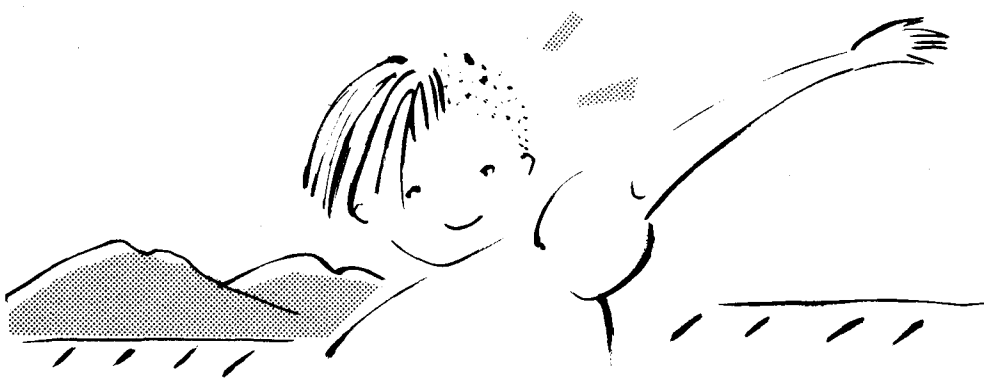
母は、私と弟ふたりを連れて、久し振りにお盆の実家^{きと}帰りをするため、バスに乗りこんだ。よそゆきの服に、花飾りのある帽子をかぶつてすましこんでいた私が、何を思ったかヒョイと帽子をとつてしまったのだそうである。母は「ハッ」としたが、時すでに遅く、半分刈り残したイガグリ頭を衆目にさらしてしまつた。未だ三十歳にもならない若い母は、顔か

ら火の出るような思いをしたそうである。パ・リ・カンの調子が悪く、チヨツとくつちめて、痛い思いをさせた途端、むずかり出してどうしても刈らせなかつたとか――。

それやこれやで、また三年が過ぎ三人目の弟が生まれた。

製麺、製粉、製糸など、ますます商売はいそがしくなり、老齢化した祖父母の隠居部屋へ、手のかかる三番目のチビが加つたため、年かさの私達には、手が回らなくなつた。

過保護を脱し、私も自然と丈夫になつて、反動のようにお転婆になつていった。何歳まで吞龍^{どんりゅう}っ子であつたかは覚えていないのだが、来年は学校というころには、フサフサしたお河童頭になつていた。海に遠い群馬県では、のどかな田園風景の変わらぬ日々であつたが、はるか太平洋のかなたで、熾烈な戦争が始まつていたころのことである。



妻恋い

千葉県習志野市 藤野 宏子

脳腫瘍の手術をして入院中の父の付き添いを、母と交替でしていたときのことです。父がはじめて病室のベッドの手すりにすがって立ち上がったとき、八階の窓のむこうには、薄青い備前のなだらかな山並みと、白く光る旭川の流れが見えました。盆地には、中小のビルが建ち並ぶ岡山の市街地があります。父はその一画をゆびさしていました。

「あれがうちじゃ、あの貸しガレージはうちのじゃ、あの白い大きいビルはわしのじゃ」

隣にいた人が、

「おじいさん、そんなにぎょうさんビルもっとならひとつくれんかな」

「よっしゃ、ひとつあんたにあげらあ」

みんな吹き出したので父も若いときのようにワハハ……と笑いました。

病室は四人部屋です。一人の患者さんがベッドの通路で歩行訓練をはじめました。付き添いの人が、

「いちに、いちに、それ、がんばれ」

とかけ声をかけると、患者さんも「いちに」とふらつく足をふんばってがんばっています。父も一緒になって応援します。

「うちもリハビリはじめなくちゃ」

と思って私は、父の腰に結んだサラシのひもを持ち、父の体を両腕でしっかり支えて、

「それ、歩いてみよう」

といいました。すると突然父は怒り出しました。

「放つといってくれ、わしは牛じゃあねえぞ」

病室はシーンとしてしまいました。私は子どものときから何十年も父に叱られた記憶はありませんでした。たとえ病気のせいでも、叱られるのはつらいことでした。

夜になりました。父は闇の中で、

「おい」

と呼びました。

私は父の手をにぎって、

「ここだよ」

といいました。しばらくするとまたトイレの用もないのに、

「おい、おらんか」

と呼びました。寝返るのにも大変な父が毛布をはねて上半身を起こしました。

朝になりました。父に、母が自宅へ休みに行ったことをいい聞かせましたが、父はききわけないで、自分でベッドから下りてしまいました。

「まだか、まだ車は来んか、おそいなあ」

自分が帰ろうとしているのか、迎えにいかうとしているのか、今どこにいるのか、父にはわからないのです。妻を探しているだけです。誰かが歩行器をとってきてくれました。父はがくがくの足をひきずって、両腕をがっちり歩行器のハンドルに乗せて体重をあずけ、通路から外



へ出ました。必死に歩いてゆきました。

私は、心の中では泣きながら、父の腰ひもを支えていました。

父は毎日母を探して待合室へ通いました。

「あれは家の車じゃ、まだ来んか」

と悲愴な表情で窓から市街を見おろしていました。他の患者さんが笑って言いました。

「おじいさん、おばあさんはまだ来んのか、おばあさんがそんなにええか、娘さんのほうがよからうが」

父は人目もかまわず、一心に妻を待ちました。幼な子が母をしたうように、老いて純粹に人を恋うる姿は、美しくも悲しいものでした。父は虚飾を捨ててしまっただけです。虚飾からのがれきれない私にとって、これ以上に美しい人間のありようはないだろうと、今でも思えるのです。

中国からきた手紙

埼玉県所沢市 法村香音子

十一月十九日、中国から一通の手紙が来た。

「拝啓 白菊のかおり高いきょうこのごろ、お褒りはございませんか。この手紙があなたのお目にかかりますと、不思議とか御意外に驚くとかなさるでしょうと存じます。これはわたしたちが30余年の久し振りでございますからです。しかし、この写真を見ながら昔のことをちょっと静かに偲ぶとはっきりなさると存じます。さて、34年前の1951年、わたしたちは遼東省海城第二中学校で学ぶ、その時のあなたは音楽（注・歌）と踊りの優れたお方で、その歌声と舞姿は今でも

聞えられ、見られるように目の前に浮んでいます」（原文のまま）

ここまで読んで、「な、なんだ？」と思わずドキンとした私は、同封されていた私も写っている七人の学生の記念写真を再び凝視した。

確かに惚れっぽい私だが、先刻写真を見たとき「ウワァー懐かしいノ 十五歳の私だァ」

とは思ったものの居並ぶ同学（注・同級生）達の顔はあまり憶えがなかったのだ、まさかノ この中に恋人?! と、驚いたのである。

でも、どの顔を見ても思い出せないの

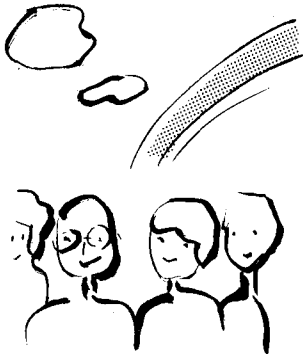
で読み進むことにした。

「1951年9月、即ち初等中学一年生の第二学期の始めから、写真上にあるわたしたち七人の同級生は、一同軍隊に参加し遼東省蓋平衛生技術学校で訓練を受け、そこで細菌の知識を習い、防空と反細菌戦の演習を参加することもありました。翌年1952年9月遷校に連れて通化地区の遼東省通化医士学校で医士の専業を修めになり、あなたは八班で私は十班に編入しました。一生涯忘れられないこの年の秋、あなたは中国の赤十字社であなたの祖国日本に帰国になさって母校を離れることになりました。（注・実は

私は帰国したのではなく北京に行き五年後帰国したのである。わたしたちの朝夕の楽しい生活が破られた」

——ここまで読んでくると、よくもまあこんな記憶にしていること、朝夕の新しい生活が破られた!? あらあ——私、全くこの人を憶えていないのに通化まで一緒だったとは、片思いなのか、はたまたふって恨まれているのか——胸がドキドキしてきた。

「特に母校を分れる先日、わたしたちは学校の裏の着物干場で（ここんところが良い）話し合う時、あなたの母校を分れ難さと学友の別れ悲しみは今でも心に深く



刻んでいます。さらば34年でありますけれど、あなた当時の話声と顔色は今尚ほ目前に浮んでいます」

三十四年も前の情景がいかに目の前にあるように浮かんできるとは、実に素直な、少年の心を写すような描写——正に私が生まれて二十二年の間に体験した「素朴で飾らない中国人」がここにあった。日本人ならば（これでも五十を過ぎた人？）という感じの文章である。

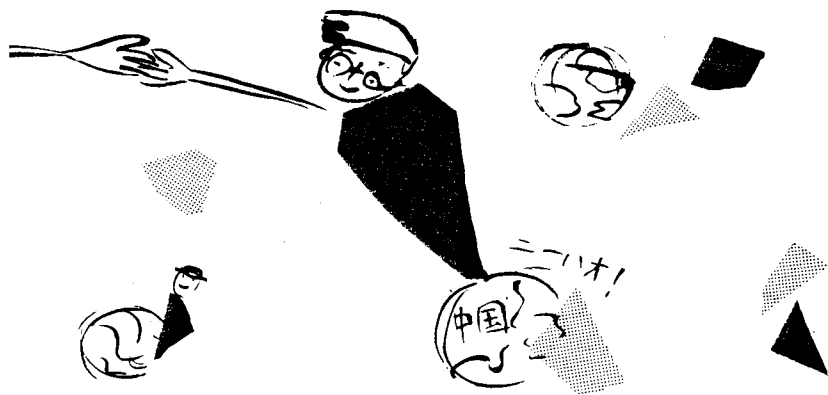
「本当に悲しみを増すだけです。それゆえ深刻の友情のためか、その時の合影（みんな一緒に記念写真のこと）は貴重に保存してあります。月日は過ぎさったけれども友情は増す一方であります」とここまで読んだとき心配？ はなくなつたが、代わりに私の心に、実はとても汚い疑いの心が浮かんたのである。

私が経験した中国の八路軍と行動を共にした一九四五年から一九五〇年、そしてこの手紙の主たちと過ごした数年間に、中国人民の素朴で正直、質素で素直、悠

久の歴史を感じさせる教養の深さと奥行きのある広さに深い感銘を受け、少しでも私も同化したかと思つたものだった。

なのに世界の経済の発展と文化の交流、特に文革後の中国と日本の交流が進むにつれて、本来の中国の良さが、漸々に、いや、急速に失われていくように思える現象を身近に感じて、「これは本当の中国人じゃない」と思うことが多くなつていたのである。

だから手紙をそこまで読んだとき、「ハハア。こんな、恋人に出すような手紙を書いてきて、一寸した手掛りで旧友をぶり返し、中国人たちが何時も欲しがる日本の電化製品か何かを送ってくれ、と言ふんじゃないかな？」と警戒した。（実は後日妹たちにこの手紙を見せたら同じようなことを言つたのである）「今まで色・色・色な関係で連絡の機会はありませんでしたけれど、今、両国の友好に頼り、友人の協力でああなたの御住所を分りました。



しかし、目印の為に昔の写真を探しましたが、長い年月のため、理想なものではなかったのです。しかし念に念を入れて、ようやく一枚の理想的なものを探し出し、再印（復写）し記憶として差し上げます」（原文のまま）（以下略）。

（略）の部分には、我が母校が吉林市の学校と合併し、自分は院生として残り、現在は吉林衛生庁の幹部で、家は長春（旧新京）にあって三人の子供は医者になったこと、妻は日本語が解けることが書いてあった。

そして、ぜひ長春に来てほしい、家族中で待っている、返事が欲しい、と結んであった。

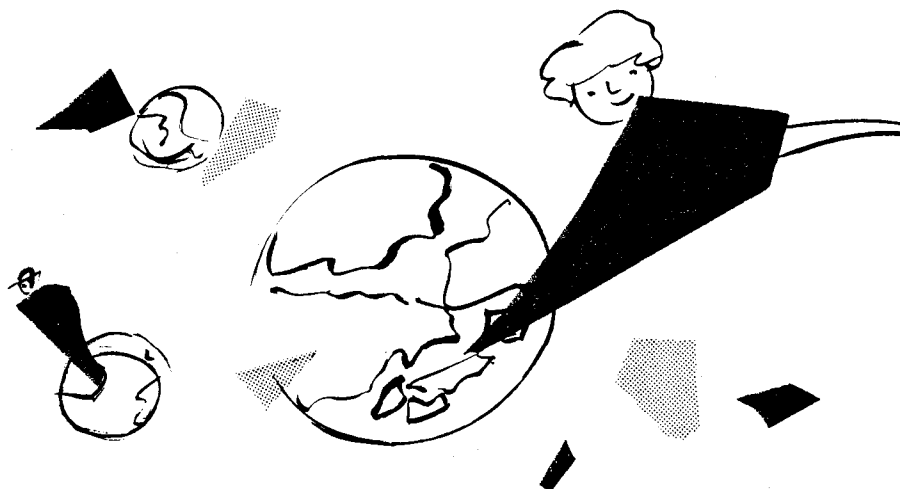
手紙はとも角——と、私は写真に見入った。実に貴重な嬉しい写真だ。私はこの前後の十年ぐらいの自分の写真は二枚しか持っていない。確かにこの手紙の主の言うように、この手紙を読み、写真をジッと見ていると次々と思いが湧いてくるのだった。そして、

——もしも、この手紙の主が、私が思ったような不純な心だとしたら、日中友好の日の来るのを予測してたった一人の日本人の女の子の、しかも中国人民に多大な犠牲を払わせた日本人の一人であつた私の、良いことばかりを細かに憶えていて、写真まで取って置いたであろうはずがない。

——ごめんなさい、私の憶えていない韓さん。私は貴方の手紙と、この写真を今後幾度も読み返し、見つめることによってあのころの気持ちに立ち返り、きれいな心で生きたいと思います。——芯からそう思い、斜めに人を見る心を持ってしまった私を反省した。

今回は日本語で返事を書いた。この次は中国語で出すつもりである。そのほうが、私の心が素顔に戻れるような気がするからである。

ここまで書いて気が付いたことだが、私の文章、手紙は日中混血のようだ。



中国にいたころの私は、この韓さんの手紙のような、日本人が見ればドキッとするようないささかオーバーな表現の手紙を書き、作文した。しかし中国人からすれば、例えば、友達や親に手紙を書くとき「日々夜々我想念您……（昼となく夜となくあなたのことを思っています）」とか、「思想家想死了……（家を思っ死にそうです）」なんて言うのはざらで、情熱を裡に秘めるのを美德とする日本人が目を剥くような表現の羅列はあたりまえだ。

そういう意味では、中国は心のありようを、ありったけの言葉を使役して表現できる、楽しい、有難い国、私向きの国であった。

ところが、「わいふ」に刺激され、長年書いて見たいと思っていた文章をさて書いてみると、自分でも気付かないうちにオーバー表現というか、思い入れ格好ついで書いている。「素直に書いたほうが良い」と指摘されて読み直して見ると顔

が赤くなるほどである。

今回のこの手紙を、半分嬉しく半分当惑しながら友人たちに見せると、一様に「何だこれ」とやはり言い、若い女の子は「キヤア、法村さんに春が来たア」と言った。昔は当たり前だったものを私も複雑な感じで受けとるようになった、日本人返りをしたと気付いた。

テレビ報道の、孤児たちと肉親の対面の場面で、孤児の中国的表現と照れたように同調しかねている肉親の様子に、双方のギャップの原因が私にはよく解るのである。だから、それが今後の悲劇を暗示するものでなければよいが、と双方の立場に立って心配するのである。

彼らが考えている以上にギャップは大きいことは私が体験してよく知っている。無理なことだが、どうでも永住帰国したなら、早くこのギャップに気付いて八郷に入れば郷に従え／と言う処世術を、良い意味で身につけて幸せになって欲しいと願う。

（え・カステラネンコ）

投稿ホットライン——能ある鷹は爪をかくす

職場は多面体

愛すべき職場——死角の部分に何かがあるか？

トンビに油揚げさらわれて!!

東京都大田区 高本 安子

生命保険の外務員を始めて一年と六カ月になります。やっと自分なりのペースがつかめて何とかやっていけそうかな、というところです。先日ちょっとした事件がありました。

私が訪問している会社でたまたま一人のお客様を巡り、同じ生命保険の他支部の人とぶつかってしまいました。(その会社で出している生命保険募集許可証を

持っているのは私だけなのです) 親類とか知人なら当然のことだろうし、まだ私が一度も会ったこともないお客様なら、これもまた仕方ないことだと思えますが、私もすでに何回も顔を合わせ、見積書もだしていたお客様Oさんなのです。他支部のWさんは、Oさんの自宅に電話をして連絡をとったそうです。Oさんはてっきり私の代わりに来たと思ったそうです。

それと、お客様は同じ生命保険会社なら、どこの誰でも同じだと考えているようです。

私はOさんに職場担当として、後々のお世話をさせて頂くこともできますので、ぜひとお願ひしたのですが、WさんがOさんに保険会社の上の人から言われた通りにしているだけだし(こういうの危険ですね。例の悪徳商法で捕らえられた人たちもこう言っていましたね) 職場担当とぶつかるのはいつもですと泣いてOさんに頼んだそうです。Oさんも若い女性に涙を流して頼まれたのではと(私のよう



なおばさんはかわいそうでないですよね)、Wさんに契約してしまいました。

私は職場担当として、〇〇生命はよくやってくれる、と言われるような仕事をするよう努めてきたつもりです。これじゃトンビに油揚げをさらわれたようなもので、本当にショックでした。それでも私は〇さんに「〇〇生命にご契約ありがとうございました。〇さんとはご縁がなかったですけど今後共よろしくお願ひします」と言ったのです。(顔で笑って心で泣くこの辛さ、家に帰って、夫と子ども前で大声で泣いてしまいました)

男の人は女性が働くことをどう見ているのでしょうか。Wさんもお涙ちょうだいの泣き落としが、いつまで通用すると思うのでしょうか。

それにしても会社というのは本当にひどいですね。こうやって競争心をおおりに、何件とたら〇〇へ招待などと競争馬の如く、目の前にニンジンぶらさげて仕事をさせるのですから。今回の事件

で(業界では日常茶飯事です)私は、会社やめますか、人間やめますかの心境になりました。いつまでこの仕事を続けられるかしら。私のようなやり方では成績なんて恥ずかしいものです。

でもこうやってマイペースで仕事ができるのも、夫婦共働きだからこそです。

ついに再就職いたしました！

埼玉県 N・M

私、ついに再就職をいたしました。

五月から通信員をしていたタウン紙の記者に十月からなりました。近くの町二市二町のタウン紙四紙を出している会社なのですが、私の担当は富士見市で、富士見新聞です。

編集長と私二人でこの一紙を受け持っているのですが、編集長は広告とりなんかもやっているの、実際に下原稿はほとんど私の仕事。企画から取材、原稿書きを一人でやっているという恐ろしい状態です。しかし、長年の夢がついに実現、

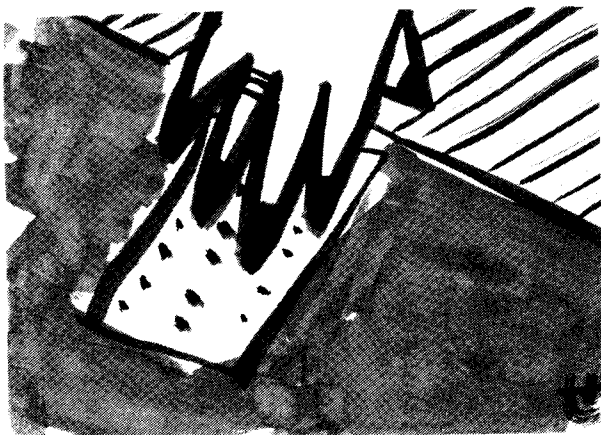
(夫と離・死別したならこんなこと言ってられないですね)

こんなふう落实到んだときは「今まで貴女のように、きちんとしてくれた人は誰もいなかった。貴女がやめたら保険もやめるよ」と言ってくださるお客様のところへ行くのです。

書くことでお金がもらえ、仕事に出られたのですから、大きく一歩前進。自立を本で読んでいた状態から、体験のほうに近よれました。

身分は今のところパート。取材や編集会議、原稿書き(主に自宅)を申告。時給は六〇〇円です。子どもが帰ってくる午後や他の用事があるときなど時間調整ができるので、パートでも今はいいと思っています。

ただ取材は相手次第なので、日曜や夜などに出ることがあります。特に日曜は



町の行事が多いので、その取材のために仕事を始めてからほとんど休んでいません。かえって日曜は、主人やおばあちゃんに子どもたちを頼めるので仕事がいやなんですけれど、タフでないとできない仕事ですね。

さて夫の反応ですけれど、意外にも、

あんなに働けといっていたくせに、いざ私が、日曜は出る、夜は毎日原稿書きになったら、「家のことがちゃんとできないならやめる」とかなんとか言い出しています。まったく勝手です。それでも以前から働けといっていた手前、ムリヤリやめさせるわけにもいかず、先日の日曜日、ハレー彗星の写真展の取材に私が行くと言ったら、二人の子どもを連れてついてきました。

私としてはついて来られるのはいやなんですけれど、取材している姿を見てもらって、少しでも理解してもらえたらと、しぶしぶ一緒に行きました。

みんなから生き生きしてるねとこのころ言われますが、二児を出産して仕事をやめてから五年ぶりの再就職、やっぱりハリキッていますね。しかも自分の企画が活字になるのはうれしいことです。編集長も、私と年が近い（一歳上）ので考えが似ているためか、ほとんど私の企画を通してくれるので、仕事としてはやり

やすいのです。

仕事を始めるまで、子どものことで本当に迷いが多かったのですが、実際に始めてみると、友人が子どもを預かってくれたり、夫が見てくれたり、おばあちゃんたちが連れていってくれたり、なかなかなるものですね。今なら、学童保育と保育園に入れて（今は小一と幼稚園年中組なんです）、フルタイムで働いてもいいと思います。

同じように、働きたいけれど子どもがいるのでと悩んでいた友人も、私と同じころから保険の仕事を始めました。今彼女も迷いが消えて、保育園に入れてでも働きつづけたいとハリキッています。彼女の夫は働くことに大反対でしたが、始めたなら、結構協力しているようです。仕事か家庭か、パートかフルタイムか、いつも議論されていますが、適材適所というのでしょうか、自分に合った仕事が見つかったときは、悩まず迷わず進めるのではないかという気がしました。

生きづらい！

東京都世田谷区 遠藤 章代

(タイプリスト)

三十八歳にもなるというのに子無し、男無し、かといってまともな仕事あるわけでもなし。結果金もない。あるのはいざる離婚歴のみ。

昨夜は一睡もできなかった。これ以上働いていくことに恐怖を覚える。しかし死ぬわけにはいかないのだ。生きている以上金はずきものだ。その金を稼ぐためには一日だってムダにはできない緊迫した現実がフルフル嫌になった。

フリーといえはきこえはいいけれど、言い換えれば日雇い労働者にすぎない。今日も、週一、二度の貴重な収入源であるところの仕事に出かける。しかし、朝から仕事がない。先週もそうだった。そういえばその前もほんの少し。そのうちにどうも私を意識してそうしている雰囲気があるようにやけに攔めてきた。

使いたいものにならないというのなら話もわかる。が、そうでないならば、数いる女子社員の中にいて、この底辺ではいくばっている新入りの私が、どうして意識されなければならないのか。そのことがやりきれなかった。私より古株でかつ年上の女子社員も何人かいるのに。それともやっぱり辞めてくれということか。首にするならばすれぱいいと私は開き直る。それにしてもこれらは一体どうしたことか。

このつまらない人生を楽しく生きる秘訣は好きな男と好きな仕事を見つけることだという言葉に共鳴して、唯一支えに頑張ってきたけれど、まだ一人。一方の仕事はこの有様。

思えば、なんとかまともな仕事ができるようになったところから、おかしいこと

に生きづらくなった。しかし、それだって年相応だと思っから、じゃ他の人は何んなんだと腹が立ち、ガックリとくる。

加えて男の働く女に対する偏見。個人的なつきあいをしている男性は別として、仕事に関してのめいえば、女の敵は男だ。

私の仕事の仕方がまちがっているとは思えない。それとも中途半端なのか。このまま踏まれても踏まれてもつき進むべきか。女は成功や成長の夢を見てはいけないのか。女だって希望というものがなかったら生きられない。それとも、それらの全てを男性に任せてそのアシスタントに徹するべきか。

いつもこの辺のところで壁にぶつかる。私は平凡な女。だからいつまでたってもこの底辺の生活から脱け出せないのだ。働くことに行きづまり、生きることが空しくなった女にアドバイスを、

お待ちしております。

(え・岩本節子)

投稿ホットライン——あちらを立てればこちらが立たず

対話のページ

はじめまして……

宮城県仙台市 横山 友子

「わいふ」を読みはじめて七冊目、はじめての投稿です。「言いたい放題」「書きたい放題」「自由奔放に書いてよろし／＼」と聞いただけでも嬉しくなりました。近ごろの「わいふ」は少し強くなりすぎたという意見も二、三ありますが……どうでもいいアクビまじりに読むようなものが巷にあふれています。そういう意味で「わいふ」はもっと迫力があっていいんじゃないかと思うんです。それが素人誌「わいふ」の魅力だと思うのですが……誰にも？ どこにも？ おもねる必要はな

いんでしょ、「マスコミむしる」というところも、もつとヒリヒリするくらいむしっていいんじゃないの、それと（少々飛躍するが）諸官庁の役に立たない「木ッ葉役人」も大いにむしるべし。歯切れのよい辛味のきいた論評をどしどし載せて下さい。これから私も少し書いてみたいと思います。私の場合書くことによって「恥をかく」ことになりかねないが、それは今後のたのしみとして……。

それから一つ提案、毎月発行という希望があるようですがページ数をふやして回数は現在のままでいく、というわけにはいきませんか。それと投稿者（愛読者）の意をくんで、相なるべくはボツにしないで……とおねがいできたらしいですね（励みになりますもの）、次号送りとかで、それも添削なしで……。

「自由奔放に書いてよろし／＼」と謳っておいで「添削することもある」とはどういうことなの、「素人誌」ですもの、ナマのままで、といきたいですね。

見栄や体裁を考えず、ズバリ直截に本音を書いてくれる人、私は大歓迎なんです……。『わいふ』の特色は完全な言論の自由を守ること、それと「思想、信条を問わず」と素晴らしいことを謳っているのですから……期待しています。

一九七号の宇田川さんへ

東京都杉並区 佐々木淑恵

私としては、反論が来ることをむしろ期待して書いたので、お寄せ下さった宇田川さんに感謝します。私も勿論、子供を無キズで育てるなんて無茶は申しません。幼児は言わなくても外でケガを作って帰って来ますし、それによって対処法も学ぶでしょう。でも、赤ん坊の場合、ひとりでお湯を沸かしてお茶を

飲んだり、お風呂に入ったりするわけではないので、ヤケドなどは、親の心掛け次第で防げるはずですよ。しかし、それが起きてしまうことは、人間ですもの、当然あります。問題にしたかったのは、そんなときの親の態度です。

私も、自分の不注意で子供に傷を負わせてしまったら「起こるべくして起こった事故」などと平然としてはられません。猛烈に反省して子供に謝りまわると思います。高見沢さんだってそうしたに違いないと思います。が、そう思えなかったのは、まず「起こるべくして云々」の引用例としては、全く相応しくない事件だったからです。そして、そのときのご自分の態度についての説明もなさらなかったで「無責任」だと感じたのです。宇田川さんの書かれた①③については、まさに私も同感した部分です。母親が働くことについて批判するつもりなど私にはまるでなかったのですから。それから「親の不注意によるケガ」を「跡になる体罰」「心に傷を残す仕置き」と一緒にするのは適当でない

のご指摘ですが、よくお読みいただければわかる通り、すべてを混同したのではなく、危害にも似た「親の不注意——」は後者に匹敵するのではないかと思うので、私自身の自戒もこめて、一緒にしたまでです。

偉そうなことを随分書いてしまいました。が、本当は楽しい文章を書きたいと思っているので、これからはそちらに身を入れます。宇田川さん、大変勉強になりました。ありがとうございます。

頼りにしてます！

千葉県君津郡 山下 綾子

「わいふ」一九七号の読後感を言わせてネ。直感的に「総じて筆者連のレベルはかなり高いな」とウキウキしました。

証券貯蓄アドバイザーの反乱を前号に続いて拝読。この筆者は、積極的な自免脱皮を続けながら成長していく、自身の人生を創作するタイプの女性だと。そして彼女自身のそう

した生き方は、大なり小なり、同じような資質を内蔵している人たちに好影響を及ぼしていくはずだ、と、非常に嬉しくなりました。

オセロ夫妻を奸計を弄して悲劇に追い込んだイヤゴー型のOという女性。このタイプもまた天の配剤としてのいつの時代、どの国にも必ずいるもんでしょう。Oの性格も、ヘッピリ虫が毒臭を発する器官を、生存の必須構造として、生まれながらに持っているのと同じようなもので、これも創造主のサジ加減による種の一パターンじゃないですか。だからOのような人種に出くわすのは天災のようなもので、いつ、どこで、どのようなかたちで



巡り合うかは予測がつかないでしょう。

もし会っちゃったときにはどう対処するか。せいぜい相手のペースにまき込まれないように自己訓練を心掛けよう、と思いました。

この筆者に拍手を送りたいのは、彼女の発言は愚痴ではなくて、義憤に基づく警告という冴えた姿勢が一貫しているからです。考えようによってはOなる女性、気の毒ですよ。

豊田商事の会長さんと異種同類だから、憎悪を誘発し続け、いずれ自ら墓穴を掘るようになるでしょう。創造主のおぼしめしで幸いなのは、自身の中に巣くう滅びの要素、これに気付いて方向転換をする、その気のある者にはその道が選べる、という選択の自由が誰にも与えられていることですよ。それを思うとこの文章は、Oなる女性にこそ読んで欲しいと思います。

親のホンネ、わいわいガヤガヤ、ニワトリとの闘い……など笑いながら楽しませていただきました。笑いすぎて先を読めなくなってしまうのが「ワンポイント情報」の靴の話。全体にみて「わいふ」の内容構成はバラ

スがとれている、と思いました。第一線の主婦ならではの「作りごとでない笑いの要素」が、とびとびにうまく配されているので、マジの後、くつろいだり。その盛りつけ配膳ぶりが嬉しいですね。

編集スタッフがこの美質を自覚して、あるていど自信過剰きみになればぐんと飛躍するだろうな、なんて思いました。なんでこんなに肩入れするかと言いますと、私は「わいふの読者です」と胸を張って言いたいためなんです。頼りにします！

私は怒りを感じません

神奈川県横須賀市 細野 清美

「結婚生活の中の異性」特集は、（予想以上に）「すごいなー」というのが第一印象でした。でも、もう一度よく読んでみると、ここに登場してくる人たちは、昼メロに出てくるような単なる人妻の浮気とは違うと思います。

もちろん、そのこと自体は正しいことではありません。夫婦円満に過ごせたらそれに越したことはないでしょう。でも、どんなに努力したって、うまくいかない場合もあるのは仕方ないし、また、その努力は、どちらかというと、いつも女性側にばかり強いられてきたように思います。『女は我慢』『一度嫁したら……云々』と。

特集に投稿してきた方々は、夫とは心が通じ合わぬ故に、どんな他の異性にのめりこんでいくようですが、それでもこの方々は、的確に自分のこと、相手との関係、性についての考えなどを、素晴らしい筆力で書いていました。私には「理性を失った野性の動物」のようにとは思えず、その底には、「生きかたとしての愛」があると思いました。

現象面を批判するのは簡単です。が、誰も『それ』を、最初から望んでいたことではないでしょう。充分、苦しんでいらっしゃることでしょう。

夫と円満にいかないことは不幸なことですが、では、逆に円満にいつてたら、他の男性

は異性としてうつらないはずだという酒井さんの説には首をかしげてしまいます。それでちょっと寂しくはありませんか。円満にいつたって、素晴らしい男性に出会えたら、異性としての魅力は感じるし、自分も相手にとって異性であるという緊張感は、素敵なものに思えます。

妻にとって、夫以外の男性と話をすることは視野が広がるし、精神がリフレッシュされることもあります。

私もあることで知った男性ですが、もう一度、ゆっくりいろいろなことについて話をしてみたいなと感じている人がいます。私から電話するのちよっと勇気のいる状況ですが、でも、その人とは共通の話題もあるし、やっ



ぱり、もう一度会ってみたいと思うこのごろです。

こんなこと主婦が堂々と云えるなんて、主婦も少しは解放されたというか、感無量です。いけませんか？ 酒井さん。

危険なことですか？

「書きたい動機」が

不純にみえる

東京都新宿区 堀内千恵子

一年くらい前の新聞記事に「硬派の投稿誌『わいふ』という表現があって、『わいふ』には大いに期待していたのですが、一九六号の特集「結婚生活の中の異性」には、正直言って、がっかりさせられました。これでは、そこらへんの女性誌と大して変わりありません。昔、堅い記事を書いていた『婦人公論』でさえ、浮気の手記をのせる雑誌に転落(?)してしまっただのこのごろです。わいふ編集部にも、浮気肯定論者がいらっしやるでしょうし、浮気もできない人に、いい文章など書けるのは

ずがない、という声が聞こえてきそうです。

世の中には、いろいろな人がいます。彼女たちの生き方を否定するつもりはありません。道徳的なことは、一九七号で酒井さんがすっかり書いてくださったので、省略します。道徳を別にしても、なお、こういう手記が不愉快なのは、書きたい動機が不純なようにみえるからです。

自分は、メスとしていかに魅力があり、男たちを引きつけて離さないか、を自慢したい気持ちがある見えだからです。「私はこんなにいい思いをしているのに、ほら、あなたたちにはできないでしょう」と、読者に見せびらかして、けしかけているようにみえます。

さらに勘ぐらせていただと、書き手たちは、このピリピリ緊張した三角関係に疲れ果て、この関係のどこかを壊したい気持ちも同時にあって、暴露しているようにも思えます。また別の見方をすれば、夫と愛人の間を揺れ動く心を綿々と書ける人たち、複数の男たちと交渉の持てる人、夫を平気でだませる人たちには、案外、小説を書く素質があるのか

もしれません。悪い表現ですが、小説とは、虚構の中で嘘を作り出し、それをあたかも真実であるがごとく、まことしやかに書いて、読者をだますものなのでしょう。既成道徳に反することも、小説のテーマの一つですね。

世の中にはさまざまなことがあるのに、メスとオスの関係だけを最上だと考えて、虫めがねで見るように、そこだけを拡大させて生きるの、不自然だと思います。

「県人差別」反省します

神奈川県横須賀市 原楨悠美子

一九七号、尾坂さんの県人差別を読みました。と同時に、先日、市内の公民館で作家の落合恵子氏の講演を聴き、その中で差別のことを考えさせられました。

部落、障害のある人、人種（在日外国人）に対しての差別、こういう少数派の人々が社会の片隅で生きている。

落合さんは母子家庭で育たれ、祖母が四年

前に七十九歳で亡くなられ、長年教師として携われ、その間、家庭の事情で学校へ通えない子供達のために、自宅を開放して面倒を見られた。七十歳からは障害のある子供達のために携わってこられた。四人の子供さんの長女が落合さんのお母さんで、落合さんがアルバイトしながら大学を卒業して、出版会社を受けるが両親が揃ってないということで入社できなかった。その後、文化放送に受かって八年間の〇しの後、作家生活に入られる。

講演の中で、差別のことを強調して話しておられたのが印象に残った。

誰だって自分の生まれ育った土地には愛着があり、長年住んだ土地にも誇りを持っている。けなされたら腹が立ちます。

私も尾坂さんの文章を読んで大いに反省させられ、落合さんの講演と共に考えさせられました。



正しいか正しくないか

愛知県刈谷市 原 真智子

一九六号特集に関する酒井さんのキビシイお言葉、はとほと感じ入りました。全く真面目な、道を踏みはずさないかたなのです。でも、私の考えも聞いて下さい。

法的な届出をした一对の男女が、双方とも厳しい貞操を守り合うのだけが理想的な異性関係だ、とは思えないのです。たまたま現在の日本では、習慣や法律や多数の人の意識の点でもそうした間柄が奨励され、強化される方向をもっているのは確かです。けれども、時間と空間の枠をはずすと、人間は家族にも異性関係にもずいぶん様々な考え方をし、実践もしてきました。

アメリカなどでは、離婚の増加に伴って単親と子供の家庭がふえ、家族の枠組みも変化しているようです。また、日本でも平安朝の貴族社会を考えてみれば、現代とは全く異な

る性の軌範があつて、源氏物語が明治以降に正当に評価されなかったのはそのためだ、と考える人もあります。

人間は太古から全く同じ営みを続けてきたのでしょうか。「産業社会が到来すると……愛と結婚と性とは緊密に結びつき、そのことが、性による分業を前提とした社会では、女性の利益を保護するための唯一の道でもありました。……一夫一婦制のモラルが形成され、理念としては男女とも貞操を守らなければならない、とされました。……私たちが人間の本質にもとづくものと考えがちな性のモラルも、歴史の流れという大きな視野でとらえなおしてみると、結婚や愛、性の本質を考えていくうえで大切なことでしょう」(金城清子 法のなかの女性)。私はこの言葉に同感です。万古不易のように見える道徳でも、根底にある社会のしくみが変われば、やはり変化し得るのです。

私は今、自分がいわゆる貞節を守っているのは道心堅固だからだとは思いません。偶然それが私の趣味で、過去もずっとそうだった

からです。見方によっては、完全な男女平等が達成されていない現在では保身の術と言えないこともないでしょう。

何が正しくて何が正しくないのか。これこれの場合には、という限定つきでないと断言できないような気がしているのです。

オバーチャンからの

メッセージ

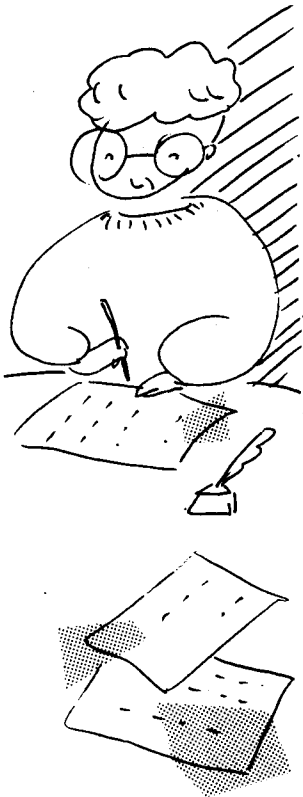
山口県防府市 オバーチャン(62歳)

皆様、はじめまして。しわしわして、頭のが先が薄くなった亭主でも、れっきとした夫持ちなのだから、私も、ワイフとして仲間に入

れて頂いてもよろしいのじゃないかと思つて、この度、NHKのおはようジャーナルで紹介して頂き入会させて頂きました六十二歳のオールドワイフです。

早速、一九七号を送って頂きました。楽しいそんな記事が誌面一杯に溢れ、もう、笑えて笑えて。私が皆様位の頃は「こらえろ」「したgae」「ついてこい」の一言で決められてしまつて、思うことも言えず、気がついたら年を取つてしまつて、くやしいけれど、仕方ありません。

今頃の若い方は、WIFEのような本に恵まれて、羨しいと思います。おくれはせながら、参加します。せいぜい、貴女様の、口う



るさい姑の無駄口とおぼしめして、聞き流して下さいませね。

うちの悪ガキ「読書も過ぎたる」の河野様何と素敵な利発なお嬢様をお持ちのこと。お母様が、自信を持って「学力は心配なし」とおおせられる、満足気なお気持ち、胸に響きます。テレビ、マンガに夢中になって、読書など思いも依らぬ近頃の子供の中で、全く、希少価値の素晴らしいお嬢様です。

実は、我が家も、かつて、息子の幼い頃、そのような読書で困ったことがあります。男の子のくせに、野球や外遊びを見向きもせず、ただ、ひたすらに読書なのです。ついに、分厚な六法全書まで手を付け出したとき、もうこらえ切れず、担任の先生にご相談してしまつたのです。小学四年の時でした。ところが先生は平然と「結構なことではないですか。本を読まなくて困ると相談なさる方の方が多いのですよ」とかえって諭されてしまいました。

私も、そういうわれて改めて考えを直しました。ただ、ほうっておけませんので、息子と約

束を致しました。読書時の姿勢、採光に十分注意して近視にならぬよう身を守ること。ただ、本を沢山読むだけでは、読んでいるつもりが読まれている場合もありますから、本当に内容をわかって読んでいるのか、どの位理解出来ているのか、また、その理解し、考えたことを、どの位、表現することが出来るか、ということですよ。

小学校も、四、五年になると、読書感想文とか、作文のコンクールも行われますから、そのような時には応募させてみるのも一方法です。自分の読書が、本物の読書であるのか、どこまで考え方を発表出来るかに挑戦させてみると、読書の仕方にもぐっと深みが出てきて、手当たり次第ではなく、一つの系統立てた読書の方法を自分なりに求めるものです。

高学年になると読書だけでなく、読み得たことの表現力をも求められてきますから、聡明な（きつと、そう思います）お母様、うまく指導してあげて下さい。

尚、少々、だらしないみたいですが、これも早目に話し合い（勇気要りますけど、今の

内に）その性格を少し直しておくことです。

つまり、文が読めて、書けて、の方に往々に見られるのが、きちんとしない、ルーズなということがあります。次第に上級の学校へ進むと、その性格は、思わぬ落とし穴になります。

たとえば、数学でも、コンマ一つ、プラスか、マイナスかの符号一つ、うっかりしても、十点、二十点差引かれ（私の息子もそういう目にあったことがあります）オールラウンドな点が取れにくくなります。

え、私のところの読書好きの坊や、どうなつたかですって。……というやり方をしましてね、書く力どんどん伸びて、論説文などもバッチリ、トー大（大吠岬の方のトー台ではない）に一発……これ本当。今は、もう、法学や政治の方で生活しています。とにかく、素晴らしいお嬢様の為に乾杯！ オバーチャンからよろしく。大切に育て上げて下さいませ。

（え・カステラネンコ）

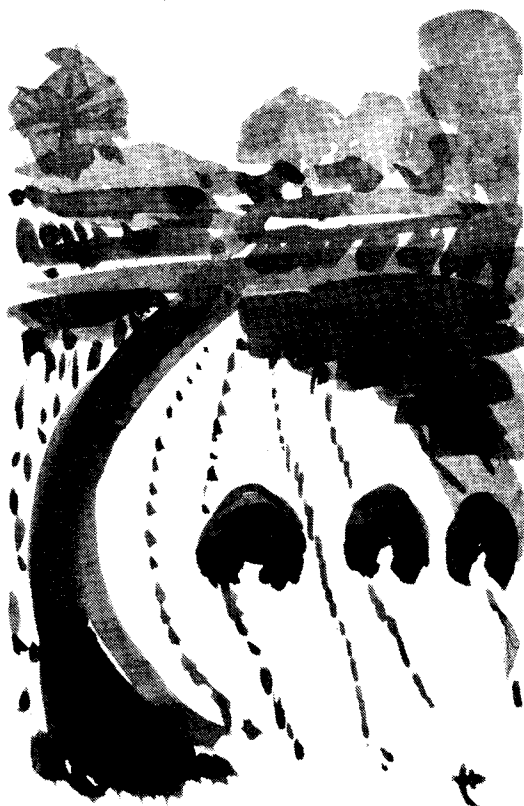
特集
長男の嫁



農家へ嫁いだ私

岡井美代子

奈良県天理市



農家に飛び込んで

「おまはん、それ何本植えてんの、そんな植え方では、かじられへんで」と、姑が苗をボンボンと私の後に放りながら言った。うつむいて苗を植える私の手は五本が六本になり、田植えの列は乱れて、蛇がのたかったようになってしまった。大海のように感じる田んぼに、板のようになった腰をさすりさすり泥の足を、抜きさししながらの田植えは、慣れない身にとって重労働であった。こんなはずではなかったのにと不甲斐ない身に、ひとり涙が頬を伝わり、泥と涙でますます田植えの列は乱れてしまった。そんな私に舅は「田植は少々曲がってたかて、米さんはできるさかい」となぐさめてくれた。一人前のつもりで嫁に来た私だったが、朝早くから太陽と共に起き、土に親しみ、植物を育ていとしむ両親に、なかなかついていけなかった。「植物には命がある。愛情をもって育てたら、それに応えてく

れる。わしらはそれが楽しみなんや」と両親は言っていた。少々気分がすぐれぬときでも、「畑へ行くとな、気が晴れ晴れしてうとうしさもとんでってしまふんや、のびのびと青空にのびる作物見るとすつとする。一日でも見やへんだら淋しいねん」と、楽しんで農業を続けていた。そんな両親に、都会から来た嫁は、さぞたよりなく齒がゆいことであつたろう。

生いたち

私は、大正末期東京の砂糖問屋の長女として生まれた。父は十人余りの雇人を使い、何不自由なく過ごした子供時代だった。身体が弱いからといって、舞踊を習わせ、物心ついたといつて店の者の自転車を送り迎えて、私立の幼稚園へ三年も通わせてもらった。母は武家の子孫の出とか、言葉づかい、行儀作法に厳しく、几帳面で掃除が好きだった。

「女が大声でしゃべることは慎むこと」

「人のいるほうに足を出さぬこと」「物事には積極的に当たって、出しゃばらず勉強努力」と言われつつ育てられた。そんな環境に、私は自然に努力する娘に育っていった。

女学校の三年生の時、第二次世界大戦へ突入、いやが応でも、戦争の波にゆさぶられていった。戦争は、ますます苛烈になって、専門学校では学徒動員で工場にかり出され、勉強もできぬまま、終戦と同時に繰り上げ卒業、空襲で廃墟となった東京から、父母の疎開先である茨城県へ身をよせることになった。

東西へ散った学友の安否を気づかっているころ、親友から、兄が復員して来たから、是非私を、兄の嫁にきてほしいという依頼があった。丁度私の兄も復員したのを機会に兄の嫁に友をと、私と入れ替えて夫々の兄に嫁ぐことが、バタバタと決まり、私は、思いがけず遠く奈良の土地へ、それも辺りな農村へ嫁ぐことになった。そして親友は、私の兄のもとへ、

焼跡へ、リュックサックを背負つての輿入れであつた。

世間体

さて農村へ来て、私は手も足も出なくなつた。しっかりものの姑は「人様に笑われないように、慣れるまでは外に出ないほうがいい、外へはわしがいくから、当分家の中のことでだけしてたらええ」と、近所付き合いから、買物、親戚の用事一切、何もかも、自分一人でこなし、嫁をかばってくれるのだったが、知らぬ土地で、姑の方言すら外国語のような私には、どんなに淋しかったか。

「村の人と会うたら、おまはんから頭を下げるんやで、物は言わんほうがええ、若いもんが頭も下げんとしてたら、えらそうにと笑われるよつてに」「茶の間の真ん中に座つたら笑われるで。嫁の座る場所はず片隅やねで」「昼は新聞読んだり、物書いたりせんことや。お日さんのいやはる間は仕事をすることや」「掃



除ばかりしてたら、銭もうけにならんやろ、ほどほどにして、もっと生産することしや」

と、世間体を気にし、少しでもよい嫁に躰けようと、精一杯教えてくれたのだったが、一挙手一投足まで注意を受けるとのんびり、自分のしたい放題に勉強することのみに過ぎた娘時代と百八十度の嫁の立場の違いに、何か淋しい毎日だった。一人前に認められない、人一倍積極的に勤勉努力を母に躰けてもらったのに、と思うと情なさがかみあげ、母を思い出し、こんなはずではなかったのにと、切

なかった。

姑はただ娘ととりかえた嫁を育むため、意地悪でもなければ、にくむわけでもなく、心から嫁をいとしんでくれたのだったけれど、田植えにしても、田刈りにしても、「おまはんは人様の目にかからんように道端でなく真ん中を刈りや、道端はわしが刈るさかい」と世間体ばかり気にする姑に、なんで他人の眼ばかり気にして生きていかねばならぬのか、世間様ってそんなに大切なものかと、人前にも出られず一人前として扱ってもらえぬ、不甲斐なさが無性に悲しかった。

大空に翔ける

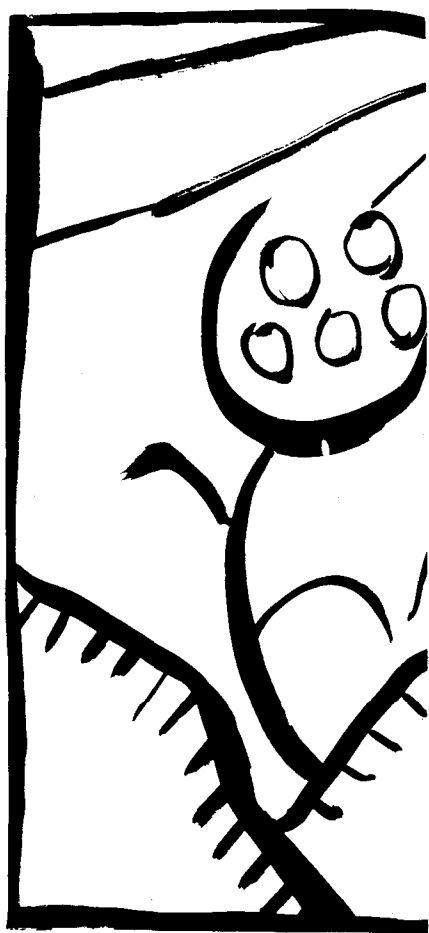
自分というものをさらけ出して、世間に出る場が欲しい、笑われた方がいい、失敗した方がいい、やりたいことがやりたい、井戸の中の蛙みたいに大海知らずはいや、大空に翔ける鳥をどんなにうらやましく思ったことか。子供が生まれ、やっと親になって、子の母として認められるようになった。幼稚園、小学校に上がるようになり、父兄として出席する私を、世間は親として認め、一人の人格を認めてくれる。子供の入学より以上に、自分が世間に一人前として通用出来る嬉しさに、この上なく喜ばしい入学式だった。

母譲りの努力と積極的な性格から、封建的な農村にも慣れ、農業にも慣れ、どうやら一人前の嫁として、通用するようになってきた。そしてPTAの役員にも推され、婦人会の役員にも推されていた。

姑はもうすっかり一人前に育った嫁が自由ののびのびと世間に活躍することに口を挟まなかった。

封建性

井戸の中の蛙が大海に泳ぎ出たように、世間の中に自由に自分の本領を活かす場を得たのだったが、近所姑というののだろうか。「都会から来た嫁はんが、何やら威張りくさって料理講習とやら家の嫁を引っぱり出して」と、封建的な嫁いびり



の姑達の矢面に立つことになってしまった。
両親は「自分の才覚で対処していったらいい、何も遠慮することはない」と、その時は陰ながら私を応援してくれた。私は、嫁いだころ、あんなに世間体を気にしてかばってくれたのは、このようなことを考えていてくれたのだと、今更のように、両親の有難さが身にしみたのだった。

封建的な近所姑も、しも手から頼み込むよう一軒一軒回って努力したこともあ

り、協力してくれるようになり、私は婦人会でも会長に推されていったのだった。両親の励ましとともに、農村の封建性が、高度成長の波に切り開かれ、崩れていったことは、喜ばしいことだったのかも知れない。

物のいのち

家事、育児、農事、社会へと私の充実した時代でもあったけれど、忙しさにかまけて、あわててよく茶わんをこわしたりした。「おまはんは財産を減らす気か」と姑は私をたしなめた。しかし、その言葉は私の脳天をたたかれる以上にきついものだった。

私はくやしくて、蔵の中の道具や姑の求めた茶わんなど、一式つかわぬよう、日常生活の道具は全部、自分の小遣いで買って使用することにした。

姑は新しくなった食器を見て「道具はこわせば、新しくなるわなあ、新しいのは気持ちええやろ。しかし物には命があ

るんやで。その物の持つ寿命を大切に生きてやらんなら、せつかく物として生まれた価値も作った人も不意やろ、何一つ手がけるかて、大切に物の命を尊ばにゃいかん、こわしたり捨てたりすることは案なことや。しかし寿命のある限り使えてやるということを忘れたらいかん」と諭した。私はケチな姑と思ったことを素直に恥じるのだった。

一生を働きぬいた両親

実直に、ただひたすら働くことのみを教えこんでくれた夫の両親と共に暮らした年月は、私を生み育ててくれた両親といた年月より長くなってしまった。

違う環境に飛び込み、朝早くから夜遅くまで、植物を育てることに生き甲斐を感じ、太陽を生物の親として感謝する心を培い、何でも、もつたない、ありがたいという農村の純朴な両親に仕えて、噛み合わない歯車を、一生懸命噛み合うよう、涙をこぼしながら、三十五年一緒

に暮らしていくうちにうまく歯車も回転するようにになった。

そんな嫁を息子以上に親しみ育ててくれた姑が、ある朝、突然、心不全で他界してしまった。あまりのあつけなさに、まだまだたよりきっていた私は、「おばあちゃん眼をあけて、何か言って、しゃべって」と、しがみついて泣き叫んだが、姑はもう眼を開けてくれなかった。その時、呆然とした舅が「わしも死にたい、一緒に棺桶へ入れてくれ、生きてもしやない」と言い出した。私はあわてた。「おじいちゃん、何言ってるの、そんなこと言わんといて、おじいさんまで墓へ入ってしまたら、この家どないなるの、おじいさん一人になって淋しいやろけど、私おばあちゃんの代わりするさかい、そんな悲しいこと言わんといて」と私は必死で舅にたのんだ。

舅は涙でグシャグシャになった顔をあげ、「そやな、お前らがやったなあ、お前らのために生きんならあかんなあ」と、

私の手を握りしめた。ごつい百姓の手だった。土に七十八年生き抜いた舅の手のぬくもりの中に、労働の尊さを、今でもその感触と共に思い出す。

それから三年して、舅も胃癌で倒れ、息子の主人と、嫁の私に看とられ、安らかに姑のもとへと旅立って逝った。

私の役割

姑につづいて舅も永眠して、家の重みが、どっかりと私の肩にのしかかった。こんな家から、飛び出したいと、嫁いだ当時はどんなに思ったことだろう。

娘は「おばあちゃんが死んだのではなくて、おかあさんがいなくなつて、おばあちゃんが生き返つたみたい」と、私がすっかり姑の代わりになっている様子や、そのままの仕ぐさにびっくりしていた。

知らず知らずに私は、この家の嫁として姑の歩んだ通り、歩いていくのだろうか。

両親が育て、伝えたものは、新しく変

わる時代に、自然に崩壊しつつあるけれど、その底に流れている人情とか、先祖をうやまう気持ちは、自然に私達の中に伝えられているのだろうか。

現在、娘に婿を迎え、孫も二人、にぎやかな家族であるが、農業を若い者に強いることもできず、私達の代でどうやら終わりそう、いろいろ悩み苦しんだ世間体も崩れてしまっているが、世間様に顔向けならないことは、つつしむこと、これは何時の世にも変わらない。しかし「物の命を大切に」と教えてくれたことは、どうなってしまったのだろうか。

高度成長の新陳代謝のはげしい時代、使い捨ては美德とまで言う時代に生きて来て、私は、かつて姑に不注意で道具をこわしたときに、財産を減らす気かとまで言われ、悩んだこともあったものが、今も蔵の中で大きな場所を占めふさいでいる。

若い者に言っても「こんな古くさいもの大切にしておいて」と、一笑に付さ

れるかも知れないけれど、私には思い出多き品の数々である。墓の中の両親は、この無駄の多い消費天国の世を、どのように見ておられるだろうか。

暖かい太陽の恵み、生物をいとおしむ心、これは人間が生きていく限り、無限のものだろう。伝えられたこのようなことを、少しでも大切に守り、若い者に伝えていきたい現在ではあるが、あまりの

目まぐるしい変化に、とまどうのは私人ではないであろう。一徹に生きた明治の両親より、そのかけ橋である中間世代の私達のほうが、その伝え方は、むしろいいのかも知れない。さじを投げたくなることも多いけれど、暖かい心、そして何ごとにも、もったいない、ありがたいと姑の口ずさんだ心を、孫たちに育んでいきたいと思う。



せ

舅姑より世間がこわい

東京都杉並区 山本 陽子



「耐えない」ことどうまくいく

「長男の嫁」として何か行動したことがあったかしら、と思う。そういえば、義母のお葬式のときにきちんと喪服を着たっけ。それ以外、「長男の嫁」ということを意識したことは、ほとんどない。

嫁と言えば、すぐ頭に浮かぶのは「おしん」。「おしん」のように耐え忍ぶのは、昔も今もさして変わらない一面のようだ。

「ようだ」と言うのは、私には「じっと我慢の子」という経験がないからである。それでも同居するにあたって、何にもトラブルがなかったわけではない。やはり、核家族で六年余り過ごした気楽さは何とも捨てがたい。「遠くの親戚よりも近くの他人」という感じで、親しくおつき合いさせて頂いた人もいる。だから、同居するにあたっては、私は、いの一番に反対したほうなのである。

「まだ早過ぎる。もう少し子ども達が大きくなってから」(当時五、三、一歳)。

今思うと、おかしくない。どうやら疑心暗鬼だったようだ。同居してみれば今が最高、と言っているくらい。

と言っても、最初から何でもこううまくいったのではない。半年経ち、一年経つうちに、とてもうまくいくようになってきた。それは、まず第一に、本音でぶつかり合えたからだと思う。

私自身が、生来、我が強い、このうのか、自己主張がはっきりしている人間。

とても「耐える」タイプの人間ではない。少しでも疑問に思うことがあれば、即その場、あるいは遅くも二、三日以内には、夫の父や夫の妹と相談をする。二人とも、何でも相談ののってくれる。だから助かる。ときには、結構、議論めいたこともする。たとえば「いじめ」のことなど社会的な事やら、家庭内での嫉の点にも話題は及ぶ。こうやって、じっくり腰を据えて話し合いをすると、お互いに考えの違いははっきりする。たいていは、多くの点で共通点がみつけれられる

だ。こうして段々と信頼感が増してきたように思う。

独立した住まいの大切さ

第二に、同居するにあたって「生活時間的大幅な違い」を理由に、同一敷地内であっても、各々独立家屋のようにしたことが、成功した大きな原因だと思う。

（独立家屋とは体のいい言い方で、実際は縁側づたいに往来できる長屋である）。

当初、これは私達長男夫婦の相当な我儘を許してもらった、と思った。しかし、これは確かに大変なわがままには違いないが、同居を成功させるにはかなり重要なポイントではなからうか。私の知人宅のほとんどは、同一の台所をめぐる嫁姑のトラブルで失敗している。ときには、実際信じ難いことだが、殴る蹴るの争いにまでなってしまったケースさえある。挙げ句の果てに、別居に至る場合も多いようである。

我が家の場合は、義父（六十九歳）も

義妹（私と同じ年）も、どちらかというところ早起きが苦手。それもそのはず、義父は夕方五時半〜九時半の郵便局のパートの仕事。義妹は午後二時〜七時くらいまで自宅でピアノを教える仕事。こういうわけで、二人の夕食は九時四十五分からだから、どうしても夜は遅くなりがち。ちなみに、我が家の夕食は、大体五時半ときている。

これだけ違うと食事も風呂も別で良かった、とつくづく思う。お互いに生活のリズムの確保ができて、しかも昼間は縁側づたいに双方が何十回となく行き来する。つかず離れず——これでこそ「いい関係」が保てているように思う。

こうやって考えてみると、私は実に恵まれている。義父がボケているわけでもなし、まして、毎日の世話は今のところ実の娘がしているわけだから。こちらは、むしろ、毎日のように義父が三人の子どもと遊んでくれたりして大助かり。

「身分」ぬきの人間関係

何と言っても一番助かるのは、義父も義妹も、私のことを「長男の嫁」というふうに特別扱いしないことである。大げさに言えば、そういう「身分」とか「肩書き」というようなものを剥ぎ取った「私」という一個の「人間」を認めてくれているように思う。それが何よりも一番有難い。嫁舅というよりも人間同士のつき合いをさせてもらっている。家事、育児、どれをとっても下手で、おまけにドジときている。

い・わ・ゆる・昔・風・の・舅・姑・の・所・で・は、私・な・ぞ、とても嫁として勤まらなかつただろうと思う。とどのつまり、義父も義妹も私のことを「長男の嫁」というふうに意識せず、私に心を聞いてくれているからだ、と思う。

思えば、一年前に、私にお芝居を観に行かせてくれた人達である。しかも、六、四、二歳の子どもの達の子守りまでして

れて、「主婦は毎日家にこもってばかりでストレスがたまるから、たまには行っておいでよ」と行かせてくれたのである。嫁をあごでこき使い、いびり出す人とはまさに雲泥の差である。

これだけ家庭の中で本音が幅をきかせると、逆に私にとって辛いのは「世間に出ること」である。「長男の嫁が、なんているの」と言われるような、そういう建て前社会に出ることのほうが、よっぽど辛い。

家での雰囲気が当たり前と思って、つい、外で本音をぶちまけたり、ちょっとでもしゃべり過ぎようものなら、「あの人は変わってる。お堅い人だ」だの「口うるさい人だから、気をつけろ」等々の噂があとあとまでついて回る。「世間では、そう簡単に本音をしゃべれないものだ」と思い知らされた。

日本のどこでもそうなのか、それとも、私の身の回りだけなのか？ 学校のPTAの話し合いにしろ、近所付き合い

にしろ、まして家の中でさえも、本音を吐けば、たいていは白い眼で見られるのが落ちのようである。そういう意味で、義父と義妹は私にとって実の親よりも話がかわってくれる、本当に得難い人なのである。すべて同居してみても初めてわかったことである。

それでも、である。こんなにも恵まれているのに、子ども達にお菓子をあげ過ぎて困るのよ」等と夫に愚痴るときがある。そういうときは、必ず、二人への感謝の気持ちを忘れているときである。これからも、縁側づたいに双方の茶の間を毎日何回となく行き来することである。二人への感謝を肝に銘じつつ、楽しくやっていきたい、と思っている。

(え・岩本節子)

マン・ウォッチング

自分の顔に責任を持て！泣かせる男の物語

コーヒーが苦い

東京都杉並区 海老根紀子

「よお」と声をかけられて振り返ると、高校時代の級友である。ある土曜日の午後、勤務先からの帰り道であった。彼とは三年前のクラス会で会って以来である。早速近くの喫茶店に入る。各々知っている級友について情報交換をしているうちは楽しかったのだが……。

彼はネクタイ背広をきちんと着こなしたインテリ風である。最近アメリカを回ってきたそうだ。「あちらはどう？」ときくと「うん索漠としてるね」と言う。

「ハイウェイがどこまでも続いて人家がないの？」ときき返すと、「いや、僕が行った所は都会だから東京と同じ」と言う。「それじゃあ、コンクリート・ジャングルって感じ？」。私は少々焦れてきた。彼は「そうじゃないんだけど、とにかく索漠としてるんだなあ」と済ましている。

さくばくという品物があるわけじゃな

し、状況を説明してくれなければイメージがわいてこない。話は具体から抽象へ移らなけりや面白くないんだよ。飲んでるコーヒーがだんだん苦くなつてゆく。アメリカの病院を見学したそうで、「あちらの看護婦さんはいいいよ。専門的な訓練を受けているからね」と言う。私は（日本の看護婦さんだって専門的訓練を受けているよ）と思いつながら「日本と違うの」とまたき返さなくちゃならない。すると「だって日本はそうじゃないでしょ」ときた。どうもかみ合わない。テキは相変わらず説明なしで「やっぱりアメリカ人はビジネス・ライクだね。厳しいよ」などとのたもっている。

彼がアメリカで何かを感じたらしいのは解るが、実例をもって話さないののでイマイチぴんとこないのだ。これは話術の問題なのか、それとも観察力の問題なのだろうか。他人事ではない。私もこれか別れてから彼の名刺の肩書きを見たら「部長」となっていた。

連載 ③

ただ一枚のチラシから

ポ－ラ化粧品と私

東京都日野市 山口洋子



思わぬ大役にとまどう

ポ－ラ化粧品に入社して、ちょうど一年が過ぎ、四季折々を飛び込み訪問し続けて「この仕事なら一生のものとしてやっていけるのでは？」と自分なりに自信がでてきた。それから三カ月後の昭和五十三年九月、私の所属している営業所の所長が東北の実家に引き揚げて、不在になってしまった。

責任者が不在というのは、いろいろな面で不便だし、営業所としては健全な形ではないということで、至急後任者を出さなければならぬ事態になった。正常出勤のセールスマンがたった三人と事務員が一人の事務所である。支店長と、私より二年先輩の社員と私の三人で、これからどのようにしようかと話し合いの結果、年齢が私のほうが高いし、子どもにも手がかからなくなっているからとの理由で、私が仮の責任者になって六カ月間

試してみようということになった。

今までは、仕事と趣味と家庭を大切に、家族に反対されながらも、マイペースで仕事をして来られた。ところが、仮といっても責任者になれば、自分のことだけではなく、事務所全体の売上げ金額にまで目を向けなければならない。また一番大切なのは、働く仲間を増やすことだった。

ポーラ化粧品の仕事をして十年以上というベテラン所長の面接のしかたをじっと見学させてもらったら、営業以外の職種希望の人でもみんな「営業で働いてみます」となってしまう、とってもスムーズな会話の流れのように見えるのだが、いざ私がしようと思っても、なかなかそうはいかなかった。

またたく間に五カ月間が過ぎ、正式に営業所を引き継いでもらいたいという話になった。それには、「所長候補者研修会」という、三泊四日のかなりハードな研修を受けなければならない。ここまで

来ると、家族の理解と協力なくしては、前に進めなくなってしまうた。

私が返事をしなければ、自分の働く場所がなくなってしまうのではないかという不安から、いやいや引き受けた。

実らぬ結果に空しさが

働く仲間を増やし、リードし、そして

販売実績を上げなければならないとなると、仕事が多すぎて、目まぐるしく毎日が過ぎ、どうしようもなかった。納得しなければ先へは進めない私なので、このときの悩みは今でも忘れられない。

セールスマンの収入は売上げに対する歩合給だから、自分の生き方によって、たくさんお金が欲しい人は、一生懸命売上げ額をあげればよい。私のように欲ばり人生の人にとっては、やりくりして趣味の時間をもつことをできるのが、何よりの魅力だった。

ところが責任者になってみると、営業

所というのは独立採算であり、一年を上期、下期に分け、半年毎に締め切る売上げ額に応じて売上げクラスが決まり、それによって本社から経費がもらえる。

私が引き継いだ営業所は、事務所と保育所のためにアパート二部屋を借り、事務員一人、保母一人が常勤していたので、経費がかかり、収入よりはるかに支出が多く、赤字続きだった。

このような状態から抜け出すには、営業の仲間を増やして売上げを上げ、無駄な経費は省かなければならない。身を粉にして働いているつもりなのに、むなしくてむなしくてどうしようもなかった。

石の上にも三年[＊]ということわざがあるが、これを信じて本当に道は開けるのだろうか？ 何とか早く赤字が解消するまで、売上げをあげることだと切実に感じた。

心豊かな支店長や先輩の所長の力を借りながら、何とか赤字にならない線までこぎつけることができた。でも忙し過ぎ

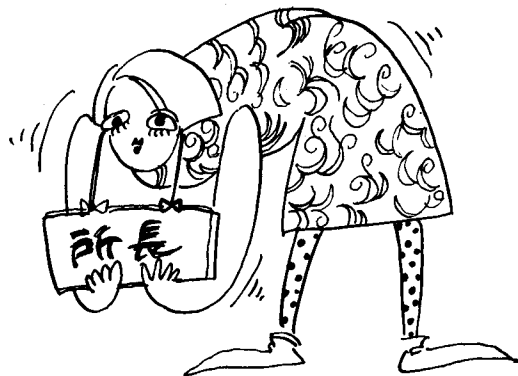
る所長職は私に向いてないと思い、悶々として二年間が過ぎた。

夫に相談すれば「すぐにでも止めてしまえ」と言われるのは分かっているのに、親友に話してみた。「貴女もやるだけはやっているのだし、自分の意志で決め、悔いのないようにすれば……」と言われた。

セールス・マネージメント、社員との接触、どの仕事も好きだし、慣れつつあるのだからこれからの一年間は、冷静に自分を見つめながら、ポララのシステムの良い点を見ていこうと思った。

親の後姿を見て子供は育つ」と言われるが同じように営業所の中では、リーダーの行動を見て、社員も動くのではと思う。「率先垂範」……ことばではとても簡単だが、実行するのはなかなか難しい。

はんざつな日々の業務に流されてしまうと、空しくて疲れだけが残るようになるが、自分の意志で対処していけば、さ



わやかさが残るように思う。私が前向きに明るい気持ちを持ち続けることによって、社員の皆も少しずつ変わってきた。悩んでくよくよ考え込んでいるよりは、体を動かして、ドキドキ緊張しながら新しい人との出会いをしているほうがよっぽど楽だ。

借金のできなかった私

ある日私のお客さんから「隣の市の駅前のマンションに引越したので、ぜひ来て欲しい」という電話があった。日時を約束して新築のマンションに伺った。美しいレンガ作りの十一階建てで、駅から徒歩二分という便利な場所だった。わきめもふらず目的の部屋番号を捜しながら八階まで行き、いつものように仕事をすませて一階まで降りてきた。

行きは夢中で周りは一切目にも入らなかったのだが、素敵な店舗が並んでいた。一軒が約九坪ほどの面積で、その中にモデルルーム案内所と書いた事務所があった。その前を一度通り過ぎたのだが、やじ馬根性から、どのくらいの価格のものが、参考までに聞いて帰ろうと、戻ってちよっと立寄ってみた。すると受付で、住所、氏名、年齢、職業を書き込んで下さいと言う。私は単に価格だけを知りた

かったのだが、大げさなと思ひながら言われるままにした。

そのマンションは一階から三階までは店舗か事務所で、四階以上が住居部分になっているとの説明だった。私がつび込んだ時点で「二階と三階に一室づつ空室があるので、見るだけでも見ていって下さい。ポラ化粧品店の営業所にはぴったりの雰囲気ですよ」と案内された。真っ白な壁が眩しく、とっても清潔な感じが気に入り、私もつい、「こんなきれいな部屋で化粧品が並べられたらいいな」と楽しくなってしまった。

ちょうどそのころ、私が事務所と保育

所のために二軒続きで借りていたアパートの保育所のほうを急に空けて欲しいと言われ、なるべく事務所の近くに安全で日当たりのよい部屋を探していた。

なかなか思うような部屋が見当たらなかったもので、いっそのこと、このマンションの一室を衝立で仕切って両方に使おうかと、急に思いついた。この一室を借りるには、保証金として百万円と月々の家賃が九万五千円で、買い取る場合は、二十五年返済で月々の支払いが十一万円ということだ。現在アパート代として約八万円を支払っているのに、三万円の差額はたいしたものではないように思われ

てきた。

営業所を動かすことができるだろうか。それにかんがりの借金額になるので、夫の承諾を得なければ、とても一存では決まかねる。その日はそんな話をして帰ってきた。

事務所に戻ってきて、支店長に電話をして、営業所を動かすことができるのかどうかを調べてもらったら、その駅の近辺にはポラ化粧品の営業所が三つもあるのだ、その地に移転するのは無理とのこと。家に帰って夫に相談すると「自分の力で何とかやっていけるのならいいよ」と言われた。次の日曜日に夫にも一

からだといのちと 食べものと 鳥山敏子

2月下旬発売 予価1500円

全ての生命あるものの鼓動につつましく呼吸し、互いの「生」をギリギリまで大切にしようとして、からだ一つで子どもたちに向きあう鳥山さん。その授業は、教室を学校を飛びこえて広がっていきます。

別冊 百姓になる ための手引

2月上旬発売 予価950円

自分の食べものは自分で作りたい。自分の頭と身体をフルに使って、小さな「農」の営みを積み上げたら、生きる手ごたえがえってくるかな。そんな人への具体的なアドバイス。予約注文はお近くの書店へ、「発売元・新泉社」で。

自然食通信26

1月25日発売 定価450円

特集 天からの賜り物
——酒(仮題)

年間購読は3300円(送料込)
を郵便振替で。

発行・自然食通信社

東京都文京区本郷2-6-10

☎03(816)3857 振替・東京5-78026

目見てもらおうと、いそいそと出かけた。いろいろ説明を受けているうち、自分でその部屋を何に使ってもよいように思いい、どうしても欲しくなってしまうた。

ところが担当者は「奥さんの収入はどのくらいのですか？」と聞かれる。年収を答えると、「それでは借金ができない」と言う。そして今まで私を相手に話していたのが、急に夫を相手に話しはじめた。「御主人なら十分できますよ」と彼が言ったとき、私は頭を一発ガンとなぐられたような気がした。

自分の中に甘さが

私達主婦が一步前進しようと思っても、なかなか世間では認めてくれない。借金をしようとしても私の働きでは全く相手にされないことがよく分かった。男女が同一賃金の公務員の女性でも、男性の半分の金額しか借金ができないとのこと。

私自身、忙しすぎて働いていたのは何

だったのか？と本当に恥ずかしくて、人様の前で「私は働いています」ということが言えなくなったと同時に、借金のできる男性っていいなあとしみじみ感じられた。

それまでは仕事に対する考えかたにも何となく甘え心が入り、私の収入がわが家であてにされていないことをいいことに、入ったお金は無駄遣いと衝動買いに消えていた。このときいやというほど、お金の大切さを知ることができた。

こんな甘い考えのリーダーでは、仕事を前向きにとらえて入社してくる後輩に対しても申しわけないと思いはじめた。マンションの購入を思いたったことは、私に、今まで分からなかった自分自身の「働く」ことに対する姿勢を見つめ直すチャンスを与えてくれた。このときから私は、職業人としても一步前進したのではないか、と思えてならない。

(え・万谷陽子)

● 朝日カルチャーVブックス ●

生き生き 暮らしてみませんか

女と男のワーキング・ライフ

松尾直嗣・松尾道子

男も女も仕事と家庭を両立させて、イキイキ・ワクワク暮らしてみませんか。結婚生活10年目、子育て真最中のニュー・サードティの弁護士カップルからあなたへのメッセージ。定価1100円



東京都千代田区神田司町2-21 TEL (03) 233-0695

大阪書籍

大阪市東成区深江北2-1-1 TEL (06) 974-2461

オリジン出版センター
東京新宿岩戸町16
電話 03 (260) 0453

青木やよひ

四六判・一六〇〇円

誰のために子どもを産むか

―性と生殖のフィロソフィー―

落合恵子氏評 ―社会状況を見据える曇りない視座と、なによりも女性への熱い共感にあふれた、これは、セクシーで深々しい、そして美しい私たちの本です。

青木やよひ

四六判・一六〇〇円

女性・その性の神話

朝日新聞評

男らしさ・女らしさというあいまいな区別は、社会のある必要から生みだされた神話だ。この前提のもとに性差の実態をとらえ、考察をすすめる。

小田切秀雄

四六判・一六〇〇円

女性のための文学入門

日本近代文学と女流作家の代表作をとりあげ、どう読み、どう受けとめるかを述べた好箇の入門書。女性の人生に役立つ文学鑑賞の案内。

田坂 昂

四六判・一七〇〇円

三島由紀夫入門

三島由紀夫とは何者だったのか？ 三島が神輿かつぎの美学から天皇制美学に行きつく経路を、主要作品に即して検証した三島作品論集。

ブルーローズ

ゲルダ・クライン文
ノーマ・ホルト写真

青いバラのようにふしぎな少女、ジェニー。そのさりげない表情をとらえた写真と簡潔で抒情的な文章を通して、ジェニーのもつ「障害」が見えてくる。しかし、著者の視点は、その「障害」を説明することではなく、あくまでもあるがままのジェニーの姿をみつめることにある。

ふらふら踊り出すジェニー。呼んでも返事をしないジェニー。でも、それは、ジェニーが誰にも聞こえない音楽を聞いているから、誰の目にも映らない美しい色に見とれてしまうから……

ジェニーを青いバラにたとえて語りかけているのは、ジェニーの世界と私たちの世界をつなぐもの。それは、くもりのない眼でジェニーとむきあうこと、慈しみと理解をもってむきあうこと。

この本は障害をもつ子どもたちについてだけではなく、他者という存在への私たちの想像力をかりたててくれる本である。 青海恵子訳

定価八〇〇円 送料二〇〇円



💡 千書房

東京都目黒区八雲2-16-1
電話 03-7184-115

投稿ホットライン——楊枝で重箱の隅をほじくろう！

マスコミ むしる

NHKの裏側

私の日記帳から

十月十六日

きのうの晩からちょっと、気のもめ
できごとがあり、今日になってもどっ
つかずの状態のため、イライラしっぱ

東京都杉並区 上原 友子

し。

ちょっとした一件というのは、「わい
ふ」の和田さんから入ってきた話で、前
回はマダムの取材だったのが、今回はな

んとNHKでテレビに出てほしいという
のだ。おはようジャーナルという番組で、
タイトルは「主婦の作家志向」という線
らしい。

私の投稿がしつこく、「わいふ」に載っ
ているので、これは将来、作家をめざし
ているのではないかととられたらしいの
だ。NHKのディレクターと三十分近く
話したあと、また改めて明日にでも電話
しますということだった。

なにしろテレビ嫌いのこの私が、より
にもよってテレビにひっぱり出されるな
んで、ただの一度だって考えたためしが
ない。

ああ、もし本当に出なければならな
い。はめになったら、どうしよう。人並みに
度胸はあると思っていたが、今回だけは
足がわなわなと震えてしまいそうだった。
でも今日の夜になっても、連絡がない
となると、これはもう没ということなの
だろう。

十月十七日

きのう、日記を閉じてからお風呂に入り、出てきたとたんに電話のベルの音。パジャマの上にベストをひっかけて電話口まですっとなでいった。

「NHKの〇〇です。さっそくですが、きのうお話ししたように、ケーキ屋で働いているところをとりたいたいと思いますので、金曜日の午前中にでもカメラマンを連れて伺いたいのですが」

「ええ、構いませんよ。で、お時間は？」
「こっちは十時ごろから一時間もあれば充分なんですが」

「十時というと、ちょうどそうじが終わってひと息いれているころですね。でもそのころですと客がさっぱり来ない日もあるんですよ。それでも働いている姿をとれるんじゃないか？」

「それは大丈夫です。客がいなければ私が客になることだってできるんですから」
仕事の打ち合わせはこの程度で終わり、さてそれから延々一時間近く、なんと話

は続いていたのである。

「書くことはどのくらい続けていらっしやるんですか？」

「そう、もう小学校の五年生ぐらいからずっと。そのころから、ほんの気まぐれ程度でしたけれど、日記をつけていましたから」

「投稿以外は、ひたすら書いてはためてむということですか？」

「ええ、日記ですから誰に見せるものでもありませんし」

「ぼくも今回、『わいふ』の上原さんの投稿を読んでみて、ちょっと変わっているなと感じたんです。いくら毎掲載っていても、あたり前のことを書いていたんじゃないとおもしろくありませんよね。ところが上原さんのは、いろんなところから話題を拾っているでしょう、例えばケーキ屋に変なお客が来るとか。文章そのものもユーモアがあって、それでいて少し毒がきいていると思うんです」

「はあ……」と私は返すこともない。

今までこんなふうに自分の文章を批評されたためしがなく、このひとことを聞いただけでも今回の一件は充分に見返りがあったと思ったほどだ。

「ご主人は上原さんが書いているのを知っていて、何も見ようとはしないんですか？」

「ええ、全然」

「お姑さんも同様に見ない」

「はい。見せていませんから」

「もしぼくがですよ、奥さんが夜、してし何か書いているとしたら、きっと内心、気になるでしょうね。こいつ、いったい何を書いているんだらうって」

「うちはもう、何を書いてもまるで関係ないって感じなんです」

「へーえ、それはまた冷たいんですね」

「そうでしょうか。でも私にとっては、やたら干渉されるよりずっといいんですよ」

とまあ、こんな調子で話は続いたのである。最後に、取材をしても最悪、編集の

段階でカットということもありうるので、そこを予め了承しておいてもらいたいといわれた。ちなみに放映はわずか一週間後の十月二十四日という。

ケーキ屋では、マスターをはじめ、男の子達にもざっとことのでんまつを説明はしたものの、誰ひとりとしてピンときていないらしい。ひどいのはマスターの奥さんで、話がまるでわかっていないらしく、「なんかNHKに友達がいるとか」という調子なのだ。

まあそれも無理からぬ話で、いつもは何くわぬ顔でケーキを売っているこの私が、せっせとものを書いているとは他の人には、わかるうはずもないだろう。

十月十八日

心配で心配でたまらなかったNHKの取材も、やっと終わった。

ケーキ屋で撮影すること三十分余り。不思議なことに、カメラが私を追いかけている間中ずっと客がたて混んでいて、

私は客の応対に追われ、かつディレクターと話もし、カメラマンの指図通りに体を動かさなければならず、もうてんてこ舞いだった。ガラスのケースなんか一週間分ぐらい拭いてしまい、クッキーの袋を並べかえたり、およそ無意味な動作ばかりが続き、きけばケーキ屋の場面は二、三十秒どまりというではないか。

せこいマスターは、たとえNHKの取材班といえども、店に一步足を踏み入れた人は、ケーキを買わずして帰してなるものかとばかりに、とうとうディレクターにケーキを売りつけてしまった。

撮影が終わると、午後自宅のほうへ伺いたいとの申し出があり、ここまできてはもう後にひけなくなってしまった。いつもより早めの二時でケーキ屋を切りあげ、すっとんで帰る。幸い、夫が家にいてくれたので、二人で大そうじ。隣の子供部屋にがらくた一切をぶちこんで、なんとかかっこうをつけた。

約束の時間少し前に、私が家に帰って

いるかどうか確認の電話があった。

「あの、今どちらにいらっしゃるんですか？」ときくと、

「お宅のすぐ隣ですよ」という返事。

エー、隣に電話ボックスなんてないのにと思い、何気なく階段の踊り場から外を見ると、黒塗りの一台の車から、朝見た連中がゾロゾロと降りてくるではないか。

ハーン、なんだ。車の中から電話をかけたのか。私もまったく、おくれているもんだ。

玄関からアナウンサーを招き入れているところ、部屋に案内するところをまず撮影。

「はあ、ここが奥様の書斎ですか。この机から泉のようにこんこんと作品がわきあがってくるわけですね」などとアナウンサーがとってつけたようなことをいう。しかし、ここで笑っているわけにもいかず、私は午前中ケーキ屋の男の子にいわれたように、そのときも顔がひきつ

っていたに違いない。

四人の男性のうち、ひとりとは番組そのものの筋書きを作っていくディレクター、もうひとりとはアナウンサー、そしてあとの二人はカメラマンという構成で、ディレクターは質問の内容をアナウンサーに指示し、アナウンサーはその指示に従って話を進めていく。

いつもはあれこれとちらかっているのに、今日という今日はばかに小ぎれいで、それだけでも他人の部屋にいるようで落ち着かないのに、大の男四人に囲まれてなおかつ、カメラに追われるとあつては私としてもあがらないわけにはいかない。

みっちり一時間、わいふに連続して投稿する理由、どういうふうにも原稿をまとめるのかについて話し、そのところでは必然的に投稿のベースとなる日記に触れざるをえなくなり、現に書きためた日記の束を見せてほしいといわれた。しかしなんと、いっても三十数冊にも及ぶ上、

天袋に放り上げているので、恥ずかしくてとても出してくる勇気がなく、四苦八苦して話をそらせた。

「将来は芥川賞とかヒューマンドキュメンタリーとか、そういったものを狙う気持ちはありませんか」といういわばこの番組の核心に触れた質問に、苦しまぎれ

にこう答えておく。

「ええ、でも今は力量不足というか、自分としても社会的視野が少し狭いなど感じていますし、もっともっと経験を積まないといけないと思っっているんです。正直いって最近なんですよ、こんなふうな時間をまとめてとれるようになったのは。だから私、本当はこれからだと思うんです」

話が日記のことになり、ときどき書くことがないと、友達宛に書いた手紙を自分の日記にこっそり写しとっておくのだという、彼らは何がおかしいのかケラケラ笑うのだ。

新刊

街に生きる

自転車屋の戦後史

宮下喜代 ●1500円

空襲で肉親を失い、6帖一間の社員寮で姑と夫とともに暮らした敗戦直後から、自転車屋を開業し、おなじく戦災で両親を失った金井君に店を助けてもらいやがて店をゆずりわたして「停年退職」するまでの40年を、小さな街での交流をまじえて描く街の戦後史。

自転車屋の店先から見た戦後と私の40年。

高橋幸子の本

みみずの学校

1800円 ●好評 5刷

みみずの学校はあそぶ。宿題なければ予習もない。だれが生徒か先生かわからない。みみずおばさん私塾中間報告。

みみずの井戸端会議

1600円 ●重版出来

国際会議でなく隣人会議で、晴れ姿でなくふだん着で、賢人会議でなく愚人会議で、くめども尽きぬ生活の知恵。

思想の科学社

東京都文京区後楽 2-16-2
TEL. 03(813)1745

「ふつうはね、相手から来た手紙をとっておくものなのに、人からもらったのはポイポイ捨てちゃって、自分の書いたものをわざわざ写しておくなんて。まったく聞いたこともないなあ」

ディレクターいわく、

「ぼくなんか今までに手紙って、二、三通しか書いた覚えがないなあ」

それを聞いたアナウンサーは、さすがにびっくりして、

「ええ、よくまあそれで今まで、仕事をしてこられたねえ。みんな電話ですませるの？」

「まあ、電話も用事があるとき以外まずかけませんねえ」

まったくこれが天下のNHKの連中のいうセリフか。

ひと通り話が終わり、すでに五時もまわってあたりが薄暗くなり、最後に机に座って原稿を書いているところをうつすことになった。万年筆を取り出して書いていると、ディレクターがこういった。

「いつも万年筆で書いていらっしやるんですか。それでは今回の取材のお礼に万年筆をお贈りしますよ。今在庫がなくてあとでお届けします」

あ、やっぱり誰かがいっていたようにNHKはケチなんだ。あの「マダム」ですら、取材のお礼に一万円の小切手を送ってきてくれたというのに。どんな万年筆が届くかわからないけれど、一万円はしない代物だろう。

一時間以上も話していたので断片的にいろいろなことを思い出していくしかないのだが、ディレクターはなぜか「わいふ」に載った「ケーキ屋の招かれざる客」の頭のおかしい女の人にこだわっていて、午前中店に来たときも「最近、あの変な人は来ませんか？」と念を押していた。

十月二十五日（放映翌日）

きのうはショックと忙しさの余り、夜になってもペンを持つことができなかった。画面に映し出された自分と想像して



いた姿との落差に、みんなに黙ってればよかったと本気で後悔した。

まず八時五十五分あたりから、「いま主婦は作家志向」というタイトルで、作家の帯正子さんの話があり、次にヒューマンドキュメンタリーの受賞者達の集いの紹介。カルチャーセンターでのインタビュー。私はその前にチラと自宅でしゃべっている場面が出て、「書かずしてなんとするか、という気分なんです」などといっている。

私の前の人はばかに度胸がすわっていて、自作の原稿を堂々と読みあげていた。それもキスシーンの描写だったので、あつけにとられてしまった。書きあげた小説を、友達の間で回し読みしているらしい。

この人が終わって、さて次は「わいふ」の事務所が出てきた。勝手知ったる面々が立ち働いていて、和田さんがでんと座り原稿の山を前に何やらやっている。そのうちに画面は「わいふ」誌の、と

あるページの大写しとなり、上原友子という活字が見える。「結婚生活の中の異性」というテーマまでがはっきりと映し出されて、なんだってよりによってこんなページを出してくれたのかと内心イライラする。

ケーキ屋での場面はサッとすぎて、次なるは原稿を書いているところ。画面にかぶさる井上アナウンサーのナレーションがまた、かなりいいかげんなのだ。「この「わいふ」に毎号欠かさず投稿している上原さんは、将来はルポライターを目指しています。書くことが好きで、自分の出した手紙はすべて写しとっているほどで、小さいころからつけている日記はもう三十冊以上になりました」

肝心の私は、といえば、目がぎょろぎょろと大きく顔はやせこけて冴えないことこの上ないうつりなのだ。しゃべっていることといったら、とてつもなく早口でろくに聞きとれなかったのがせめてもの幸이었다。



愛する、わいふ”の宣伝にひと役買っ
てあげたと思えば氣も紛れるが、先週
うきうき気分はけしとんで、ゆううつな
一日になってしまった。早まってビデオ
など買わないでよかった。

「わいふ」への反響はかなりのものらし
く、あの朝以来、購読の申し込みや問
合わせが相次いでいるという。私もこれ
をきっかけに、母も含めて友達、親せき
など五人を首尾よく会員にさせるまで
にこぎつけた。

「あなたのが載っているっていうからと
るのよ」としつこく念を押され、ようし
こうなったらまたむこう一年、意地でも
投稿し続けなければならぬ。

十月三十一日

NHKのショック、いや、パニック状
態からやつとはいあがってきたものの、
本当に長い一週間だった。

あとからわかったのだが、おしゃべり
の二男が学校の担任にペラペラとしゃべ

ってしまい、その担任は放映の前の晩、
こともあろうにクラスの連絡網を使って、
明日の朝NHKを見るように、という情
報を流したらしいのだ。本来、緊急の場
合にしか使わないはずの連絡網を個人的
なことに使うのもどうかと思うのに、よ
りによってこの私のことを流したなんて、
先生もどういうつもりなのだろう。当然、
本人の私のところは抜かしてしまうので、
大分たってからわかったのだ。

学校ではその日、一時間目の授業をつ
ぶして二男のクラス全員がNHKを見て
いたそうで、いつもは叱られてばかりい
る二男も、この日はかりは得意満面とい
った感じだったらしい。

十一月十七日

NHKの取材からかれこれ一カ月近く
経つというのに、約束の万年筆が届く気
配もなく、とうとうしびれを切らしてデ
イレクターのところへ電話を入れてみた。
日中は取材で捕まりそうもなく、さり

とて夜も遅そうだから、残るは日曜日し
かない。案の定、取材に追われてそれど
ころではないという感じで言い訳するこ
としきり。

「今日もこれから仕事で出かけるんです
よ。本当はもっと早く起きるつもりでい
たんです。目ざましを八時半にセットし
ておいたのに、そのまま寝ていたみたい
です。」

この目ざまし時計、あんまり性能がよ
くないんですね。実はNHKでひとつ
余っていたのを持ってきたものですから。
いやあ、電話で起こしてもらって助か
りました。きのうは二時まで飲んでいた
ものですから」

という調子で、おしゃべりの彼は寝込み
を襲われたにしてはえらく上きげんでし
やべっている。

さてこれで、なんとか万年筆も手に入
るめどがついたところで、本腰を入れて
投稿文を書きあげることしよう。

(え・万谷陽子)

観たり聴いたり

師走に観た二本の映画のこと

神奈川県横須賀市 松本 弘子



この世で何が好きかといって映画・芝居に勝るものはなく、それら愛する私の気持ちには、わが子に対する愛情よりもずっとずっと深いものがあります。しかし、いくら好きだといっても、最低五、六時間と三、四千元が必要なため、めったに観ることかなわず、いつも我慢に我慢を重ねています。年間二十本弱が精いっぱいというところ

で、年間二百本以上の映画と数十の芝居を観るとおっしゃる作家・長部日出雄氏をひたすら羨んでいるのです。

暮れに、素晴らしい映画を二本観るチャンスに恵まれて欣喜雀躍、そのうれしさの一端をご披露させていただきます。

その一、仏映画「田舎の日曜日」。脚本、監督、製作ともにベルトラン・タヴェルニエという四一年生まれの人の作品です。

今からおよそ七十年前のフランスの田舎の日曜日の一日、朝から夜までが描かれています。七十二歳の風景画家が主人公。彼は折に

つて亡き妻を思い出しながらも、今は家政婦に一切の面倒を託し、彼女と慈なく暮らしています。

秋のある日曜日の朝、パリから息子がやって来ます。真面目な孝行息子の彼は、日曜日ごとに家族連れで父を訪なうようです。妻と小学生のいたずら息子二人と、美しさ愛らしさこの世のものならずの幼い娘と家族は五人。

賑やかな昼食が済むと昼寝の間、老父は庭でまどろみます。そこへ、同じくパリからハイカラ娘が当時まだもの珍しい車を運転して現われます。目下恋をしている彼女は大変気まぐれ。

老父を中心にこの一家の特別どうということもない一日がゆっくり進行していくだけなのですが、そのゆっくりとした一日の何と味わい深いこと、私は我を忘れてその一日の流れの中に身を委ね、彼

らと一日を共有したのです。美しい秋景色と美しい人々に出会い、私の心は限りなく豊かに広がっていきます。老いて孤独な父と恋する若い娘との心の交流には胸せまるものがあり、私は身につまされて涙滂沱となるのでした。

美しいものの尽くしの画面に酔いしれた私は、ああいつ死んでもいいやと思うのでした。

その二。「人、中年に到る」という八二年製作の中国映画。ある日町を歩いているとこの映画のボスターが目に入り、ふと未知なる中国映画というものに惹かれて入場したのですが、なんとこれが無料とは。

奇妙なタイトルですが、中年の働き過ぎが問題にされているわけです。働く一方であまり報われぬ中年の知識人夫婦の苦悩が描かれています。主人公は美しい（心身

共に）眼科の女医。彼女は中国に多い眼病に悩む人々になんとか少しでも光明を、と昼夜医師としての仕事に没頭し、そのために夫や子供に多大な犠牲を強いている、という思いにいつもさいなまれています。私は結婚すべきではなかった、家庭を持つなんて間違っていたのだと。

夫は家で金属学の学問に励みながら、前掛かけて食事の仕度、子供の世話と主夫としても大奮闘。妻が申し訳けないと詫びるたびに、やさしい思いやりを示し、愛する人のために自分は廃墟とならんとして決意して結婚したのだ、その気持ちに変わりはないのでから遠慮はいらぬと、ハンガリーだかの詩人のそういう詩をくちずさみ妻を勇気づけるのです。夫婦愛なんでものをないがしろにしている私は大いに反省させられ、家庭とい

うものを改めて考えさせられました。

保育所に預けている幼児が発熱、マーマと母を求めて泣き止まないの、直ぐ迎えに来てと、仕事場の職場にある日保母さんからデンワが入り、止むなく彼女は仕事を中断して迎えに行きます。

保母さんは迎えが遅いと文句を言い、幼児は保育所はいやを繰り返して訴えます。その子を抱いて長い道のりを歩いて彼女が帰路につくかたわらを、党のおえらいさんの夫人は車でスイと去ります。この人権威にもの言わせてか、夫の眼の手術を割り込ませた上に、とかくケチを付けます。

一日に三人も手術をしたあと、疲労困憊の彼女は心筋梗塞で倒れてしまいます。夫は病院に急病人用の車の手配を依頼しますが、あちこちたらいまわして車の手配

はつかぬというお粗末さ。彼ら四人家族の住む家のなんと狭いこと。友人夫婦は祖国を見限り、カナダへ移住して行くことになりました。こうしてこの映画かなり体制を批判し皮肉っているように思われました。しかし、全編に脈々と流れているヒューマニズム精神、そして詩情に私は心奪われ、深い満足感を覚えるのでした。

今年八五年の最大のプレゼントとも言ふべき二本の映画を観られた幸に感謝し、お正月には、フランス映画「マルチニクの少年」と、米映画「コーラスライン」を絶対に見逃すまいと、期待に胸をワクワクさせているところです。



（え・岩本節子）

ことばと女を考える会

国語辞典

にみる

女性差別

三一新書
650円

ことばは時代・社会の反映。有名辞典を総点検、収集語句・用例・解釈の分析を通して、私たちの差別意識をあらためて考えさせる問題報告。

政治家や、官僚の使うことばのまやかかしを、知りつくしている人々でさえ、学問の装いをまとい、活字化されたことばは、容易に信じこむ。まして、辞典に書かれていることは疑われない。しかし、辞典も例外ではない。ことばに関すること、ことばの鏡はつねに歪んでいた。この一冊は、その鏡を砕く試みである。

『WIFE』代表 田中喜美子

あぶない化粧品

砂糖をとりすぎる日本人

安達巖／気付かぬうちに蝕まれる肉体！ 恐るべき甘味公害の現実。人類決断のときは今、砂糖文明脱出の提言。 三一新書・650円

こわいカゼ薬

本歌淑子他編著／カゼを引いた子の急死激増！ ライ症候群とは何か？ 実態や問提点を悲しみの母たちが追跡。 三一新書・800円

日本の教育産業

窪田一美／子備校・家庭教師、教材直販界の生々しい姿に、市民に渗透する臨教審路線の危険を暴くレポート。 三一新書・650円

テキスト女性のからだ

澤田喜彰／母性機能を再認識し、快適な生活のための「性」と健康。〇〇のチェックポイント。健康常識入門。 三一新書・650円

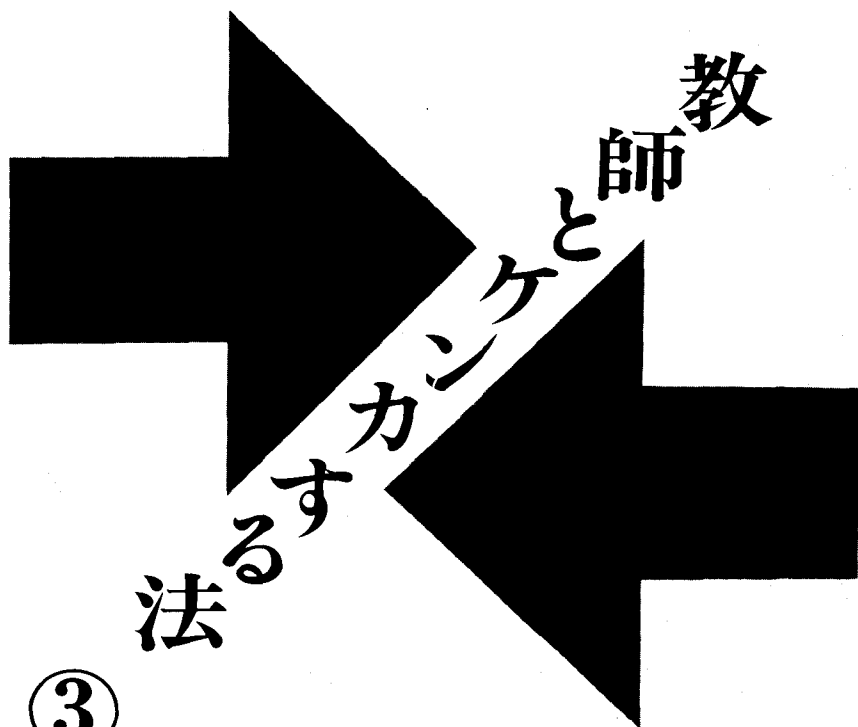
子育ての歴史

中谷君恵／漱石・山本有三らの作品から歌舞伎、柳田民俗学までに眼をくばり、人間の営みとしての子育てを再考する。 1900円

漢方を食べる

重野・太田／ごはん・みそ汁・焼魚。『神農本草経』をもとに現代のわが国の食のあり方を再認識するへ漢方食読本。 1400円

日本消費者連盟編著 三一新書・正・続・続々・各650円
母と娘で、友人同士で話しつがれ、読みつがれる化粧品レポートのロングセラー。



③

東京都練馬区

門野 晴子

ごめんだヒューマニ ズムのあめ玉

「マスコミが落ちこぼれの問題をあおるので、お母さんがたは神経質になっているようですが、僕たちはひとりひとりの子供を大切にして落ちこぼれを出さないように頑張っています。僕は算数のテストをクラスの全員が百点取るまで、同じ問題を何回もやらせます。どの子にも百点を取った喜びを味わわせてやりたいんですよ」

熱っぽく語る教師に母親たちは安堵の色を浮かべ、いい先生に当たったと、懇談会の空気は一挙に華やいだ。シラけているのは私ひとり。息子のときからこのテの「いい先生」にはたくさんお目にかかってきて、娘の小学校中学年でようやく反撃の刃を用意する。

「先生、どの子にも百点を取らせるなんて、すばらしい教育だと思えます。時間がかかって大変でしょうが、ぜひお願い

します。ところで、百点を取った子が1か2をつけられたら、挫折感や先生への不信任感が増すばかりでしょう。そんなことがないように、全員に5をつけてくださるんでしょね」

担任はつまった。舞い上がっていた母親たちも現実を目覚めた。私は、やる気を出している教師の足を引っばるつもり



はないが、おためごかしのヒューマニズムをばらまいたあげく、子供たちに残酷なツケを回す点数教育の「忠臣」が許せない。むろん、点数輪切り制度は教師だけの責任ではないけれども、そのくびきの重さを正直に吐露するほんとうのいい教師には、私は（わが子を通して）出えなかった。

元来、テストは子供がどのくらい理解したかを、教師が知るために行なうはずのもの。だがわかることよりも結果のほうを重視され、その評価が子供の身分階級として刻印されてしまうところに、学校教育の陰湿さがある。

「評価権」とか「教育をする権利」など教師の権力性をうたう言葉はどこにも書いてないのだが、しばしば教師の口からこれらが飛び出し、何も知らない当初の私のような親はヘエーツとひれ伏してしまふことになる。

ほとんどの学校が小一くらいは絶対評価を行なっているが、その後は5と1が

七割、4と2が一四割、3が五八割と輪切りをする相対評価である。「絶対評価を加味した相対評価」とか、中学では「キメこまかい10段階評価」とか、人情味をひけらかす学校もあるが、序列づけの本質は同じだ。10段階評価とて内申は5段階に直してつけている。

そして、中三。学科テストの他に業者テスト、つまり全国の親子をしんかんさせる「偏差値」が、葵の御紋となる季節。受験生の真ん中の得点を50とし、最高75、最低25の間に度数分布に応じて全員が序列化されると言うが、私は未だによくわからない。まあ、業者テストのエライ点は、順位だけではなく上位との差がわかる、得点だけでなく学年平均、学年順位、男女別順位、それに偏差値がわかる、志望校の合格不合格の予測など、それに何よりそのランクづけを教師が盲信することだ。

諸悪の根源は中学の教師ではなく高校受験であり、高校の教師ではなく大学受

験である。そのくらいの冷静さは私でも持っているが、受験をタテに日常的に子供を脅迫し、暴力をふるい、親を黙らせる権力性が我慢ならぬ。

その上、暴力教師も、日の丸・君が代大好き教師も、上ばかり見ているヒラメ教師も、エセヒューマニストも、ほんとうにいい教師も、ミンナミンナ自分は教育熱心のいい教師だと思っているところが鼻持ちならない。

キビシイことを言えば、子供の学ぶ権利のために教育に精魂傾けるのは教師の仕事であり、当たり前のことなのだ。給料をもらってやっているのだから、恩にきせたり、親がお願いしたり感謝したりするものではない。当たり前のことをしない教師は税金泥棒である。

したがって、教師が「落ちこぼれ」と言うのは何ごとか。「落ちこぼれ」と言うべきだ。親や子は「落ちこぼされ」と言うべきではないか。こぼされた親は教師の怠慢を言っていく権利があり、それ



に対して教師がカリキュラムの多さ、学習指導要領の法的拘束力、雑事の煩雑さ、管理強化などの言い訳を親にするのは見当違い。上に向かってはね返せ！

「お子さんはやればできるのに、こんな成績じゃどこの高校も入れませんよ。もっと頑張って勉強しなければダメですね」「と、全員におっしゃるのでしょう。全員が頑張ったら一番困るのは先生ではありませんか。偏差値も困るわね」

「しかし、高校に入りたいんでしょ。だったらうちでもみてやるべきです」

「私が子供の勉強をみたら、先生は何をなさるの？ 学力は公教育に信託しているのですよ。それとも私が仕事をやめて毎日子供の勉強をみてやりますから、先生のお給料の一部をくだしますか」

「いやあ、ご冗談でしょう」

「本気で言ってます。まだ信じています」
「……」

そして、息子は誰でも入れる地域の高校を落ちた。モノ言う親への報復だろうが、彼らは「まだ信じる」親に対して自ら敗北者となった。

けとばせ

学校の評価

私は足立区から息子と娘を連れて斑鳩の里へ逃げた。四年後、娘の中三を迎えてまた同じセリフを言われたが、私は「もう信じて」いなかったから、強くなっていた。

「そうよ、うちの子は頭がいいの。それなのにこんな成績しか取れないのは教えかたが悪いからよ。公教育を信じて塾にもやらず、子供も真面目に授業を聴いてふつうに勉強しているのに、最低の公立高校に入れたかったら、先生の怠慢として責任をとってもらうわ」

私の迫力勝ちか、中年の男教師は言っ
てはいけないことを思わず口走った。

「大丈夫ですよ、お母さん」

三者懇談だったから、娘は私を見てニ



ヤツと笑った。「ワル母子連合軍」である。

兄妹とも同じ高校に行ったが、「高校は義務教育ではない」からと教師陣の態度がデカく、かと言って私は「教師の正体見たり空いばり」だから、闘いはいつも平行線だった。

斑鳩の高校は学科テストの得点とクラスの最高点（平均点ではない）と担任のシタゲキレイ文を記した通知表を、千二百人の家庭に年七回も郵送する。通知表には親と子の返信欄が用意され、「すみません、もっとしっかり勉強します」と強制的に書かされる仕組みになっている。私も毎回同じ返事を書く。

担任「数・理が欠点です。早く疑問点を解消し、欠点科目克服に努力を。他の科目も油断は禁物です。より一層の努力を望みます」

私「早く疑問点を解消させ、欠点科目克服指導に努力を。他の科目油断は禁物です。先生がたのより一層の努力を望み

ます。あんたたち、プロだろ！」

さらに私は、親子の分断を図るような陰湿な郵送を拒否した。

「よその親子が分断されるのは知ったことではないから、うちだけは子供に手渡してください。子供の許可を得ずに見るべきではないのはラブレターと一緒よ」

学校のきまりだからとつっぱねる毎年の担任に、その度しつこく言い続けると、どの担任も二学期ごろからそつと子供に手渡して言う。「内緒だぞ。誰にも言うなよ」。

私は息子が高校、娘が中学くらいの時期から、学校のランクづけが少しも気にならなくなった。学校が「オール3」を刻印しても、私のわが子への評価は「オール5」である。それは男女平等の暮らしかた、人間関係能力、私への毒舌などで、子供たちが着実に成長している手応えを感じるからだだった。

（思春期カウンセラー）

（え・田井亮子）

投稿ホットライン——言うべきか言わざるべきか

親のホンネ

この際言っちゃう！親だから、感じることにいっぱい

西之原学院 高校再受験科

東京都府中市 赤井久美子

「高校再受験科」というコースがあるのをご存知だろうか。

その名の通り、高校を再受験する中学浪人生のためのコースである。といっても、一流校めざしての浪人とは違う。学力が及ばず、どこの高校にも入れなかった子供たちが対象なのだ。今年は都内で九百人近い浪人が出たという。

第二次ベビーブームで生まれた、我々

団塊の世代の子供たちが、高校受験期を迎え、高校は狭き門になっているのだ。

ところが、数年後には、高校受験生の数が激減するのが目に見えている。そこで、公立高校は増設されないし、私立中学校も、偏差値の低い子を入学させて、世間的な評価の下がるのを嫌う、たとえば定員割れを起こしても。そこで、ここ数年は、中学浪人が増える傾向にあるとい

う。

そんな中学浪人のための「高校再受験科」を設けている塾が、都内にはいくつもある、その中の一つ、多摩地域ではおそらくここだけという、国立市の「西之原学院・高校再受験科」を取材する機会があった。

落ちこぼれ気味の子供を持つ母親として、感じるところの多々あった取材であった。それを紹介してみたい。

「落ちこぼされているケースには二通りありますね。一つは生まれつき能力が低い場合、そしてもう一つは、元気に遊んでいればいい、勉強は学校に任せておけばいい、という建て前をうのみにしてしまい、親が放任してしまった場合です」と語るのは、学院長の衣川敏一先生だ。「遊ぶのは結構なのですが、子供には、その学年、その学年でしっかり身につけておかなければならないこともあるのです」。

その時期を逸してしまつてから身につけようとする、何倍もの努力が必要になつてしまふんですね」

「実際 中学三年にもなつて、九九が言えない子が毎年何人かいる。ごんべん、のぎへんと言つてもわからない子もいる。

小・中学校の何年間もの間、何人もの先生方が見逃していたのかと思うと、腹立たしくなることもありますよ。

しかし、それが現実である以上、親たるもの、最低 四則計算だけはできるようにしてやらなくてはね……」

しばらく「わいふ」誌上をにぎわした「のびのび論争」の答えの一つではないだろうか。

もともと衣川先生は、大手有名進学塾で教えていた。ところが、塾にすら居場所のない子供たちを見るにしのびなくなり、自ら、通知表で1と2ばかりの学力不振児のための塾・国立学習クリニックを始めたのだった。

「通知表で3をとるようになったら、こ

こはやめて他の塾へ行きなさい、と言っています。

ここでは当然、手取り足取り教えているわけです。でもいつまでもそんな過保護の状態にしておくのは、本人のためによくない。自学自習の習慣がつきだし、成績が上がらだしたら、競争にもまねながら、自らの力で勉強していくべきなのです」

今年の四月からこの塾に、「西之原学院・高校再受験科」というコースが設けられた。

わざわざ「西之原学院」という名称を本来の塾名、国立学習クリニックとは別につけたのは、浪人生たちが近所の人に通学校を問われたとき、あるいは公開模試などで在校名を書かねばならないとき、肩身の狭い思いをいくらかでもさせないようにとの配慮だという。

現在この高校再受験科には、遠く町田や所沢から通ってくる子も含め、十四人が学んでいる。

毎日の規則正しい生活と学習を保てるよう、中学校と同様の、月曜日から土曜日まで、午前九時から午後二時三十分まで（土曜日は正午まで）の全日制となっている。

内申が悪いこの子供たちに、公立高校の門はまず開かれない。そこで、英・数・国の三教科を主に学び、私立高校を目指す。



24



入会金二十万円に、十カ月分（四月から一月まで）の授業料三十万円の計五十万円を前納することになっている。

余程金持ちでない限り、ある決断の必要な額だ。そこをねらって、親・子ともどもの決意を固めるため、あえて全額前納にしようのさという。

三教科だけを集中して、それも少人数で学習するので、午前中の授業だけでも中学校の二倍以上になる。まず自宅での学習は、ほとんど必要ないだろう。

九月までの前期は、近くの体育館や運動場を借りて、「体育」の授業もあったという。

社会的見聞を広げるための見学会もあり、科学万博にも行った。

四月から半年が過ぎて、遅々としてはいるが、確実に力をつけ、各教科ともバランスがとれてきたという。

「成績もさることながら、人間的な成長が著しいですね。どこか投げやりで意固地なところが消え、素直になってきまし

た。よくしゃべり、よく笑い、私たちにも甘えてきます。

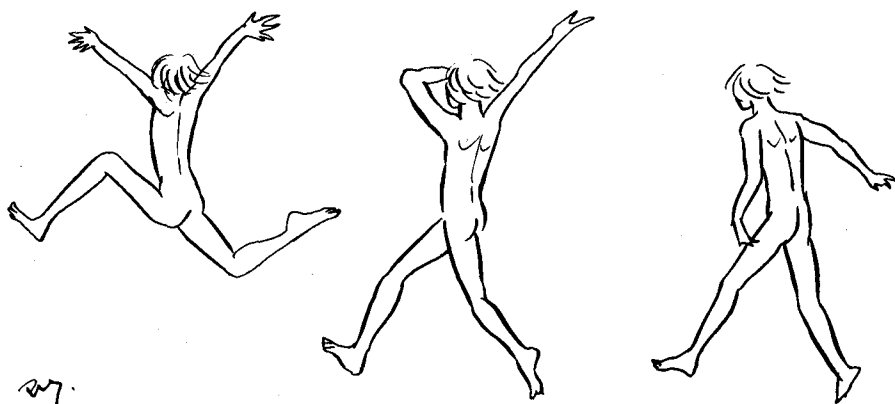
その甘え方を見ると、今まで本当に先生——大人と言っても良いかもしれませんが——との関わりが希薄だったんだろうな、と感じさせられて、かわいそうになります」（衣川先生）。

ムリヤリどこかの高校に押し込んでしまふことの怖さを感じさせられた。九九も知らぬまま、大人への信頼感も持てぬまま進学する、もの言わぬ子供たちが本当にあわれた。

落ちこぼされている子の多くは、「勉強は嫌いだ。手に職をつけるほうがいい」というような覇気もなく、妙に律儀に学校に行くことは行く、というタイプの子だというから、なおさらあわれた。

通学生の一入、国立市のT君のお母さんに話を聞いた。

「同じ境遇の仲間ばかりということ、のびのびできるようです。体の具合の悪いときでもがんばって通っていますから、



居心地がいいんでしょうね」

「中学の先生については、言いたいことがいっぱいです。」

こういう塾にお世話になることになりました、と電話を入れたときにも、塾の名称、所在地すら尋ねてくれないのです。進学できなかった子は、学年でも一人か二人しかないのに、卒業してからハガキ一枚、電話一本寄してくれませんか。どうしてる、頑張ってるか、の一言くらい欲しいと思うのは、甘いのでしょうか。年が明けたら、内申をもらいに行かねばなりません。子供が取りに行きやすいように、ほんのわずかもいいから、つながりを保っていてくれたら……と思うのです。やはり甘い考えなのでしょうか。それなりの経緯があり、先生にも言い分はあろうけれど、やはり冷たすぎるのではないだろうか。

最後に、どうしてこれほどまでに見事に落ちこぼされてしまうのか、いくらか

でも事態を好転させるにはどうしたらいいのか、衣川先生に伺ってみた。

「教えねばならない内容が多すぎるのと、そのわりには一クラスの人数が多すぎるのです。カリキュラムを少なくし、一クラスの人数を減らすこと以外には方法はないのではないしょうか」

文部省あたりのエライさんは、確かに落ちこぼれもいるかもしれないが、大多数の子供たちはちゃんといっている、と言うかもしれない。ちゃんといっている子供の陰に、親や塾の後押しがどれほどあるのか、わかっていないのだろう。

義務教育に税金を払い、その義務教育についていくために塾にも授業料を払う——なんともおかしい話ではないか。

親として、今、我が子が学校教育で落ちこぼれないためには、何をすればいいのだろうか。塾だ、家庭教師だ、という「自衛」にも限度がある……。

(え・田井亮子)

投稿ホットライン——笑う門には福来たる

ファミリィ・イン・ブルー

知に働けば角が立つ。情に棹させば——ああしんど!

ツツパリたちのやさしさ

兵庫県姫路市 窪田 潤子（45歳）



高校一年の娘の友達と四十五歳の私が親しくなったのは、一年前の十一月ごろだった。

姫路は、高校格差が激しく、十本の指では数え切れないほどの公立校、私立校がある。

昨年は娘も中学三年、志望校目指して、頑張ってほしい年であった。

しかし、四年前、主人の勤務先の大学の官舎から、マイホームの夢を実現させるべく、手持ちの貯金を全部はたいて頭金とし、住宅金融公庫から、三十五年払いという、気の遠くなるような、長期貸し付けの金融をうけ、買い取りマンションを購入した。

当時小学六年の娘の中学進学を機会に、引越した。しかし転入した中学のスクールカラーは、それまでの小学校とは著しく異なり、自主的な発言、行動を良しとする小学校の教育は、保守的な中学校のそれと両極端に分かれ、そのはざままで、娘は「いじめ」の対象の標的にされ、日

々無口な暗い毎日を送るようになった。

登校拒否寸前のところで、娘を救ってくれたのは、中学校で問題視されているという噂の子ども達であった。服装の違反、授業のエスケープ、遅刻、早退の常習犯だと、補導の先生方の眉をしかめさせる子ども達。

その子たちのグループに入ることで、娘は次第に明るさをとりもどしていった。

しかし、私はそれを手はなしで喜んではいられなかった。娘の部屋から匂うタバコの匂い。そっと隠しているピンヒールのサンダル。ラブレターの下書き、時折かかる男の声の電話。すべてが心配の種で、主人と交替で娘を監視するような毎日であった。

十一月の半ばごろ、もう薄暗くなりかけた商店街の片隅で、その日は商店街の休日だったせいで、街燈も消えた、ベンチと電話ボックスの中でうぐめくセーラー服と学生服をみた。そのとたん、私は「不純異性交遊」という言葉が脳裏をよ

こぎり、もしやあの中に娘が、と思うと、口の中が乾き切っていくような、不安で心がいっぱいになり、我を忘れて、その子らをどなりつけた。「何しよんや、はよ帰らんか」その子らの顔一人一人を見ると、可愛らしい中学生である。娘の友達もその中に見つけた。幸い娘はいなかった。

その日は歯科へ行く日で、帰宅していた娘にことの次第を話すと、「塾に行くまでの時間つぶしやし、塾に行かん子もいるし」とのこと。

次の日から、私は、娘に「時間つぶしは、我が家でするように皆に言っただけ」と言って十人以上の夕食を用意して待機した。果たして子ども達は、つっぱりズボンのままやってきて、旺盛な食欲で、給料前の貧しいけれど量はたっぷりの、肉の少ないカレーをたいらげた。それから受験までの数カ月、毎晩この晩さんは続き、子ども達は「ただいま」といって我が家へ来るようになった。



多いときは十五人をこす子ども達。その中で、他人からは「つっぱり」といわれる子ども達の心のやさしさに、淋しさに、私はふれた。学校の成績が人よりすこし劣るという事実だけで、学校からも運が悪ければ両親からも、「アウトサイダー」としての扱いをうけてしまう子ども達の悲しさと、人の不幸を我がことのように考えて、手をさしのべる子ども達のすばらしさにふれた私は、娘の登校拒

従姉妹からの電話

夕食をすませて子供達とTVを観ながら、のんびりとしていた。子供達に入浴をすすめ時計をみると午後八時半、その時、電話がなった。

電話のなかのなつかしい故郷のなまりは、私の実家の母について大事な話があるという、従姉妹からであった。

「実はね、おばさんがここ一、二カ月で

否を救ってくれた感謝をこめて伝えたい。「あなたたちは天使だ」と。

もう私は、ピンヒールにも、ラブレターの下書きにも驚かない母親だ。つまりそれらはハシカのように娘の時間の上を通りすぎるものであるし、つっぱりズボンもファッションの一つであることも分かってきたからである。

そしていつの間にかタバコの匂いは娘の部屋から、消えてしまっていた。

埼玉県越谷市 S・T

すっかり痩せてしまって、街でみかけても別人のようなので、心配になって、今日、強引に病院へ連れて行ったら……」そこまで言いきってからしばらく押し黙っている従姉妹に、私は不吉な感じがした。

「おばさんは胃癌だって、すぐに手術をしなくてははいけないと言われたの。おば



さんにはまだ本当のことは知らせてないけど、なるべく早く入院させて欲しいと医師から言われました」いつも元気な従姉妹の声が沈んだ響きで聞えた。今まで実家の両親のことは気になっていたが、いつまでも元気であることと自分勝手に確信して、日々の生活に浸っていた私は目の前に大きな波が押し寄せたように思った。

実家では、両親だけが生活している。故郷には親戚も多いが、二人きりの姉と私はそれぞれに家庭を持ち、各々の夫



の任地に生活をして二十年たってしまった。実家には、おりおりの話で連絡したり、年に数回里帰りはしていたが、母は何にも言っていないかったので全然気がつかないでいた。自覚症状もなく、極端に痩せたことだけが唯一の症状であつたやうで、従姉妹も病院で胃癌と言われたときはびっくりしたと言っていた。近くに住んでいない親不孝を感じつつ、従姉妹には感謝して電話を切った。

子供達も私の電話の前での表情の変化に気づいたらしく「おばあちゃんはどう

したの」と聞いてくる。あの気丈な母が、胃癌、それもあまりよくない末期癌のようである。六十キロに近い肥満体が、ここ数カ月で四〇キロに減ったとか。何事も自分の主張を通さないと気のすまない母が……。父はどうしているだろう。私はさっそく実家に電話を試してみた。

「お母さんが病院で診てもらったら、胃潰瘍の初期だから早くに手術をしたほうがいいといわれたので、あさって入院することになった。初期だからすぐ治るんだって」父の声はいつもと変わらず元気であつた。父はまだ気づいていない、良かったと思つた。

「これで、いいのだ、何にも知らずにいて、夫が帰って来たら相談して、明日にも帰郷しよう。姉にも連絡しなければ」私の頭の中に次の段取りが浮かび、とうとう私も両親の老後の問題に直面する段階に入ったのだと痛感した。

夫の帰りを待ち遠しく思い時計をみつめていた。

山の 彼方の 空遠く



声楽に憑かれた私のヨーロッパ留学記

連載 ①

高木 梢

プロローグ

すさまじい轟音と、椅子から飛び出し
そんな激しい振動とともに、飛行機はウ
イーン^{シューヴ}のシュヴ^{ヒャート}ヒャート空港に着陸し
ていた。

大地は乳白色の霧と重くたち込める雲
におおわれ、動植物の全てが冬眠に入っ
ている静けさである。

税関に行く通路は暗く、同乗した十人
前後の人々の靴音だけが高く響き、人声
もない。午前十一時という時刻が信じら
れないほど暗い。

寒さと暗さと静けさ、これが初めてヨ
ーロッパに足を踏み入れた私の印象であ
る。

一九七三年十二月、石油騒動にわく日
本を後に、英語もロクに話せない私が単
独でウィーンに來た目的はただ一つ。長
年の夢、声楽を本格的に勉強するためだ
った。

父を早くに失い、経済的事情と、生活
環境の両方が西洋音楽、特に声楽という
海のものとも、山のものとも見当のつか
ない代物^{シゴキ}を本格的に勉強することを妨げ、
二十九歳のその日まで、私の半生は欲求
不満の連続だった。

多少声楽に近いということで音楽教師
を職業としていたが、生徒に歌わせるよ
り、自分のほうが生徒の百倍も歌いたい
ほうだったから、教育学から眺めると教
師失格に近い。

理性で判断すると教える仕事は、生涯
をかけても悔いのない興行の深い仕事で
あり、休暇も他の職業より多く、経済的
に安定している。さらに教室に入ってい
まえば、音楽教師といえどもお山の大将、
自分の創意工夫で生徒も自分も楽しめる
という余祿もあり、決して悪い仕事では
ない。

ところが感情のほうが発言すると、全
く別の人生もあることを、かなり強く、
執拗に、しかも連続的にささやく。

「アンタ、アンタは本当に自分の人生を
生きているの？ アンタ本当にこれで満
足なの？ 人はいつか死ぬけれど、教師
稼業を生産^{生産}していて死ぬ時後悔しないの
？ これで満足？」と。

感情がこうささやく背景には大きな理
由があった。いつか、どこかで、学業や仕
事のかたわらでなく、知力、体力の全てを
総動員して、私の全てを引出してくれる
良き指導者について、本格的に声楽の勉
強がしてみたいという焼けつくような願
望。これが理由だった。

声楽家と名のる人は居ても、常設歌劇
場のない日本で、生涯を歌い続けた職業
歌手が存在しない現実を見れば、良き指
導者を探すことさえも易しいことではな
い。まして歌のエッセンスや声楽技術を
納得いくまで体験し、学びとうとする
ことは、日本では不可能である。といっ
て一体どんな手段があるのか……。

日常生活に身を置きながら、その実、
頭の中は日夜声楽のことばかり考え続け、

日常生活のほうが稀薄なものに感じられるような生活を送りながら、外見は落ちついて教師稼業にいそしんでいた。内面は誰も覗き込めないことを幸いに、芝居を見るのは表現方法の勉強、読書をするのは叙情性を養うため、ダンスに行くのはリズム感を良くするためと、全てを音楽と結びつけて生きており、あるうことか、恋までも「いずれ、歌の肥やしになるだろう」などと不遜なことを考えていた。

外国語一つ話せもせず、レッスンはとっていたものの音楽技術の一つさえも完璧にできることがなく、ただ夢を見続けた。

闇雲の好奇心や情熱は恋愛に酷似していて、原因や理由は分析不可能で、ただ「好き」としか言いようがない。

折も折、音楽の個人レッスンを受けていた先生がウィーンに留学し、手紙をくれた。

時間と経済的余裕があったら、短期間でもウィーンで勉強してみるのも、汝の

人生にプラスになるのではないかと……と。

この手紙を受け取ったときはショックと喜びでしばらくは口がきけず、涙がジワジワと滲み出し、かなり時間を経て突然爆発的な笑いが襲ってきた。

笑いは押さえても、押さえても身体の奥から湧きあがり、涙を流しながら果てしもなく笑い続けた。一種のヒステリー状態と自分で思いながら、どうしても笑いが止まらない。

多分彼は自分の弟子や知人の全てに似たような手紙を送り、ヨーロッパの文化に触れた喜びと感激を伝えたものと思う私をヨーロッパに誘ったことに特別な意味はなく、筆の弾みで文章の締め括りにカッコをつけるくらい軽い気持ちで書いたに違いない。言葉もしゃべれない弟子がとび出してくるとは夢にも考えなかったことと思う。

ところが、社交辞令を真に受けて、本気で渡欧の準備を始めたのが私である。勤務先に退職届を出し、にわかにドイ

ツ語の授業を受け始め、(三カ月の速成科)身のまわりの整理を始めた。

不遜なことを考えながらも続いていた恋人との関係も、渡欧という私の人生の一大事? の前で決着をつけねばいけない。

身軽になって勉強したい、私の内心がかなり良く覗きこめる彼は、ウィーンからの手紙を見せたらあっさりと言った。「行っておいで。手紙は沢山欲しいけれど、アンタの人生はアンタが決めるといい」彼にとって厄介私だったのかも知れないが、事は意外とトントン拍子に進んでゆく。

ただ一つ、年老いた母に渡欧の事後承認を受けるときはさすがに心が痛んだ。といって私は自分のやりたいことを、母のために諦めた、ということとは一度もないエゴイストだけれど。

準備完了の十二月末、経費節約のため南まわりヨーロッパ行きに乗り、晴天のクリスマス当日羽田を出発した。途中霧



国立アカデミーの本校舎

のため、インドとアムステルダムに一泊ずつ足止めされ、予定より二日遅れてウィーンに到着したらさあ大変、出迎え人が誰もいない、それでもウィーンの先生を電話で呼び出す知恵は働いたが、発信音だけで誰も出ない。

三十分以上電話を試みたが効果なし。一度も外国に来たこともなく、外国人と直接話したことはない心もとないドイツ語で行動を起こさなければいけない。車窓に樹水を眺めながら、大荷物と共に

市内までバスで運ばれてきた。到着場所は、ホテル・ヒルトン。シングル、朝食なし、一泊五百シリング!! 冗談ではない。大荷物だけ預かってもらい、意を決して街にホテル探しに出かけた。

ホテル、ペンションの看板を見つけては入り込んで、一人、朝食付き、一週間滞在、一泊百シリング以下と呪文のように繰り返して、四軒目で一つのペンションに落ちついた。

相手の言うことはほとんど聞きとれないが、大半は私が一方的に話し、値段の数字がききとれないと、おもむろに紙を出し出し、強引に数字を書いてもらい、肯定と否定だけは明確に言い、最後の挨拶は愛想よく、丁寧に言っっては一軒一軒尋ね歩いた。

見つけたペンションは旧市街地にあり、教会の鐘が遠く、近く聞こえてくる。中庭に向いた私の部屋は、二つの大きな窓があり、八畳ほどの広さ。家具、調度品は良く磨きこまれていて清潔だが、かな

り古い。ベッドは真ん中のかんりの面積が凹んでおり、寝返りが打てるか心配なほど凹みが深い。一泊八十五シリングはこんなものか？

夕方ペンションから先生に電話すると、今度は在宅していた。とび立つ思いで話すと、「あんたの書いてきた時間に空港に行ったんヨ。でも誰も居らんんで、あんた気が変わって来るの辞めたか思うたんヨ。ン？ 今日には買物に出ていて留守やったんや」

素朴な私は、この夜くらいは夕食の招待にあずかり、四方山話に花が咲くのかと期待していたが、お誘いはいっこうにかからなかった。

さて、私の夕飯はどうなる？ 一人でレストランに行く勇氣もなく、マーケットで食品を仕入れ、部屋で食べることにした。

一言も話す必要がなく買物のできるマーケットは実にホッとする。あちこち眺めながら歩いていると、旧市街のせいか、

専門店の個人商店が多く、大型マーケットは少ない。

専門店の中には沢山の売り子さんが働き、対面売りをしている。これは今の私には勇氣のある買物になりそう……などと考えながら歩いているとお菓子の専門店が目の前にある。

ウィンドウに様々なお菓子の箱が並び、その上や側にピンク色の豚や、赤い笠に小さい白い斑点のある茸が並んでいる。茸も豚もせいぜい五センチ以内。くすんだ色の多い街中で小さくて鮮やかな赤はひどく目につく。

吸い寄せられるように店に入り、茸を指さして大声で注文した。「これを(Das)、十五個(fünfzig)」「ハイ(Ja)ハイ五十個(Ja fünfzig)」店員さんは大学ノート大の紙袋の中にせっせと茸を詰めた。

一つが満たされるとさらに新しい袋をとり出した。どうも十五以上ありそうだ。私は西洋では茸を二つで一つと数える

のかしらなどとバカなことを考えていた。それにしても多い。「本当に十五(Winklich fünfzig)？」「ハイ、どうぞ(Ja Bitte)」と突然気づいた。頭の中では十五を考えながら、舌に乗せた数字は五十と言ったのだ！

十五はフンフツエーンと言ったっけ！今さら言い直してもできず、大量の茸を抱えて店を出ると一人で思うさま笑いかけた。

後で聞いた話によれば、茸、豚、馬の蹄のミニチュアチョコレートは、幸運を呼ぶシンボルとして、年末から新年に売り出される縁起物とか。

宿に帰り、チョコレート茸を食べながら、部屋のあらゆる空間に赤い茸を飾り、一人で、しかも陽気な食事を始めた。小さな赤い茸が二十以上も部屋に置かれると、本当に陽気で明るいムードを呼ぶ。

鐘の音の聞こえる古い宿で、大量の茸にかこまれて私はヨーロッパ生活の第一歩を始めた。

下宿探し

ウィーンの正月は静かだ。

大晦日に花火が上がり、除夜の鐘のように教会の鐘が鳴った。元日の街は人影もなく、夕方近くようやく人の住む街らしい活気が戻り、翌二日は平常どおり仕事が始まった。

早く下宿を見つけ、経費の節約に努め、合格したら少くとも二年は滞在して落ちついて勉強したい、と願っているのに、下宿探しはいつこうに捗らない。

原因の一つ目は日本とシステムが異なり、物件を見る以前にかなり高額の手数料を前払いしないと不動産屋が動いてくれないこと。二つ目は、正月とクリスマススの休暇で下宿屋や不動産屋が旅行に出かけ街に居ないこと、三つ目は、私側に行動力がないこと。不動産屋を通さず（節約のため）探すとなるば、新聞広告の素人下宿の広告だけに限られてしまう。

これまでの職場の退職金を資金に、薄

氷を踏む思いで、一日八十五シリング支払いながら生活している私の不安や焦りは、我が師N先生及びそれを取り巻く芸大卒グループの面々には、想像もつかないことらしい。住宅探しには二カ月くらいかかるのが当然。十日や二十日は旅行者のつもりで、のんびり古都の文化や美しさを満喫するとよい。折も折、今は正月ではないか……という。

ごもっとも。でも食費の他に一日一万円近くのお金が何ら積極的な行動もなしに消えてゆく……と思うと気が気でない。彼等の助けを待っていたら財布は空になってしまう。

我が師は三十代半ばで子供三人。妻の実家からたっぷり資金援助を受け、日本の住いも、家族ぐるみの留学資金もすべて妻の実家持ち。月二十万じゃ生活できないんや」と自慢気に話し、ルノーを乗りまわしている。

学生資格を取ったら寮に入り、年間百万円で生活しようと計画している私とは

生活感覚がちがう。

後で知ったことだが、自力で生活している日本人留学生には、年間三四十万円で暮らしている人もいた。物価の安いこと、月謝をビター一銭払う必要のないシステムを最大限に活用して堅実な生活を営んでいる人もいた。

私は日一日と財布の中味が軽くなるのを、満潮が足元に打寄せるのを見るような恐怖で、ジィーッと座って見つめていることに耐え切れなくなった。

ある日決心して、朝の七時、凍てつく暗い戸外で新聞を買い、辞書を片手に住宅広告のページを探し始めた。

幸いペンションの中には公衆電話がある。朝の早い時間ならば私が一人で使えるので、直接電話してみることにした。

「お早うございます。私は日本の音楽学生で、部屋を探しています。一月千シリングくらいで台所付の部屋はありませんか？ 私はドイツ語に慣れていませんので、どうぞゆっくりお話ください」

到着第一日目のホテル探し同様、一方的に話して相手に肯定と否定で答えてもらう方法にした。

外国語を電話で語れたら、その人の外国語はほぼ半人前まで行ったといえる。

それなのに顔を見ながら話すこと、いや紅毛碧眼の彼等の臆面もない視線の前に立つことさえも勇気のいる外国慣れしていない私が、滞在二週間で始めた電話作戦。

珍奇な電話にむこうも驚いたことだろう。何事かと耳を澄ます人（不思議とこの気配は感じられる）、ものも言わずに切る人、「おー日本女性、チン、チャン、チュン……」と訳のわからないことをつづやく人、私の条件の部屋がないことをゆつくり説明する人、十人十色の反応が返ってきた。

二、三日するとコツがわかり始め、強いウィーン訛の人には厚かましくも「どうぞ、標準語でお話し下さい」と頼み、ドイツ語の数字が聞きとれないと英語で

言い直してもらい、（独語の数字はおしりから言うので英語よりききとりにくい）

住所は平坦に読まず、一つ一つアルファベットで言い直してもらい、見えない相手に向って必死で食い下った。

電話作戦を始めて三週間目、ようやく下宿が見つかった。

市の中心から三十分、市電の停留所は目の前、八つの独立した部屋と十二人の女子学生の住む個人経営の学生寮で、家具付で一人部屋千二百シリング、二人部屋六五〇シリング。

風呂、台所、居間（八畳ほど）と三つのトイレは共同。台所に畳一畳ほどの大型冷蔵庫も二つあり不便はない。建物は古いが内部は清潔に保たれている。

親切な家主がその日のうちに私の荷物を運んでくれ、五週間の不自由なペンション生活が終った。契約書も何もなく、只清潔に住むよう心得を言われただけ。

七カ国の異なる国籍を持つ娘達の中で私の生活が始まった。

私の鼻は——美しい！

音楽の勉強もさることながら、問題は言葉である。滞在二週間目、まだペンションに住んでいるところから私はウィーン大学にある外国人のためのドイツ語クラスに通い始めた。

文法や和訳が出来ても何の役にもたない。実用会話は只覚える以外にない。

使える手持ちの単語は二千くらいしかないのに、生活の方は成人としての契約、外国人としての手続きや買物等待ったなしに押寄せてくる。ビッシリと文字の並んだ印刷物を見ると、正直頭痛がしてきた。

ドイツ語の弱さが原因で、このころは毎日のように珍談、奇談を引き起こしていた。

警察に住所の登録に出かけた日のこと。国籍や出生地の他に、日本にはない身長、体型、髪と眼の色、顔の型、鼻という欄がある。

はつきり書けるものは良いとして、顔の型や鼻はどう書くものか？ 三角でも四角でもないから、顔は丸型、これに決めた。

残るは鼻。高くもないし、鷲鼻でもない。多少あぐらかいているが、特筆するほどでもない。困ったナーと思っていると、隣にも赤いスカートに緑のセーターの女性が机に向かっている。

この人を警察の用紙に沿って描写すると、体型、かなり太目、顔の形、長四角、眼の色と髪の色、黒、鼻はかなり高い。仕方がない、尋ねてみよう。

「失礼、貴女、鼻のところ何て書きまし

た？」

「あ、私？ 鼻？ 私の鼻はもちろん、美しい、よ」

チラリと用紙を覗くと、本当に section という形容詞が書いてある。ウーン、私の鼻は……。醜くないが、美しくもない——と書きいれた。

全部書き終ると係員に一室に呼び込まれ、用紙の一枚一枚がチェックされる。

と突然、係員はすごい勢いで笑い出した。そして私の用紙を持ったまま、他の同僚の所に行ってしまった。二人で用紙を机の上に広げ、チラチラと私のほうを見ながら、一人は腹を抱えて、片方はニタニ

タと笑っている。

何ぞバカなことを書いたのだろうか。全部真面目に書いたつもりだけれど、どこぞ綴でも間違えたかな？

再び席に帰った係員はしげしげと私を見た上、太い指でじっくりとある欄を示した。例の鼻のところだ。そして醜くないが、美しくもないと書いたところを二本線で消し、ただ一語、丸いと書き加えた。

美しいと書いた彼女の鼻はどう修正されたか興味深いけれど、見ることはできなかった。

上野千鶴子

女は世界を救えるか

フェミニスト神話を拒否し、女と男の関係を問直す。女性解放の理論構築をめざして。1600円＋250

江原由美子

女性解放という思想

女にとって解放とは何か。リブ運動、イリイチ思想等の検討を通しイメージを構想する。1800円＋250

国際女性学会編

〈女と仕事〉の本 1

1945—1974 仕事と家庭の両立をめぐって女たちの苦闘はつきない。のりこえ進むために。2000円＋250

大越愛子・源 淳子

女性と東西思想

女性の視点から東西思想・宗教を解説し、〈女性的読みこみ〉を提唱する意欲的な試み。1900円＋250

T.ヘラー／矢嶋 仁訳

リーダーとしての女性 そして男性

女性管理職にまつわる社会的偏見をやぶり、リーダーシップ研究に新しい局面を拓く。2200円＋300

D.ハیدن／野口・藤原他訳

家事大革命

アメリカの住宅、近隣、都市におけるフェミニストデザインの歴史。女性たちの挑戦の書。5400円＋300

勁草書房

東京文京後楽2-23

☎814-6861 〆東京5-175253

N先生と私

三月のある日、生活も少し落ちつき、受験準備や心得もあろうかと思ひN先生を訪れた。

N先生が私の声楽の師となったのは、私が五年間音楽を学んだ日本のS学院での偶然のまわりあわせである。

彼と私とは初めから合性が悪かった。

レッスンを取り始めた後間もなく、彼は私に言った。薄笑いを浮かべながら……。

「この学校は東京で、国立、私立の全部の音楽学校の受験に失敗した能力のない人がくるんや。あんた少し声があるけどナ、あんたぐらいの人は芸大に行ったらゾロゾロいて、珍しくもないんや」

S学院を特別誇りにしてもいいけれど、とくに劣等感もなく平然としている私に、芸大に対する劣等感を強制したいような口ぶりであった。

細い身体、やせた三角の顔に縁なし目鏡をかけ、上目使いにジロジロと人の顔

を見るN先生。

芸大出ということが彼の最大の誇りでもあり、支えでもあった。(不思議なことに、生徒に対してこうした態度を取るのは、声楽とピアノの先生に多かった。作曲畑の先生たちで、S学院の生徒を見下した態度を取る人には会ったことがない) 当時の私は柄こそ小さくとも、若さと力に満ち、笑い声は百メートル先からきこえ、黙って座り、眼をつぶっていても内心のどよめきが空気をザワザワと動かし、まわりに振動を与えるほどの活力に恵まれていた。

年齢的に大差はなかったけれど、人間の質として、N氏と私とは陰と陽の対極にあり、理由もなく反発しあうことが多かったのである。

私はなぜ、そんなN先生のレッスンをとりつづけたのか？ 師弟の配分？は学校側が行なうのだが、造反起こして先生を替わりたいなどと申し出たら師に対する最大の侮辱を加えたことになり、ただ

では済まない。大決心と、覚悟の上、最悪の場合は学校を辞めるくらいのつもりでないと造反は起こせない。

どうしても学校でのレッスンに納得のゆかない人は、個人で別に月謝を払い、別口レッスンをとることになる。三流校でさえこの騒ぎ。一流校になると有名教授の顔をつぶしたの、生徒を取られたのと、緊張感はずっと高まると聞く。私がN氏を動かなかったのは、満足していたからではなく、日本中の先生を総動員しても、私が本当に求めているような理想的な指導者は日本に居ないから、誰にいつても五十歩、百歩と諦めていたからだ。年百年中小骨のあるギクシャクしたレッスンだったが、彼は一つだけだが素晴らしいことを教えてくれた。「話している時と同じのどの状態で歌う」。バカにされようと、苛められようと、声楽の第一歩、話し声と同一の所で歌うという声楽技術の基礎を、声楽を始めてすぐに教えてもらえたことは、私の幸運の一つであった。

さてドイツのアカデミーに入るには、巷の噂によると、受験前に主科の教授との顔つなぎをして声を聴いてもらい、教授が気に入ったら内諾があり、その後公の試験で公平な判断のもとに合格、不合格が決まるという。誰かに教授を紹介してもらわないと、大学内部にとっかかりが作れない。必ずしもN先生の師事している教授でなくとも、一年以上滞在している彼なら何かと情報が得られると考えたのである。

実のところヨーロッパでは直接相手の扉を叩くことが失礼でなく、私は現在まですべてこの方法で百パーセントの成功率だった。ただ当時の私は何が何でも紹介者が必要かと信じていた。

私の申し出を聞いたN先生は、開口一番「僕の先生はアンタなんか面倒見ないよ！」と言いつてた。

唇をゆがめ、頬のあたりには薄笑いを浮かべ、目だけは炯々と光らせていたこの日の彼の表情は忘れられない。

ウィーン大学



嘲りと怒りの混じった彼の震え声に、私は次の言葉を飲み込んだ。

N先生は国立アカデミーの歌曲・オラトリオ科の生徒として在席している。

ある程度の声楽の基礎を積んだ人が、特に歌曲と宗教曲の勉強をより専門的に勉強したい時に受験する科であった。受験資格は、ある一定期間声楽の基礎訓練を

経て、学校側の指定する曲を芸術的表現で歌える人——とされている。芸術的表現には、声の訓練だけでなく、曲の分析、解釈など知的な積み重ねも必要で、ヨーロッパでは声楽を始めて四、五年目くらいで受験する人が多い。

私はここを受験すると言ったわけではなく、初心者の声楽科のほうと言ったのだが、先生は私の前で大演説を始めた。

汝には聴きわけがつかないかも知れないが、十年以上を芸術音楽一筋に生きてきた我々にとってさえも、ウィーン大学の要求する音楽水準は高く、勉強は易しくない。教授は喜んで自分を弟子にしてくれたけれど、正直な話、受験のストレスで胃を痛め、未だに本調子でない。芸大を卒業した我々グループでも、誰もまだヨーロッパで仕事を見つけた人はいない。歌の奥義をきわめるなんてことは、我々凡人に出来ないことだから、短い間の滞在ならば楽しく過ぐすといふ。ドイツ語を学び、演奏会や歌劇場に通い、慣

れてきたら個人の声楽の先生につくのも悪くない。五年、十年の経済的援助があるならば、苦しんでみるのもよいけれど、二年くらいの滞在ではガチガチやっても知れている。退職金がどれくらいあるか知らないけれど、よく考えてごらん……。

冷静に物事を眺めたらN先生のことばはもっとものである。三十に手の届こうとしている語学もままならない女性が、今から音楽の基礎をやり直せるか？ 心細い軍資金で、将来の見通しもなく、友人も身内もない外国で自分を支えてゆけるのか？ 入学が出来ても、学校は最終目標でなく、仕事をする上での技術の習得にすぎない。歌手として立てるか否かは才能と運にかかっている。ウィーン国立アカデミーを卒業できたとしても、歌手としての評価にはつながらないのだ。

私に才能があるのか？ 才能の有無より声楽のやり直しに五年必要として資金をどう工面する？ 本当のところ、ヨーロッパという土地に憧れただけで、洋服に

関心がない人間がバリモードに憧れるように、声楽という抽象物に魅かれただけの違いではないか？ 日本のきびしい現実からの逃避ではないのか？

楽天的な私もこの夜だけはベッドで輾転とし、夜がしらじらと明けるまで眠れなかった。

十数時間たち、身も心も疲れ切ったころ、結論がでた。

激動するこの世の中で、五年、十年先のことは誰にも予測できない。まして芸術分野で、私に才能があるか否か、一晩や二晩の徹夜でわかるわけもない。今は半年先の受験だけを考え、誰の紹介も助けもない状態で合格したら、神が私にチャンスを恵んだと考え、不合格ならば先生の言うように楽しくヨーロッパ見物をして帰国しよう。

渡欧のチャンスを作ってくれたことに感謝する以外は、以後N先生を当てにしたり、相談を持ちかけたりすることはすまい、と……。

老後問題をあらゆる角度から考える、わが国唯一の専門誌

月
刊

ゆたかな暮らし

毎月20日発売 全国老人福祉問題研究会編集 発行(発売元・同時代社)

A 5判96頁 定価500円(送50円)

充実した特集と役に立つ記事が満載

本誌購読の方法

住所、氏名、定期購読の内容等(いつから、何部)を記載し出版部にお送りください。以降本誌を定期的にお届けします。代金(年間購読6000円送料6000円)は本誌同封の郵便振替用紙をご利用ください。

- 1月号 ゆたかな老人達
- 2月号 危機に立つ社会福祉労働
- 3月号 ボランティアの役割
- 4月号 遺産

ゆたかな暮らしをすいせんします

小川政亮(日福大教授)、川上武(みさと健和病院顧問)、島添彦(京大名大教授)、杉本美江(日本社会福祉労組委員長)、公文昭夫(総評社会保障部長)、泰安雄(日福大教授)、原田正二(大正大教授)、小倉寛二(同志社大文学部長)、山田洋次(松竹映画監督)、儀我社一郎(専修大教授)、小池保子(日福大助教授)、早乙女勝元(作家)、真田是(立命館大教授)、芝田進午(広島大教授)、寿岳章子(京都府大教授)、庄司博一(労働経済研究所長)、菅原恵子(むさしの共立診療所院長)、住谷繁(同志社大教授)、高島進(日福大教授)、中島紀恵子(千葉大助教授)、長宏(日恵同盟会長)、木下恵介(映画監督)、綿織義宣(長浜和光園園長)、関増爾(帝風会病院院長)、浦辺史(日福大名大教授)、坂入博子(老後保障推進協)、江口英一(中央大教授)、繁谷善教(日本社会事業大名大教授)、三宅貴夫(医師)、冨木俊一(日福大助教授)、前田甲子郎(名古屋市厚生院長)、一番ヶ瀬康子(日本女子大教授)

(順不同・敬称略)

全国老人福祉問題研究会出版部 東京都新宿区住吉町9 TEL 03(353)2239振替 東京9-162684



季刊生活倶楽部第10号

生活年鑑

定価480円

A 5判 128ページ

1986

この1年、あなたの暮らしはどう変わりましたか。

そして、1986年の暮らしはどうなるでしょう。

いま、暮らしに何がおきているか、

そして、わたしたちの課題は何かを

読者といっしょに考えていきます。

生活クラブ生協連合事業部広報室・発行

〒156 東京都世田谷区宮坂2-26-17 ☎03-706-0039

ご注文は、最寄りの書店(地方小出版流通センター扱い)または直接ご連絡を

情報 コーナー

●ドイツ語を

勉強しませんか

私は台湾で二年間漢学を学んだオーストリア人（男性）です。今度は日本語を勉強しに来ました。もし、ドイツ語に興味があれば、初めての方でもかまいません。学生を求めています。また、英・仏語も可、ピアノ社交ダンスも教えられます。

◆連絡先 192八王子

市打越町一六四三一二ハ

イマン Tel〇四二六―三五―二八七二

●新刊紹介

「中絶 女たちからの

メッセージ」

女のためのクリニック準備会
編集 発行

中絶について、真剣に女の立場で考え、つくられました。

どこに気をつけて医者を選ぶか？

手術はどんなふうになる？ 経過のチェックポイントとは？……やさしく

相談にのってもらえる、女医さん、助産婦さん、女友だちともいえる

「本」です。

自分の体をいとおしみ、貴重な人生を有意義に生きるためにも、ぜひ一読下さい。

◆申し込み・問い合わせ先 女のためのクリニック準備会85 大阪

市東区玉造二一六―二 Tel〇六―七六四―七〇〇一



●「ジャック・白井

映画づくり」に

ご協力下さい!!

いま、シヨル兄妹（反ナチ・キリスト者）の「白バラは死なず」が上映されていますが、もう一つの映画にも関心を持っていただきたいのです。主人公はジャック・白井。スペインで戦死したただ一人の日本人義勇兵です。

私は、「朝鮮人強制連行の記録」などを読んでイヤになっているときに彼を知り、救われたような気

情報 コーナー

持ちになりました。生きて帰って
はしかったと思いますけれど。

戦争では、こともなげに仲間の
死体を埋めるものだ。しかし、そ
の日、七月十一日の夜がくると、

ジャッキーの同志たち

は浅い墓穴に彼を

入れ、鉄かぶ

とを脱いで

立ちつづ

けた

ステイ

ーブ・ネ

ルソン「義

勇兵」より

今年（一九八六年）

は、スペイン戦争ばっ

発五〇周年です。白井と親交のあ

った石垣綾子さんや、石垣さんの

「スペインに死す」を読んで感銘

を受けた人たちは、七月完成を目

ざして資金あつめに奔走していま

すが、なかなか大変なようです。
協力して下さる方は、

東京都調布市富士見町四一八五

八五四四 福原圭一氏

Tel 〇四二四一八五―八五四四

夜六時から、〇三―三四一―五

九七七までご連絡下さい。福原氏

の手許には石垣さんサイン入りの

「スペインに死す」がありますの

で、こちらで協力して下さい方も

歓迎します。（静岡県 田中久子）

●カウンセリング 体験学習

成長グループと一緒に体験学習を
しませんか。「今年は何をやって
みようか」考えている方、グルー
プの中で、自分の考えていること、
感じていること、気になっている
ことなど話し合ううちに、自分や
他人に気づき、かわることの中
で、新しい生き方に出あえるでし

しょう。

◆期間 四月一七日から毎週木曜

日（午前／夜）全一二回

◆場所 渋谷区代々木一―五四―

五―三〇一 朝日カウンセリング

研究会

◆参加費 一五〇〇円

◆問い合わせ・申し込み先 朝日

カウンセリング研究会 Tel〇三―

三七〇―二三七〇

◆申し込み期間 四月一日～四月

一四日 一〇時～一六時

+

●「源氏物語」セミナー

―のご案内

紫上、夕顔、藤壺、六条御息所、
葵上、明石上、玉かつら……、配
役したら女優は誰？

ユネスコが選んだ世界の二大古典、
誰でも知っていて、なぜか読まな
い不思議の傑作、「源氏物語」を
いっしょに学びませんか。

●三月「源氏物語の女たち」



情報 コーナー

◆日時 三月二日(日) PM一時～四時

◆場所 代々木八幡区民会館(代々木公園 代々木八幡下車五分)

◆講師 長塚杏子(評論家)

◆参加費 一五〇〇円

(学生二二〇〇円)

●常時「源氏物語」講

◆日時 毎土曜PM二時～四時

◆場所 代々木公園 園文化村(代々木公園 下車三分)

◆講師 長塚杏子

◆参加費 一五回で一五〇〇円(学生二二〇〇円)

※問い合わせはいずれも代々木公園文化村まで(Tel四六六一五五二〇〇)

●ただいま思案中

「何か夢中になれるもの、ないかなあー」と思っていた矢先、週刊誌をめくっていたら「ワープロ」の広告が目にとまりました。「これだ!!」

でも飽きっぽい私のこと、高いお金を出して買っても使いこなせずに放っておいて、主人に嫌味を言われるかも。「ああ、ただ欲しい」

「私も使ってますよ」と言う読者の方、お手紙下さいませんか。

◆210川崎市川崎区東門前三一三 藤原淑子



(え・カステラネンコ)...

第三期カウンセリング研修会

現代家族問題研究会主宰

◆プログラム

第三回 二月一八日(火) 講師

・円より子 ケース③「夫の浮気」ケース④「専業主婦自閉症」

第四回 三月四日(火) 講師・渡辺久子「子育ての子育て」

第五回 三月一八日(火) 講師・円より子 ケース⑤「性のトラブル」ケース⑥「神経性冷感症」

第六回 四月一日(火) 講師・細川えみ子「ウーマンズ・セクシュアリティ」

第七回 四月一五日(火) 講師・円より子 ケース⑦「中絶と夫婦関係」ケース⑧「女の自立とは」

第八回 四月二九日(火) 講師

・細川えみ子「あなたのからだにいていますか」

◆時間 PM六時三〇分～八時三〇分

◆場所・申し込み・問い合わせ先 円より子事務所 東京都渋谷区神宮前三一三三一・二〇三 Tel〇三・四〇二・七三五四

◆定員 一五名

◆費用 一八〇〇円(全八回通し)

◆講師紹介 渡辺久子先生 横浜市立市民病院神経科勤務の児童精神科医

細川えみ子先生 東京都庁衛生局勤務 産婦人科医

円より子 ニコニコ離婚講座主宰 現代家族問題研究所代表

円より子 ニコニコ離婚講座主宰 現代家族問題研究所代表

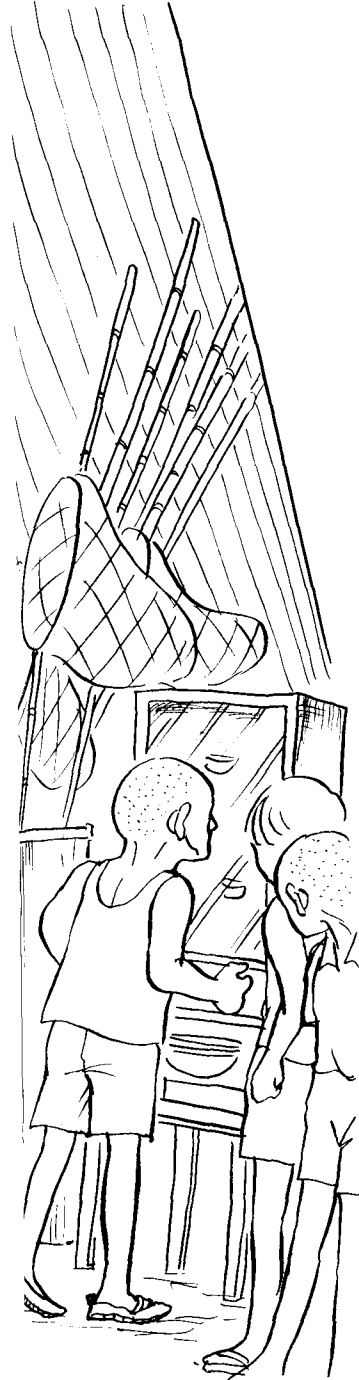
禁止禁止

対話 ありあ



私の昭和史 ④

桜井淳子





養護学級

二年になると私は養護学級へ編入された。

油面小学校は、虚弱児や病弱児を集めて、特殊教育をしていた。二年生と三年生に限られており、そこで二年間のんびりと、体力を養いながら学んでいく教育方針だった。

一年生のとき、あまりにも小さくて、普通の生徒に伍していくには体力がなかった私には辛い日々であった。私は悪童達のいじめの対象にされていた。

体格的には、一年生の中で一番小さかったが、気は強かった。男の子にからかわれたりいじめられても、めそめそしてはいなかった。いじめられたら必ずやり返す気性の烈しさがあった。口も達者であった。

体の大きな男の子から見れば、小さな女の子のほうが勉強ができた、先生に褒められたりするの、面白くないのであろうか、特にそんなときは、私をいじめた。

「チビ、チビ」

とからかったり、髪の毛を引っばったりする。

三木という名字をもじって

「ミッキー、ミッキー」

と呼んでは、ふざけることもあった。

私は、チビと言われたり、ミッキーと呼ばれたりするのは別に気にならなかった。本当にチビであったし、ミッキーというのは、かわいらしいミッキーマウスに似てるからだと自分でも信じていた。

でも、根性の悪い男の子の何人かは、

「お前の父ちゃん、クソ坊主、ナマグサ坊主ナンマイダ」と私のことをからかった。私は、自分のことを悪く言われるより腹が立った。そして、許せない気持ちではむかつた。ある日の下校時。クラスで大きな男の子でいつも私をいじめののを楽しみにしている子が、例の、お前の父ちゃん、を連発した。

初めは、知らん顔をしていたが、あまりのしつこさに、私は怒り心頭に発して、その子にぶつかっていた。非力なので、すぐに、その子に投げ飛ばされた。いっしょに下校中の一年生は、この出来事に、バラバラとまわりに集ってきた。投げ飛ばされ、地面に叩きつけられたときに、私は思わず石を握りしめていた。そして、その子の顔めがけて、石を投げつけた。石は額に命中した。男の子の額は割れて、血が流れ出た。私の思いがけない反撃と、自分の額から流れる血を見て、その子は、大声で泣き出した。

見物していた一年生の一人が叫んだ。

「ミッキーさんが勝った!!」

すると、全員が口を揃えて

「ミッキーさんが勝った!!」

と叫んだ。

いつもいつも、いじめられていた私が、勝ったのだ。いじめっ子は泣きながら逃げていった。

翌日、私が原っぱを抜けて、家へ帰ろうとすると、姿が見えないのに、

「ミッキーさんが通る!!」

と男の子の声がした。

「ミッキーさんは強い!!」

別の男の子の声がした。

「ミッキーさんはカワイイ!!」

違う声がした。

サワサワと草がゆれて、草の中から男の子達が姿を現わした。私の行く手に座って、みんなは土下座した。

「ミッキーさん、いじめませんから、石を投げないで下さい」

「ミッキーさんは強い!!」

「カワイイ、カワイイミッキーさん!!」

男の子達はふざけて、私に言った。そして私の後から原っぱを歩くのだった。

「ミッキーさんが通る!!」

を連呼しながら。これは、楽しいあそびであった。そのあそびはしばらくは続いた。

私は幼い心で考えた。何故、男の子は私をいじめるのだろうか。何故、父のことを、あんなふうが悪口を言うのか。私の父は、何故、僧侶なのか。私が普通のサラリーマンや、商店の子ならば、あんないじめられ方はしなかっただろうと考えた。

私はこのころから、父の職業をうとんじ始めるようになった。私は、人から父の職業を聞かれても、必要なとき以外は黙っていた。自分は大人になったら、ぜったいに、父のような職業の人とは結婚しまい、と決めた。

養護学級は、二年と三年との複合クラスであった。二年年集めても三十人前後の小さなクラスだった。当時の普通クラスは、五十人〜六十人が一学級であったのに比べて、人数も少なく、設備もよかった。

養護学級に救われた生徒達は、虚弱児や、病弱な子ばかりであり、普通のクラスでは、私のようにいじめられていた子が多かったのだ。人をいじめるような子はいなかった。それだけでも私はうれしかった。いつも、緊張して男の子に対していなければならなかったときに比べて、体中の力

が抜けたようだったが、精神的には楽になった。

学力よりも、体力に重きをおく学級なので、学校で勉強する他は、宿題もなければ、予習も復習もしなくてよかった。

クラスの半分の側が二年で、半分が三年生。二年生が国語の朗読をしていると、三年生が算術をしている。二年生が、九九を暗唱していると、三年生が国語の書取りをしている。唱歌の時間や、体操の時間は、いっしょであった。工作も図画もいっしょであった。

担任の先生は、宮川先生といって、背の低い、でっぴりと太った体で、めがねの奥からとてもやさしい目がいつもほほえんでいた。

「だるま」という仇名であった。

養護学級には、虚弱児というだけで、頭の良い子もいた。絵がずば抜けて上手な子、唱歌がうまい子、何かしら特技を持っている子が大勢いた。

養護学級は、教室の周りを広い廊下に囲われており、廊下には、洗面所があり、食事の後は歯をみがいたり、外から帰ったときは、手を洗うようになっていた。毎日、検温をした。

広いロビーがあり、そこには、太陽燈という当時では、

医療の最先端をいく設備も整っていた。

大きな円筒形の太陽燈に入るときは、男の子はさるまた、女の子はズロースだけの裸になり、熔接工のかけるような色めがねをかけてはいった。中に入ると、真ん中に、大きな光を出す、機械が設置されており、その周りに、真鍮の手すり張りめぐらしてあった。子供達は中に入るのを面白がっていた。

「太陽燈に当たる時間ですよ!!」

看護婦さんの言葉に、私たちは嬉々として、裸になった。裸になると、みんなやせていた。骨がガリガリの子もいた。私は、ガリガリではなかったが、骨細でかぼそかった。

宮川先生は、一人一人の子供の個性を伸ばすように心掛け、たえず健康に気をつけていた。毎日、カルシウムと肝油を服まされた。牛乳も一本飲まなければならなかった。

私にとって、牛乳を飲むのは大変なことだった。すぐに下痢状態になるので辛かった。また、あの臭いが大嫌いであった。飲まずに、いかにして捨てるかに苦労したものである。

体操の時間に雨が降ると、みんなは先生に話をねだった。宮川先生は、講談が上手であった。岩見重太郎のしし退治“荒木又右衛門の仇討”、塚原卜伝“義士銘々伝”、義士外伝“等、生徒に解るようにやさしく面白く、机を新聞紙の丸めたので叩いたり、手振り身振りおかしく話した。



浪曲はもつと生徒によろこばれた。『三十石船』は先生の十八番であり、『すきいねえ』のせりふは見事であった。

宮川先生から教わったものは、人の心のあたたかさであり、やさしさであった。

宮川先生は、天気の良いときは急に、みんなを連れて散歩に行くことが度々あった。

「さあ、今日は天気が良いから、教室の中でうじうじしていないで外へ行こう」

みんなは、ランドセルの中へ、おべんとうだけを入れて背負い、三々五々、先生といっしょに学校を後にした。

「先生、どこへ行くの？」

「そうだなあ、足のむくままで、気のむくままで」

「先生、今日はお不動さんへ行こうよ」

「うん。行こう」

連れ立って目黒のお不動さんへ、ぞろぞろと出かける。

ぶらぶらと境内を歩いたり、公園であそんだりしているうちにお昼になる。公園の芝生で車座になりおべんとうを食べる。そんなお散歩のあるときであった。

足のむくままで、気のむくままで、みんなで元競馬場の広い広い原っぱへやってきた。草原にねころんだり、雲を眺めたり、赤とんぼをつかまえたりしていた。なんとなく、

雲の動きが速いなと思っていたとき、ゴースという音とともに、原っぱの一角から龍巻が、ものすごい早さでやってきた。

「みんな集って、しっかりと手をつないで地面に伏せなさい」

みんなは、先生に命令された通りに、手をつなぎ、草の中に身を沈めた。私は、おそろしさにふるえながら草の中に頭をつっこんだ。ふと、あたたかな息を感じると、宮川先生の大きなふところにかかえられていた。小鳥のようにふるえていた私を、先生は哀れに思ったのであろう。

「こわくないよ、先生がついているから」

と、先生は私の耳元でささやいた。私のふるえはとまった。

「龍巻はいっちゃった。みんなみてごらん」

先生の声でみんなは、渦を巻きながら原っぱの彼方へと消えていく龍巻を見た。

運動会のころになると、養護学級でも、普通クラスに負けないように練習をした。

運動会は、学校の大きな行事であり、子供達の楽しい出来ごとの一つである。体操の上手な子や、かけっこの早い子達の見せ場でもあった。勇ましい行進曲の流れる校庭で、ピストルの音とともに走る競走、リレー、綱引、玉入れ、騎馬戦、ダンス……。

華やかな栄光のかげには、運動会の嫌いな子供達もいるのだった。虚弱児達にとって、運動会は、そんなに楽しいものではなかった。いつもビリの徒競争。一等、二等、三等の子供達に与えられる、赤、黄、緑のリボンを横目で見ながら淋しく去っていくのであった。

普通、徒競走は、八人十人が一組になって走るのが常であった。そして三等までが、リボンをもらい、胸に飾ることができた。

宮川先生の配慮か、養護学級は、三人一組で走ることになった。誰でもがリボンをもらえるのである。一年のときは、リボンをもらった子は、ほとんどのいなかったに違いがない。必ず必ず、等に入れたのである。

学級全員で参加する出しものは、「芋拾い」であった。さつまいもを、玉といっしょにばらまき、早く、たくさんのかつまいもをかごに拾ったものが勝ちという単純なものであった。

この運動会で、養護学級の生徒は、みんな運動会が好きになった。全員が、胸に輝く、リボンをつけてもらい、かごいっぱいのかつまいもを景品にもらったからだ。

普通クラスの子供達の羨望のまなざしを面映く受けながら、私は意気ようようと運動会から帰ってきた。

昭和十四年、秋、小学二年生であった。

紀元二千六百年

金鶏きんしあがつて十五銭せん

栄はえある光三十銭

今こそ高いこの煙草たばこ

紀元は二千六百年

ああ、皇国こうこくの火はいずる

この歌は、誰かが、勝手に作った紀元二千六百年の奉祝ほうしゅく歌の替え歌である。金・鶏きん・けいという煙草や、光という煙草を当てはめたもの。

昭和十五年。日本は建国二千六百年にあたるので、国を挙げての祝賀気分で、湧いていた。

日独伊の三国同盟も調印。日本はファシズムに覆われていった。

日本の国が大きな世界の潮流に乗せられていくのにもかかわらず、子供の世界は、まだまだ健全であった。

原っぱを横切って次の町内に行くと、そこは長屋が何軒も続く小さな町であった。その長屋の端に駄菓子屋があった。

「よっちゃんの駄菓子屋」というのである。

なんで「よっちゃん」というのか誰も知らない。腰の曲がったおばあさんと、三毛猫が住んでいた。店は間口一間、奥行一間の小さなものであるが、子供の欲しいものが、所せましと並べてあった。

一銭で買えるものばかりである。玩具はベーゴマ、メンコ、ビー玉、日光写真、おはじき、ぬりえ、紙のきせかえ人形、季節によつては、一銭では買えないが凧、羽子板、羽根、かるた、家族合せ、十二支合せ、双六、福笑い、ほおずき提燈、とんぼとりの竿、捕虫網、等々。

駄菓子も一銭で買えるものばかり、五個も買える黒い大きな鉄砲玉、薄荷玉、茶玉、いちごの形の紅いいちご飴、金太郎飴、サイコロ飴、たいの形のたいせんべい、ふ菓子、あんこ玉にしようかん、細いガラス管に入った、赤や黄、緑のゼリ！。

どれもこれも、子供の購買心をそそるものばかりであるが、やはり人気は、むき、であった。むきとは、くじのようなもので、だるまの形の大きさの違う飴の頭に糸をつけてある。大中小のだるまは、束ねた糸の一本を引くことにより、ときには一銭で五銭分くらいの大きなだるま飴を引くこともある。ほとんどは、小さな飴ばかり引いてしまうのだが。また、細い紙を丸めたものを一銭で買う。それをほぐすと、中に、あたり、はずれ、の言葉があり見合った

菓子ももらえる。

あんこ玉の中に、豆が入っていて、一つのおんこ玉を買い、その場であんこ玉を割って豆が入っていると、もう一個のおんこ玉ももらえる。運が良けりゃ、続いて豆の入ったあんこ玉にぶつかる。

射幸心をねらった子供向けの博打である。

むきその他に、子供が夢中になるのは、ガッチャンであつた。

子供達は、ガッチャンと呼んでいた。現在のパチンコである。パチンコは、十八歳未満お断りと店に子供は入れないが、あれは、子供のお遊び道具であつたのだ。

但し、今のパチンコは所定の場所に、パチンコ玉が入ると、ジャラジャラとパチンコ玉が出てくるが、昔のガッチャンは、大当たりとか当たりとか書いてあり、そこに玉が入ると、キャラメル箱が出たり、チョコレイトが出てくる。そして玉が外れの穴に入ると飴玉が二つか三つ出てくるだけである。

ガッチャンの上手な子供は、一銭で、五銭のキャラメルやチョコレイトを稼ぐのだった。よっちゃんの駄菓子屋の前にも置かれてある。ガッチャンには、いつも悪童がたかっていた。

一銭玉を機械の中に入れると、玉がころがり出てくる。

その玉をはじくときに、ガッチャンと音がする。玉はたくさん釣にぶつかり、あるときは当りの穴に入るが、ほとんどは下のはずれの穴に落ちた。

私は、「よっちゃんの駄菓子屋」が大好きであつた。好きなものが山とあつたし、大きな三毛猫も好きだった。なによりも、あのおばあさんが一番好きであつた。

「ちようだいな」

声を張りあげて叫ぶと、奥から（奥といってもお店の次が座敷で、その奥は小さな台所で、その先は井戸端であつた。店の前から、裏が丸見えの家であつた）おばあさんが、老眼鏡をかけて出てくる。いつもあみものをしている。あみものを手にしたまま、老眼鏡をずりあげお店に出てきて、しぼんだ口でにっこり笑う。

「いらっしやい。何んにする」

私が迷って考えていると、

「今日は、これを買うとおまけするよ」

といって、あるときは、いもようかん、あるときは、鉄砲玉を覚えてくれた。いもようかんは、一つとおまけに半分もくれたり、鉄砲玉は、六コもくれたりする。猫も、「にゃあー」といって、挨拶した。

長屋の一角にある広場は子供のお遊び場でもあつた。そこで子供達は、馬とびや、なわとび、まりつきをしてあそ

だ。男の子は、メンコ、ペーゴマ、ビー玉などであそぶ。

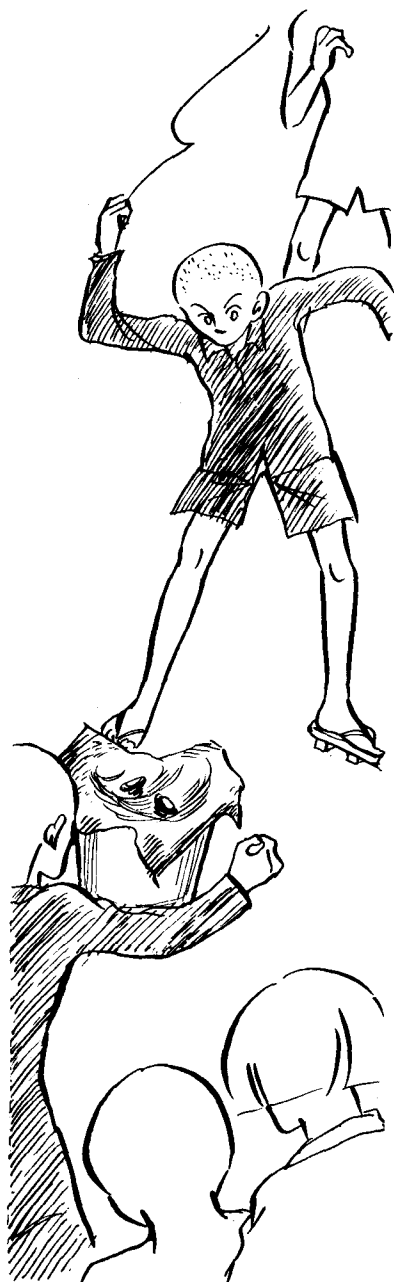
メンコは丸いのや、角いのがあるが、ボール紙で出来ており、表には、武者絵が張ってあり、それを地面に叩きつけて、相手のメンコをひっくり返すのである。丸メンで大きいのは直径が20センチぐらいのもあった。チビメンは三センチしかなかった。女の子が、千代紙やぬりえを集めて大切にし、お互いに見せ合ったりするように、男の子も、メンコを集めて、互いに強メン（強いメンコ）だの弱メン（弱いメンコ）だのと見せ合っていた。

強メンは、いつも勝っていた。何回も地面に叩きつけられていたので土に汚れ、子供の手あかで光っている。武者絵は如何にも強そうな弁慶であったり、兜をかぶった大将

だったりする。

弱メンは、すぐに相手のメンコに引っくり返されて、負けているので、男の子の手から手へ渡って歩くかわいそうなメンコである。

メンコが比較的、小さな男の子のあそびなのに対して、べいごまは大きな男の子のあそびであった。べい貝に模して作った鉄のこまである。べいごまが転じてべいごまになったという。掌にかくれるほどの鉄のべいごまを、強いひもできりりと巻き、力いっぱい叩きつけると、こまは、うなりをあげて廻る。それに、もう一つのこまを叩きつける。強いこまは、弱いこまをはじき飛ばす。これがあそびである。はじき飛ばされたほうは負けである。自分のべいごま



に男の子はいろいろと工夫をする。絵の具で色をつけたり、鏝でこすり、自分なりの型を作ったりする。

べいごまの大勝負があると、長屋の子も、近隣の子も、広場に集ってくる。大勝負とは真剣勝負のことであり、大勢の子供達の前ですので、インチキや卑怯なことは出来なかった。

子供達の口から口へ、大勝負の話が伝わり、そのときは、広場は子供でいっぱいになり、よっちゃんの家菓子屋は繁盛した。

馬穴に小さなごまをかぶせ、そのごまに水をかける。ごまの上が勝負の場であった。最初は、小さな子供から始める。それなりの勝負がくり広げられる。段々と勝負が深まり、最後に、すうちちゃんと、それに匹敵する大物によって勝負が始められる。

すうちちゃんは、べいごまの一番強い子であった。よその町の強い子がすうちに挑戦する。場内は、しーんと静まり、かたずをのんで待っている。

最初にすうちちゃんが、愛用のひもで、自慢のべいごまを、ごまの上に打った。こまは、生きているようにうなりをあげてごまの上を動いている。相手の子がねらいをつけて、すうちちゃんのこまのすぐ横に自分のこまを打った、ししゅんのうちに、そのこまはねとばされてしまった。

二回目に、負けた子が先に打った。すうちゃんはねらいをつけて、自分のこまをその子のこまにすれすれに打ちつけた。目にもとまらぬ早業か、相手のこまは、うなりをあげて、ごまの外に飛んでいった。

二回の勝負でけりがついたのだ。

水を打ったように静かだった広場に、どよめきがあがった。三本勝負の内、二回勝てば終りであった。

大勝負の話は、尾鰭がついて流布された。

すうちちゃんは長屋の一軒に住んでいた。母子家庭で、妹のたかちゃんと、お母さんの三人であった。お母さんが稼ぎに出るので、昼間は、すうちゃんの家は、子供達でいっぱいであった。すうちゃんは六年生で、背が高く体格のがっちりした少年である。

いつもにこにこした可愛い顔をしているがしっかりした頭の良い子であった。小さな子供の面倒をよく見、やさしかった。すうちゃんは、集った子供達に、自分の家の掃除をさせたり、買物にいかせたりした。すうちゃんに命令されると、子供達は、嬉々として働いた。よく働く子に、ビンの王冠の勲章をつけてあげた。みんなで作ったおにぎりを車座になってたべたりしていた。すうちゃんの家は、長屋の中で一番きれいであった。

近所の女の子も、すうちゃんにあこがれていた。べいご

まの名人であそびは何んでも強い。やさしい、頭も良い、自分の子分が、理由もなく隣町の子にいじめられたら、ただではすまなかった。決闘書を出し、謝らせた。謝らないと、相手をこてんぱんにやつつたりした。

大人はすうちゃんのことを餓鬼大将と呼んだ。そして、長屋のおかみさん達はこう言った。

「家の子は、いくら言ってもお使いにもいかない、掃除もしない、薪も割らない。それなのに、すうちゃんの所で薪は割る、掃除はする、お使いはする。一体全体、どうなっているんだろ」

「そうだよ、家の子だって、すうちゃんを神様みたいに思っているんだから」

我が家の近所にも子供は大勢いた。サラリーマンの家の子も商店の家の子も。あそびもいろいろあった。お人形ごっこ、おままごと、「やれやれやれやれ今日は」これはゼスチャーあそびである。かくれん坊、鬼ごっこ、悪漢探偵などなど。しかし、私は、原っぱを越えた、あの長屋の子供達とあそぶのが楽しかった。

すうちゃんを頂点にした子供達の団結力、ざっくばらんなおばさん達の話。気取った子は、長屋の子供達は下品だと言って、あそばないが、人を馬鹿にしないあたたかさ、弱い者に対するいたわりが自然にじみ出ていた。人情が

あった。

だから、私は、いつも昭和湯にいった。長屋の近くのお風呂屋である。我が家からは、昭和湯よりも近い、中野湯と、大塚湯があったが、一番、小さい昭和湯が好きだった。あの辺りの人々が入る風呂であつたから……。

洗面器にシャボンや、へちま、手拭を入れて着替えの肌着をタオルに包む。それらをかかえて、原っぱを横切り長屋の中を抜け、よっちゃんの駄菓子屋の前を通って昭和湯に着く。富士山の絵のかいてある壁を眺めながら湯船に浸り、のんびりする。

お風呂の帰りに、夏ならば、よっちゃんの駄菓子屋でアイスクャンデーを買い、なめながら原っぱを横切つて我が家にかえりつく。

冬の夜は、体の芯まであつたまり、ぬれた手拭を星空の輝く空へふりながら原っぱを歩く。手拭は、ぴーんと凍りついて棒になる。家に着くと、あつたかい晩ごはんが待っていた。

餓鬼大将、駄菓子屋、子供達の勝負、それらは、半世紀の時の彼方へ忘れられてしまったもののだろうか。

(え・田井亮子)

ワンポイント情報

7

冷凍してよかったたべもの よかったやりかた

トウモロコシの冷凍、最高です

一七〇㉔のワンドアの冷蔵庫と一

二〇㉔の冷凍庫を使用して十年、

とても便利に使用しています。共

働きのときの、休日のまとめ作り

また母の手作りをもらって入れた

り、母と情報交換しながら使用し

ています。

実家が北海道のせいか、私の大好

物はトウキビ（トウモロコシ）の

冷凍です。生のまま冷凍して食べ

る直前に冷凍のまま茹でれば、も

ぎたてそのものです。ただしもぎ

たてをなるべく早く冷凍すること
です。

油アゲの安いときに沢山購入して

油抜きをして使用したい形に切っ

て冷凍へ。私はおみおつけの中に

ポイと入れる。ニンジン、千切

東京都練馬区 谷口 知子



りにしてさつと炒める。あと薄くして冷凍へ。冷凍のまま炒め物に使用、他なんでもOK。私は、ケ

納豆は便利。大根のなますもOKです。

チップのみで炒める。おいしいです。さつまいもを輪切りにして、さつと茹でる。冷凍へ。解凍して

天ぷらに。生と変わりありません。入れることができます。やはり、

困ったときの冷凍庫

買い溜め、作り溜めで食生活を切り抜けている。築地へ行った直後

など、小魚、昆布、ごま、お茶等の乾燥物、ちくわ、すじ等のおで



なんといっても焼きたてのフランクパンを食べるサイズに切って冷凍するといつも、おいしいパンにお目にかかれる点が、嬉しいことです。

ん種、そして魚は下味をつけたり、腹わたをとったり、肉類はパン粉をつけたり、みそ味をつけたりして冷凍庫へ。

作り溜めの方は、時間のある時に菓子などまとめて焼き、スポンジ、マドレーヌ、中華まんじゅうと全て冷凍。肉類などは、ローストビーフ、焼き豚など肉のかたまりは、味もかわらず、急の来客にも大助かり。ローストビーフなど正月用にいと友人から頼まれるので、暇な時に焼きだめしておき、いつでも



神奈川県藤沢市 河野 民枝

渡せるように冷凍しておく。ただ、ミートローフのように、玉ねぎ、ゆで卵を混ぜて焼いたものは冷凍はダメ。やわらかくなり、味もかなり落ちる。野菜は、ほうれん草、小松菜など、固めにゆでてキュッとしばり、小分けにして入れる。味の点からは、買ってすぐ、作ってすぐにはかなわないが、「困った時には冷凍庫」といった感じで大活躍している。

あきずに食べられる自家製つくだ煮

つくだ煮など作る場合は分量が多
くても手数はさほど違わないから、
入手した五百グラムの小女子^{こうじ}に五
十グラムの山椒の実を入れ、汁が



全くなくなるまで煮た。これをビ
ニール袋に五個に分けて入れ冷凍
して置いた。一袋ずつ自然解凍し
て数カ月の間に食べた。忘れたこ

愛知県刈谷市 原 真智子
ろ食卓に登場するせいか飽きず
に終わった。最後まで味も変らな
かった。また作ってみたいと思っ
ていた。

ほかほかお握りをどうぞ

あれがいい、これが向く、と言わ
れてためしてみるが、やはり冷凍
した食品は、しなかったものより
いまいち味が落ちる、これは自明
の理。

一つ発見しました。
それは何かというと、ごはんのお
握りです。

茶碗に軽く一杯ぐらいごはんが残
ったとき、ラップにくるんでふん
わりお握りにして凍らせる。解凍

東京都新宿区 野本美希子
は電子レンジで三分位。
こうすると、ごはんがふんわりし
て、蒸したときのようにベタつか
ず、実においしくなります。ただ

お料理大キライ人間の私なのに、
そんなこんなであり冷凍庫を活
用しないでいたが、これだけは冷
凍したほうが、しないときより完
全においしくなる、というものを



し電子レンジに長くかけすぎると、
粘りが出すぎてまずい。それと、
分量が多すぎても平均にあたたま
らないので、小さなお握り位の分
量が最高です。一度おためし下さ
い。

どしどし凍らせ何でも食べる

冷蔵庫の上部に、申しわけ程度に
ついている冷凍庫使用のころは、

それほど関心もなかったけれど、
十年前、アイスクリーム屋にある

ようなボックス型（縦40×横30×
深さ80）を友人から貰い受けたと

東京都多摩市 中国 容子
きから、食品冷凍に興味がわいた。
現在、東京郊外のマンション暮ら

し、その上仕事を持っている私にとって、このボックスは家族四人の命綱。何でも放り込んで、買物の苦痛からも開放されている。

まず野菜。ホーレン草、小松菜、インゲンなどの青物は、ゆでて適量ずつラップに包んで入れる。しいたけ、マッシュルームはそのまま。ネギは薬味用、鍋物、味噌汁用と刻んだり斜め切りにして凍らせる。

最近のヒットは人参。皮をむいて花型、短冊、乱切りにして、生のまま凍らせたところ、これがすぐぶる結構。カレーに煮物にソテーにと、必要量取り出してすぐ使える。何より外にさらしておいて、「しなびちゃった」と嘆かずにすむ嬉しさ。

カツ、コロッケ、魚のフライ、餃子など、かつては揚げる・焼く前の段階まで作っておいて、それを

一つずつ並べて凍らせる方法をとっていたが、いまは一度に全部揚げ・焼き、保存分だけ冷ましてボックスへ。こうしておく、いつでも誰でも取り出してすぐ食べられる。カツ一枚あればまたたく間に「カツ丼一丁出来上り」

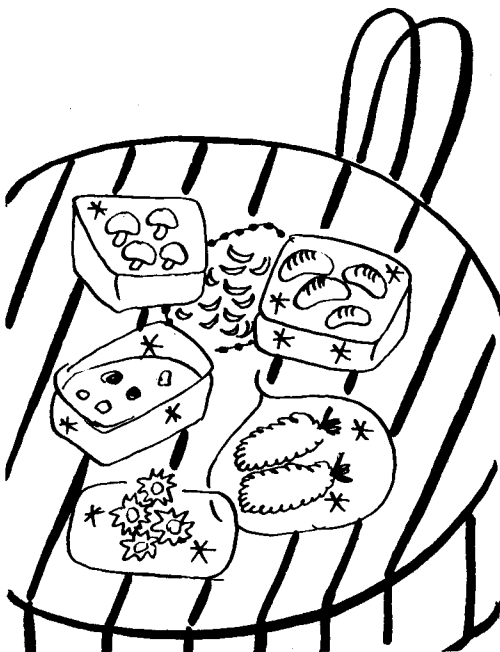
油揚げも冷凍可。生を入れておき、焼くもよし、刻んで（凍っていても包丁で切れます）味噌汁、煮物に使える。子ども達の好きなおいなりさんも、皮を甘辛に煮て冷凍してあるから、寿司飯さえできればすぐ作れちゃう。

この他、パン、コーヒー、のりなどはもちろん、ハム、干物、おでん種、肉、さしみ、いかなどの魚目類、果ては大福、バウンドケーキ、何でも冷凍しておくから不意の来客にも対応できる。

料理研究家や食味評論家諸氏は「冷凍ものは味が落ちる」などと

のたもうけれど、食物は採り立て、出来立てがうまいにきまっている。そのかなわぬ庶民、ましてスーパーは駅前一軒という僻地住まいのわが家では、買物できずにいら立つよりは、ボックスの中にたべもの一杯、の生活の方が精神衛生上どれほどいいか！

これで十年生きてきて、家族が一度も食中毒の体験なし。冷凍庫に氷とアイスクリーム、などといわないで、どしどし凍らせて何でも食べる。みなさまやってみませんか。特に働く女性にすすめ。出前やはかほか弁当とは無縁になりますよ。



（え・万谷陽子）

わいわいガヤガヤ

ぼくは「主人」にはなりません

島根県邑智郡 岡

博之（24歳）

「はい、○○でございます」

「K 大法学部三年の△△と申しますが、先生はいらっしゃいますか」

「今、ちょっと外出しております」

「失礼ですが、先生の奥様でしょうか」

「いいえ、奥さんではありません。○○晶子です」

これは女子学生の△△が○○助教授の家へ電話したときの会話である（通話の一部分を人づてに聞いただけなので、不正確だが）。

○○晶子さんも、相手が学生だからこそ、このようにはっきりとおっしゃったのだろうが、○○さんの言葉に私は大いに共感する。「奥さん」という呼び方は、妻は家庭にいるもの、という固定観念を前提にしているからだ。

また、「主人」という呼び方も、対等な立場で結びついている男女の一方を指す言葉として、適当でないことは言うまでもない。

それにもかかわらずこうした呼び方が多用されるのは、一つには、代わるべき別の呼び方が定着していないためだろう。自分の配偶者を呼ぶ場合はともかく、「奥様（またはご主人）」よろしくお伝えください」などと言う場合には、別の言葉で言い替えることが難

しい。私は可能な範囲で「お連れ合い」と表現しようと努めているが、この言い方はあまり定着していないし、状況によっては不適切な場合もある。

しかし、とにかく「奥さん」・「ご主人」に代わる言葉を見出し、定着させなければならぬ。呼び方は単なる記号ではなく、呼ぶ人・呼ばれる人双方の人格の延長なのだから。○○さんのように「奥さん」と呼ばれることを拒む人が増えれば、男女の平等なかわり方に向かつての確かな一歩となるだろう。私も、結婚したら、「いいえ、主人ではありません」と言いたいと思っている。

いい靴といい友と

東京都葛飾区 鯉淵 道子

先号のワンポイント情報は「いい靴見つけた」でしたが、私も最近とてもいい靴を見つけ、そして同時に「いい友」を見つけた。

私の家から自転車で大手スニーカーに行く途

中の露路の角に「リサイクルの店 ミミ」という折りたたみ式の看板が置いてあり、道順を示す赤い矢印がついている。いつも横目で見て通っていたが、十一月末のある日、ふとのぞいて見る気になった。矢印に従って百メートルくらい歩いて、つき当たりを曲がるとすぐに分かった。

その店は、普通の住宅の軒先に建て増しされたような、間口一間半、奥行き四間くらいの細長いたたみ敷きの部屋で、いろいろな品物が所せましと並べてあった。衣類は勿論、石けんから瀬戸物、人形まで何でもある。一通り見渡したあと、ふと足もとに置かれていた黒い靴に目が止まった。いいデザインで、新品同様である。それにサイズもちょうどよさそうだと、私は早速足を入れてみた。驚くほどぴったりである。両足を入れてたたみの上を少し歩いてみた。とてもいい。何軒靴屋を回っても、これほどぴったりなのはなかなか見つからないのではないかと、思えるほどぴったりであった。値段は二千円である。

私はすぐに買うつもりで、店の経営者らし

い四十歳くらいのテキパキとした女性に、「これとてもいいですね」というと、「そうですね。その靴はたった一度しか履いていなんだそうですよ。でもその人にはどうにも痛くてだめなんですって」といったあと、「でもね奥さん、今日はもうすぐ店を閉めますから、売れる心配はありませんので、今晚一晩考えて、明日もう一度履いてみて、それで気に入ったら買って下さい」というのである。

靴も気に入ったが、その一言はそれ以上に私を喜ばせた。私はいわれた通りに家に帰り、翌日またその店に行つて、間違いない足にぴったりのを再確認してその靴を買った。それを袋に入れて私に渡しながら、そのとき初めて、「これは一万数千円もした靴らしいですよ」といった。私はますますそのミミさんという女性に好感を持った。高価なものだなどという先入観を与えず、自分の目で確かめさせる売り方が気に入ったのである。

それからときどきその店をのぞきに行つて、見知らぬ人々の使った生活のにおいのする品物を眺めながら、ミミさんから、この店を始

めたいきさつや将来の生活設計などを聞かせてもらっているうちに、「わいふ」を読んではしい人だな、と思った。

今日は、偶然に靴の話の特集された先号の「わいふ」を持って訪ねて行き、一あの靴の話、投稿させてもらうつもりよ」と話してきたところである。

執念で手に入れたワイフ

千葉県千葉市 市村 幸子

「声は聞こえど姿は見えず」の如く、新聞、テレビでその存在を知りながら、あちこち本屋さんを駆け回ってもなかなか手に入らず、やっとの思いで手にしたときの喜び。思わずバンザイの一声。正に、一気読みをしたのでした。

アゝなんという素晴らしい味わい／＼目の前に開けたこの世界。

日ごろ、私の中で、妻としてはなく、母としてでもなく、一個の人間として呟き、そ

れが徐々に叫び声に変わろうとしながら、結局はどこにも向け場がなく押し殺されていた、そんな「私」が、「わいふ」の記事のひとつひとつに強烈に反応し、引き寄せられ、充足感を味わっているのです。

この感激を、どうしても一言、言葉としてお礼申し上げたく、またまた一気書きをしましたのでした。

元「特技」を何とする？

東京都国分寺市 たまき久美

履歴書に必ずある特技欄、私はそこではしためらう。「日本舞踊○○流名取」書くべきか、書かざるべきか。

先日「わいふ」アンケートには、しばしためらった後、やはり書いた。

職業にはつながらない特技。しかし、花嫁修業では決まらなかった特技。それへの愛憎。そんな感情が、履歴書の特技欄を見るたび、私の胸のうちに起きる。

結婚して上京、即ち日舞から遠ざかる。こんな状況で五年が経った。

結婚して、半年、一年のころ、「邦楽百選」を見ると、とても悲しかった。ウェットだった私はホロホロ泣いたりした。ときには、テレビの中の舞踊について踊ったりもした。そしてそれがまだできることが、うれしく、少し寂しく——と、まるで、オトメ風の感傷を行きつ戻りつ——していた。

感傷ついでに、もう一つ書けば、今だてみそ汁をよそう手をちょっと休めて、

腰をストンと落とし、右足を前に、左足をかかとだけあげてうしろに、体は少し左に向けて、右手を軽く人を指す形にして口許に持って行き、左手は体にそってなめ下へ、顔は右へ、そして眼は、少し、キッと、かなり艶に流して、笑いのポーズ（もちろん笑いはしない）だって、できるんだぞ、と思う。

誰に「できるんだぞ」なんて言ってるんだろ。きつと亭主に？

今日の夕ごはん時、みそ汁をよそう、オタマをやおら置いて、この姿をしたら、亭主は

気でも狂ったのか、とギョッとするだろうか。そう想像してみると、無性におかしい。

これが、結婚直後だったら、私の「艶な流し眼」の中に「うらみがましき」が混じってまるで、「かさね」のお岩さん風になったろうか。

そう、あのころ、私は夫によくこう言ったものだ。

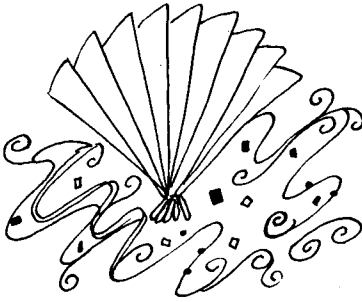
「私は、親兄弟も、仕事も、踊りも捨ててきた。だのに、あなたは何か一つ捨てることのない暮らしをしている。ホントに日本の結婚形態は不公平」と……。

夫は「そんな結婚形態を選んだのは君だ」とも言わず、うなずくでもなし、うなずかないでもなし、そうふくれる私を、よしよし、とでもいうような感情で、私を包んでくれたっけ。

しかし、「女は弱し、されど母は強し」そしてまた「子を生んだ妻も強し」か。今となっては、自分のとった結婚の形を冷静に考えられもするし、その当初の形を少しでも変えよう、としている。

同時に、私にとって「親がかり」の象徴だった「日舞」への思い入れも徐々に消え（いや、意識的に消そうとし）、これからは特技欄に「日舞○○流名取」と書かなくなるだろう。

結婚後五年を過ぎ、時折、ふつ……ふつ……と沸くあの世界への愛惜を、やっと今、こうやって「過ぎにしこと」として私の胸の中へおさめかけた。



とりあえず一筆

神奈川県横浜市 小山たづ子

次号の特集テーマは「長男の嫁」ということ。「割りをくっているな」と痛感している「長男の嫁」とは、まさに私のこと。

購読し始めてから二年、かつて一度も投稿したことのない私もいよいよ参加できる……とはりきってみたものの締め切りは十二月二十五日とある。「長男の嫁」たるもの、この暮れの忙しいときにじっくりすわって、十五枚も書く暇があるのか？ 編集部の方々の両親と同居の「長男の嫁」の立場が少しもわかっていらっしやらない。

これから何十年（ちなみに義父母はともに五十五歳）も一緒に暮らさねばならぬのだから、表面だけでも繕って「いい嫁」にならざるをえないのです。従って暮れは忙しいのです。

二月ごろだったらな……なんて思ったりし

て。でもいざ書き始めたら、愚痴と悪口で埋まりそう。書けなくて、ちょうど良かったのかも。

とにかく、書きたくても書く余裕のなかった者もいると知らせたくてペンをとりました。

「家が建たない」

のは誰のせい？

滋賀県栗太郡 榎野^{のちの}みどり

私の一日で一番慌ただしいのは夕飯時だ。一歳の子供に食べさせ、主人の給仕をし、自分も食べ、テレビのニュースも聞く。

「総理大臣、靖国神社公式参拝断念。妊娠中の主婦、司法試験に合格していたことが判明」と、アナウンサーがやった。テレビ画面には、大きなおなかの女性がアップに映っていた。

年々主婦の就業率は高くなるばかり。共働き家庭にとって、家事をどうするか、は大問題だと思う。近ごろ、電話一本で家事労働の出前をする会社があるそうだ。将来これを進めた「家庭きりもり引き受け会社」なるもの

ができるかも知れない。家計管理、食事の用意、子供の世話、家事をシステム化して、合理的に行なう。要は家事労働の有償化である。

女性が働きに出ると、男性にもいいことがある。女、子供を養うという責任が軽くなる、家が建たないのは、旦那一人のせいではなくなるのである。

「うちの課で海外旅行へいってないの俺だけでえ」

「隣の奥さん、今度課長に昇進してんてえ、帰り、ご主人と一緒にたんなや、えらい我慢そうにゆうとったでえ」

「たまの休みや、接待もええけど、子供の相手したったらあ」

普通の家庭で、夫がこんなことをつぶやく日も近いのではないだろうか。

先の女性は、聴講生として五年間大学に通い、司法試験を受けたのは三度目だったそうだ。私もこの秋、宅地建物取引主任者資格の試験を受けた。一生懸命勉強したが落ちてしまった。かの女性にあやかっつて、三度は試験を受けたいと思っている。

参加しました！

千葉県習志野市 岩崎 八恵

市民会館の催しの中に、編集長田中さんの名を見つけ、ぜひともお顔を拝見したく！
いやお話を拝聴したく、さっそく参加申し込みをしました。

当日、「変わりゆく女と男の役割」というテーマのパネルフォーラムのパネラーとして、教育評論家の駒野陽子さんたちとともにご出席なされていましたね。

お話はたいへん面白く、二時間があっという間にたつてしまい、ちょっとびり残念でしたが、保育もあり、子どものことを気にせずにお話が聞けたので、まあまあ満足しています。そして私も十年後に向かって、がんばらなくっちゃ……と改めて決心したのですが、時間が過ぎるにつれ、空気の抜けた風船みたいにしばみつつあります。コレデハイケナイノダ。また刺激を与えて下さい。



ワープロをはじめたのです

茨城県古河市 大島 敦子 (27歳)

下の子が三歳になって、大分暇な時間があるようになったので、これから先のことを考えて、ワープロを習い始めました。長い間専業主婦をやっていたので、三時～五時まで机に向かっているのは、最初のうちは大変だったけれど、すこしずつ打てるようになってとても面白くて、教室が楽しかったです。

覚えたいと思って来ている人はかりなので、休憩時間になっても休む人は一人もいません。それがかえってよい刺激になり、毎回休まず出席しました。

何かができるようにするのは、気持ちがいいものです。家に帰ってからは、夫に習ってきたことを教え、それがまた楽しかったです。

二十万近いものを、自分のために買うのは何となく、夫に悪い気もしましたが、「まっいいや」と思い、ワープロも買いました。今

では、毎日のようにひっぱりだしては、雑文を打っています。

これといって何の特技もない主婦が、再就職をしようとしても、あまりいい仕事ってありませんよね。だから安易に仕事をみつけない、今の時間は充電期間だと思って、多少お金と暇がかかっても、もう少し勉強していようと思います。

昔は学校も勉強も嫌いでしたが、自分のためになると思えば、意外と楽しいものですね。それとも年をとったせいでしょうか。

子供が表に出ていって一人になると、ガイドブックを片手に何度も打ち直しています。それにしても、コンピュータっていうのは、賢いですね。私のもっているのは、安い機種なのですが、それでもたくさん機能がついていています。初めてこういうのに触れる身としては、まあ驚いています。

ワープロなどができるとどんな所で働けるか、知っている方がいましたら教えて下さい。
306 古川市桜が丘七二二二 Tel 〇二八〇一
四八二二〇三一

マンガチック

山口県宇部市 栗屋 郁子

ごめんなさい、最初にあやまっておこう。
「わいふ」に載るといいうか、投稿する人達の文って、みんなまじめで、一生懸命考えながら、言葉を選びながらというのが、ひしひしとこちらに伝わってくる。でも読み終えた後、なぜか疲れる。頭の悪い、というか軽い頭しか持たぬ私には、少々読みごたえありすぎて、気が抜けないのだ。

と言いつつ、編集部のみなさんに感謝している。雑文というか、マンガチックというか、軽いほとんど頭を使っていないような私の投稿を、出すたびに載せてくださっていること。おまけに、うれしいことに毎回ピッタリの少々マンガチックな絵をつけて下さって。特に一九四号の「うちの悪がき、病氣禁止令」に載せていただいたときの中山利恵子さんの絵、もう私と息子にうり二つ、まさにあの絵

の通り。

私は書くことが好き。周りの者が、びっくりするほど、ペースが速く、時には三時間で新聞、雑誌への投稿二、三本ぐらいササッと書きあげてしまう。とにかく活字人間で、暇さえあれば本を読み、新聞は一面からテレビ欄までびっしり読み、切り抜きをし、スクラップする。今は、いじめ問題や、年金、税に関心をよせている。

でも、むずかしいことばかりじゃ世の中おもしろくない。ときには頭をスカラカンにして、子供を夫にあずけて、女友達と飲みに行ったり、ディスコに行ったりと。それと同じ、りっぱで考え深い文章をひきたせるには、頭使わず、ギャハハと笑いながら読める文も必要なのは。

私、その役引き受けます。とにかく、することなすこと三枚目、話題にはことかかないし、また今年一年、せつせ、わいふへの投稿、がんばります。

よくわかったこと

埼玉県比企郡 広沢 衆子

私、今、どうしてもワープロが欲しくて、ネクタイ作りの内職をしています。たかが内職なんて、と内心小馬鹿にしてやり始めたのですが……。これがたいへんな作業です。ネクタイは、ご存知でしょうが、布地を斜めに裁断してあるんです。ピラピラした絹の布地にシンを入れ、型を整え、縫うのですが、これがやっかいで、まっすぐ思うように縫えないのです。一カ月、五万円も稼ぐ仲間もいるのですが、私は一万五千元が限界です。

三カ月、この内職をやってつくづくと感じたこと一つ二つ言わせてもらいます。

内職のおカアちゃんたちが、いかに、安い賃金でこき使われているか、骨身にしみました。泣けちゃうのは、その金を子供の教育に注ぎ込んでいる人が多いんですね。日本が経済大国なんて、笑わせるよ、まったく、と私



は言いたいですね。

自分で内職してみてもわかったのですが、私たちの身の回りには内職によるものが実に多いんですね。よくわかりました。

日本の国は、一流大学を出て一流会社に入ったエリートビジネスマンとやらに支えられたり政治家に支えられているのではありません。黙々と働くパートのおばちゃん、出稼ぎ父ちゃん、内職のカアちゃんによって、日本という国はかろうじて支えられているのですね。よくわかりました。

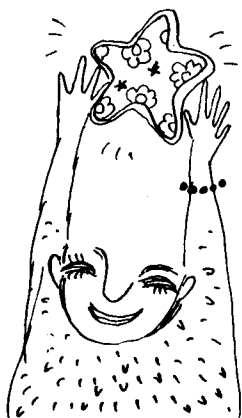
私の作ったネクタイ、ごてごてとお化粧されて、デパートで一万何千円もするんです。私の一カ月、指をはらし、痛みをこらえて、何百本も縫った代償が二万円。何だか変ですね。

見つけた！

東京都墨田区 若木 菊枝

一九七号の「私っていったい、何ですか」の原稿を書いていたころは、かぜをこじらせての長女の入院、高校時代の親友の死など、成らず成らずの連続で、精神的にかなり疲れていました。三女の入園を来春に控え、少しずつ育児解放のきざしがあるにもかかわらずまだイジジと無収入の専業主婦でよいのかどうか？ 私が迷っていました。

でも見つけました。それは地域のコミュニ



ティー瓦版作りのスタッフ募集に採用されたのです（採用といっても編集希望は私しかなかったのです）。

瓦版の紙代、印刷代は区が負担してくれま
す。頼もしい二十五歳の男性編集長もいます。
これで家からの持ち出しもなく、一人で気負
う必要もなく、書くことが実現できます。

勿論まだ無収入ですが、もうイジジの専
業主婦ではなくなれそうです。「わいふ」を知
ったときと同じくらい感激です。パンザイノ

セールスマンにだまされた話

千葉県千葉市 関根 洋子

豊田商事にだまされたのは老人が多いとい
うのに、私は老人でもないのにだまされた。
金を買ってあげれば、年に十五パーセン
トの利子を先渡しで渡すと言われて、三百万
ほど契約してしまっただ。

弁護士に相談して、解約の交渉してもら
い、一割の三十万ほど損をして、お金は取り

戻した。六カ月月賦で返してもらっているう
ち、途中で豊田商事のことがマスコミで問題
になり、不安になったが、すべりこみセーフ
でどうやらお金は返してもらった。もう一月
遅ければ、和解金も支払ってもらえなかった
ところだった。

それから一年もたたないのに、今度は、セ
ールスマンに二十八万のコロナールという鍋
のセットを買わされた。

アルミの鍋はアルミがとけ出て体に害があ
る、コロナールはさびない上質のステンレス
の鍋だと言われ、とろ火で短時間で料理でき
るから燃料も経済的だし、少量の油であげも
のができると言われた。

それにしても、値段が高いし、不要のもの
だった。夫に叱られ、県の消費生活相談セン
ターに電話したらその会社は鍋の売り方に問
題があるということで苦情が来ていると言わ
れた。

あわててクーリングオフの手続きをした。
鍋を一、二回使った後だったので、電話で会
社の人に怒られたが、どうにか鍋を引き取っ

でもらった。

月賦で契約したのだが、後で月賦の信販会社からお支払い計算書などが来て、あわてた。商品も返したのにお金だけ支払わなければならないのかと思った。信販会社と鍋の会社に電話して、キャンセルしてもらったが。

友人に、仕事もせず家にいるからたまされるのだと言われた。私は小説を書きたくて、パートにも出ずに家にいる。それがいけないのだろうか。セールスマンには注意しなければと思う。

あーしんど

愛知県知多郡 伊藤 智子

割引券が手に入ったので、久しぶりに映画を観にいこうと夫が言い出した。日曜は混むので、平日子どもが学校に行っている間である。いつもは車で出かけるのだが、電車を選んだ。遅めの出勤時間帯に二人でのんびり電車の座席に腰かけているのはなかなかいい気

もちのものである。

映画は前評判どおり面白かった。それから食事をすませ、夫がデパートでズボンを買いたいと言う。そういえば、冬物のズボンも少々くたびれてきたな、と思いつつ二人で紳士服売場へ向かった。一つめのデパートでいろいろ探したが気に入るものが見つからない。十分ほど歩いて二つめのデパートにいてもまた自分の好みのものはないという。夫はだんだん無口になってきて不機嫌そうな表情だ。気に入る物が見つからないときの腹立たしさは私自身よく知っているので「いい加減に決めたら」なんていう言葉は絶対言うまいと思った。

今度は地下鉄乗場へ行って切符を買っている。私も急いで同じ切符を買った。夫は相変わらず無言。四区間乗ってスーパーに入った。結局また見つからないらしい。そのときふいに私に向かって「もう、帰ったら」と言ったのである。私、何か気にさわること言ったかしら、せかすようなしぐさをしたかしら、自分の言動を振り返ったけれど思い当たるもの

がない。でも帰って欲しいなら帰ろう。せっかく二人で出かけたのに帰りは別々なんてつまらないけれど私も足が疲れた。割り切れない思いを残しながら喫茶店でひと休みして帰りの電車に乗った。

家につき洗濯物をとりこんでいたら、夫も帰ってきた。相変わらず何も言わないので、「どうして私に『帰ったら』なんて言うの？一緒に選ぼうと思っていたのに」と詰問口調で言ったら「あんまり君が不愉快そうな顔してたから、それだったら一人でさがしたほうがましだと思った」

そりゃあ誰だって人の買物につき合うのなんてそう面白いもんじゃない。おまけに相手が迷うタイプで好みがうるさい人ときてはなおさらだ。「貴方だって私が洋服を選んでいるとき迷っていると、害虫をかみつぶした表情をしているワ。でも私はそれに対して文句は言わないし『帰って』なんて言葉は吐かないわ」そう言ったら夫は、「仕方ないよ、君は僕に惚れてるんだから」こうのたもうた。

思わず口から心臓がとび出しそうになった。

はじめから高い？ 塾

山梨県甲府市 風間 ゆり

私の塾では、中学生はみないことになって
いるのだが、養護学校高等部のB君は、小学
五年の勉強をしているので年齢に関りなくみ
てあげている。あと一人中学生のS君、普通
学級にいるのだが、どうにもついて行けな
らしく、五年生の終わりがごろに私の所へ来た
ときの学力は、三年生の後半がせい一ぱいだ
った。彼はいわゆる勝負ごとにすばらしい才
能を持っていて、盤上に駒をならべるゲーム
では何によらずうまい。私と五目ならべをし
たら、私は四手目でまけた。

これは、私が下手すぎるということもある
だろうが……。ダイヤモンドゲーム、オセロ
は勿論のこと、将棋では兄も父も歯がたたな
いとのことだった。だから丸つきり、頭が悪
いわけではないと思うのだけど、とにかく勉
強する気が全然ない。気だては無類に良いの

だが、何か「しん」がない。努力ということ
が少しもなく、自然に頭の中に残ったも
のしかおぼえていない。

この子は母親がどうしてもというので中学
校へ入ってからも、国語と算数（中学では数
学なのだが、彼の場合は算数なのである）を
みてやっていた。ある日ふとしたことから、
彼の英語をみておどろいた。小学校四年の国
語で、ローマ字をやっているのだから、ABC
ぐらいは、判っていなければと思うのだが、
dとbの区別もつかないし、ローマ字読みの
発音さえ全然できない。それで私のうん十年
前の英語（私のは、キングズイングリッシュ
でしたよ、アメリカ語じゃないんですよ）な
ど、年のばれるような笑い話ながらに、指導
しはじめた。他の小さい子がきき耳たててい
て、単語の五つや六つは、おぼえて傍から言
ってくれるのに、彼はおぼえられずまゆの間
にしわを寄せて考え考えしてよむ。私は、ふ
と、もし他の子もこんなに苦労するなら、六
年生ぐらいになったら、遊びながらも英語
にしたしんでおくほうが良いかも知れない？

などと考えた。もう英語塾へ行っている子も
いるようだと思うと、もとがおっちょこち
よいの私のことだから、ひよいと口に出てし
まった。

「どう、六年生になったら、英語やってみな
い？ S君がやっているのをきいてて、おぼ
えた人もいるしね、面白いかもヨ」
とたんにそばにいたT君の口からとび出した
言葉、



「先生、英語できるの？」

「む、む、む」でもこれに対しては私は正直だった。自分だって教えるほどに出来るとは夢にも思っていないのだから「英語の先生になれるほどはできないの、でもみんなで楽しみながら単語を、おぼえたり、あいさつくらい英語でできるようになると、中学校へ入ったとき、いくらかはたしになるんじゃないかな……」

その言葉が終わるか終らぬうちにT君が言った。

「ふん、それで月謝を沢山とろうってことだろう……」

「T君、あなた随分失礼なことを言うのね、先生はみんなが、いくらか英語になれていると、中学校へ入ったとき案かしらと思って、お遊び程度でもいい、いっしょに勉強してみたら……」とだけ、英語で月謝もらおうなんて考えてもいないわ」

この後が、私にとって「ギョッ」ということになったのだ。T君は例によって、めがねの顔をぐっとそらして、

「ま、そうだろうな、はじめから高いんだからな」

とうとう私は、大人の意地も貫禄もすてどなってしまった。

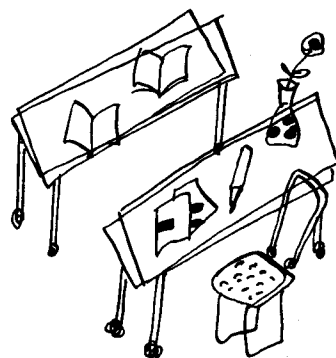
「あなたは、どうしてそんな失礼な言葉をはくの？ はじめから高いって、それお母さんが言ったことなの？ 高いか安いかは、お金の額でなくて、中味できめることなのよ。どこかよその塾とくらべて、そういうの？」

私の勢いに、T君驚いて目をパチクリさせている。相手は子どもなのだと、改めて気をしずめて彼の顔をみると、自分の言ったことが、何故に失礼にあたるのか？ 解らないらしい。思った通り、感じた通り「それ本当のことだもの」式の発言なのだ。無邪気というべきか？ 天真らんまんか？

ここで私は、開いてから十年目になる私の小さな塾の内容をさらけだして大方の批判を仰がなければと思うのである。

。入会金 二千元 月謝 五千元

但し算数二科目必修。週二回但し希望者は三回でもよい。特に欠席したときは補充の意



味で翌週一回ふやす（三回でも月謝は同じ）

。生徒数、授業形態、時間について

一日の授業時間一時間半、個人教授、從つて生徒数は一回六名まで（一時生徒十八人というときは大学生のバイトを使った）現在九名を二組にわけて隔日にやっている。

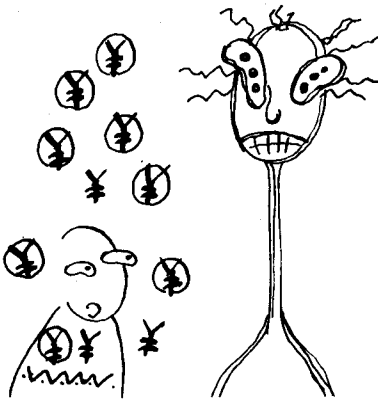
。授業内容

原則として学校の宿題はみてやらない。はじめに生徒の学力を調べて、つまづいている所から基礎をやりなおす主義。但し学校のテストを随時持参させ、また宿題も持参したい者には持ってきてやつてもよいとしている。

学校での進み具合とその子の理解度を見るために役立つ。

。教師たる私と教室の設備

私はもともと幼稚園の教師（但し戦前の資格）戦後厚生病院の教師として保母の卵に保育をおしえ、その学院の方針により、付属保育園の健康教（保）育の研究実践にたずさわる。その後家庭人となり一児を生み育てる。その間に一念発起、大学の教育学部の特別聴講生となり、四年がかりで教育、心理の十二



課目を勉強。特に特殊教育に力を入れる。傍ら重症心身障害児者を守る会の設立にかかわり、障害児教育のケースをいくつかに担当「障害児でもこれだけのびる、普通児ならもっと伸びる、教え方さえ研究すれば……」との思いで、今の教室開設。算数ははじめ自信なく、東京まで「水道方式算数講師養成講座」をうけに週一度四カ月ほど通った。

教室の設備については、十六畳大の板の間トイレ、洗面所つき。長机五脚、折たたみパイプ椅子十脚、電話、青やきコピー一台、本類多数（専門書辞書類の他童話やよみ物）

。私の教育に対する考え方

子どもが子どもらしく楽しそうに、元気で生き生きしている、そういうことをのぞむのが、私にとって教育である。

少々過保護かなと思うくらい、メンドウミが良いのときには自分でおどろく。（その代り自分のつれあいのメンドウミはひどく悪い）

とにかく、大人の都合で子どもを扱うのではなく、子どもの側になって考えるのである。

だから、受験のために良い成績を……と願っている親からは不満が出る。そういう方にはお引取りをねがう。私のやり方を理解してくれる親ごさんは長つづきするし、成績も、長い間に少しずつよくなってくる。

親と子と教師の根くらべみたいところがあって、いそぐと失敗する。といって親が放っておくと子どもは気を抜く。私が親と連絡とらないと親のほうに気が抜く。ちよっとした緊張が絶えずなくては長つづきしない。

こうして十年間やってきた。今一番長い子は七年目、来年の春は中学へ行くと同時にこの塾とはさよならのはずである。子ども一人一人のことを考えると、どの子もかわいくて仕方ない。子どもと一緒にときは楽しくて仕方がない。

子どもに教えるということは大変なことなので、随分私も勉強した。社会的にも発言ができた。大きな感謝をもって日々をすごしている。

この塾「はじめから高い？ 塾」かどうかは皆さまのご判断をまっ次第である。

（え・万谷陽子）

投稿ホットライン——三度のメシより本が好き

生きてます 活字人間

——目の鱗、落としてますか？

歩く速度で暮らす

槌田 劭 著

仕事（書籍の校正）でめぐり合った本です。あんまり面白いので、校正料をもらうのが申しわけないようでした。永六輔氏を関西井にしたような軽妙な文体で一気に読めますが、内容の重さに読み終わ

埼玉県所沢市 柏木 輝子

ってジワッと恐ろしくなります。現代文明の果ては確実に阿鼻叫喚の地獄の世界、と断言する著者が、「地獄の度合いを下げるために今出来ることを」とひたすらシンブルライフをめざして語る暮らしの

ヒント集で、どう食べる、どう買う、どう育てる、どう変える、と項目別に分かれて、それぞれ一家言あるわけです。

著者は京都の大学教員。『使い捨て時代を考える会』を主催し、手作りのミソ・しょうゆ、玄米菜食、肉より豆を——と健康食を実践しています。私も、添加物とか農薬とか神経質にこだわって食品を買うけれど「趣味は食べ歩き」なんて言ってるようじゃまだまだ、それも我ながら哀れなほど、

年々食い気に傾くのですから、著者との差は開くばかりです。

前日の食物の分の排便が出るまでは昼メシも食わないとか、朝の寝床のネコ体操とか、いかにもカラダによさそうなことを意志強固に実行しておられるのには敬服しますが、一方、私自身がこのトシまでしっかり持ってきた知識と反するのでとまどいを覚える箇所も散見されます。例えば、朝食は必要ない、食べないほうが体調が良いつつ、親より一割身長が大きかったら、病弱だと思え、などなど。説明づけもされているのですが、



いまひとつ納得がいかず、時間をかけ、他の本も読んで考えていきいたいと思っています。

健康面の文章ばかり紹介しましたが、教育論、お金の遣い方、人間関係について、その他、どの項もユニークで読みごたえがあります。ところどころ一刀両断に斬り過ぎるなアと感じるのですが、紙

しつけを考える本

—— 厳しく愛する心 ——

ダン・カイリー 著

近藤 裕訳

「やっと出た！」
この本のページをめくってみて、私は思った。どれほど長いあいだ、こうした本の出ることを期待していたことか。

「スキンシップ」「子どもはのびのびと」「母親は太陽のように」

数の都合でわざと単純な見方で書いているのかもしれない。

立ちどまって考えて、少しずつ意識を変えて、でもまたいつのまにか日常生活に流されていってしまうので、時々読み直しては軌道修正しています。

(太田次郎社 一三〇〇円)

東京都新宿区 田中喜美子

そんな言葉が横行している。子どもを厳しくしつけましょう、などといった人非人扱いにされかねない。そして実際「厳しく」扱われている子どもたちの状況はといえば、小学校の五、六年ぐらいから、中学、高校まで、規則、規則

のがんじがらめ、体罰をくらわせる先生もあり、で「厳しく」という字をみただけでアレルギーをおこす人が多いのもうなずける現実だ。

世界の先進工業国の中でアメリカと日本だけになぜこれほど、しつけの身につかない子どもや、校内暴力(日本では抑えこまれてしまったが)が多くなったのか、この本を読むとナットクする。

アメリカでは子どもの自主性を尊重する伝統と、「親に責任のすべてがあり、子どもにすべての権利がある」という間違った考えが親の自信喪失と、子どもの甘やかしを生んだ、と著者はいう。

ここに描かれている親の姿の、何と日本の親に似ていること、
「友達みんなそうしている」で押し切られる親。ねだられるままにものを買い与えてしまう親。く

どくとグチをいうばかりで断乎たる態度を示そうとしない親。子どもにきらわれるのがおそろしくてビクビクしている親。

そのあげく、手に負えなくなった子どもをどう扱ってよいか途方に暮れている親たち。

著者は、そうした親たちに、まことにアメリカ人らしく、具体的なノーハウを交えて、親たる「權威」を確立せよと説く。この部分は、伝統と風土のちがう日本の親子に適用しにくいと思われるが、現在のしつけ不在の問題点を浮きぼりにしてくれるすばらしい本だ。

(社会思想社 二〇〇〇円)



子別れのすすめ

——母親はいつまで必要か——

和田好子編著

東京都杉並区 上野八重子

どうしてもっと早く、この本にめぐり合わなかったのだろう。読み終わって嘆息した。

子どもは母親の手で育てるのが一番、と信じこまされて、どれだけ懸命に子育てをしたか分からない。まわりの人も、子どもに問題が起こればみな母親のせいにする。肩に力の入りっぱなしの子育て。その結果、よい子どもが育ったとは到底思えない。

現代の核家族では、よっぽど気をつけていても、母子密着型の子育てにはまりこんでしまう。私はそれがよくない、とは考えていた

ものの、そこからどうやって脱出したらよいか分からなかった。

この一冊は、そうした状況から強いてわが身を引きはなし、意識的に母子分離をはかった三人の母親たちの子別れ体験レポートである。

子どもべったりの専業母親から、小さな無認可保育園にわが子を預けることで、母も子どものびのびした空間をとり戻した赤井さん。

息子を山村留学に出し、物理的に親子がはなれることで、返って互いの存在をみとめあい、心のふれ合いが強くなった稲葉さん。

受験期の高校生の息子に、あえて一人ぐらしを選ばせた吉岡さん。この人たちはみな、人一倍子煩悩な母親たちだ。その彼女たちが、どんな経緯で子別れを決意したのか、その結果がどうだったか——

更年期を生きる

ビヤネール多美子他

三十歳代のときは四十代になるのがこわかった。四十、ときいただけで女でない、イジワルバアさんの部類に入るような気がしていました。

でも、四十になってみると何てことはない。三十九歳十一月の自分と、四十歳の自分はちっとも違わないのです。四十、というコトバにこだわっていた自分がバカ

私のように後手にまわらないうちに、

若いお母さんたちにぜひ、読んでほしいノ巻頭と巻末の和田好子さんの歯切れのよい解説が、すごく面白かった。

（教育資料出版会 一一〇〇円）

埼玉県富士見市 菊池真奈子

だったのだ、とナットクしました。ところが「更年期」はちがっていたのです。

「更年期」についてはあまりかまひすくいわれていないみたいで、ところどころが私の場合、これはききしにまさるものでした。

目がまわって起きられない。体中から汗がふき出す。胸がドキドキする——まあ書きはじめたらキ

りがないけれど……そんなこんなですっかり恐怖症になり、クヨクヨして一年あまり棒にふって損したな、と今になると思います。

この本は、有名、無名の人取りまぜて、更年期の体験談、医師の解説、いろんな角度から更年期に光を当てています。何よりもいいのは、さまざまな症状はあるものの、人生を前向きに生きている人には、更年期は一つの節目にすぎず、その先にも女の性を楽しめる長い人生が残っていることがよく分かることです。そして、日ごろから尊敬する先輩諸姉が、どんな



人生を送ってるかを分かるとこも面白い。(たとえば僕萌子さんが赤城に農園をつくりたいという夢を持っている、とか)

誰のために子どもを産むか

青木やよひ編

最近読んだ中ではすごく充実した一冊でしたのでご紹介します。

(学陽書房 一五〇〇円)

東京都八王子市 和田 好子

今は死語かもしれないが、『貧乏人の子だくさん』という。戦前の貧しい日本の社会では、確かに

そうだった。避妊も中絶も禁じられていたために(中流以上のお金と教育のある人々には抜け道があったが)、産みたくなくても産まされてしまった面と、子供を少し大きくすれば(小学校卒業まで)奉公に出すなどして稼がせることができる、という実利的な面とが

一緒になって、貧しい人々はたくさんの子を産んだのである。

現在の豊かなと言われる時代でも、私たちは社会的な強制(子供を持たない女は一人前とみなされないなど、戦前の強権とは違うものの、周囲の圧迫や期待によって)と、子供が生きがいや老後保障になるのではないか、という個人的利益を意識下に望んで、子供を産んでいるのではないだろうか。

青木やよひ氏は、女が誰のために、何のために子供を産むか、その意識と背後にある社会、経済、政治の実体を広く把握した上、産むための哲学、女はどの視点に立って、産むことを自己決定したらよいか、を探ろうとしている。

経済学、動物行動学、衛生工学、文化人類学、分子生物学、教育学、構造人類学など、多彩な分野の研究者との討論、対談(会話体なので素人にも容易に理解でき、大へんおもしろい)、さらにフェミニストたちとの「いま、性からだを見なおす」座談会という構成で、産むことの意味を四方八方から問い直していく。

公害と核戦争の恐怖、人間性の疎外、科学技術の方向なき肥大化の時代、私達の『産む』意志決定に必要なデータ満載の一冊である。(オリジン出版センター 一六〇〇円)

再就職の落とし穴

原田 静枝

学歴・資格

文化系教員の門戸は狭い

「働くならスペシャリスト」と、技能や資格を身につけて、自分に対する付加価値を高めておきたいという人が増えている。ところが資格の内容は多種多彩。上

は弁護士、公認会計士のように社会的評価の高いものから、紙切れ同然の資格もある。もうかったのは学校だけ、ということにならないために、ぜひこの一文を読んでもほしい。

「三十代のころは同級生たちが、非常勤講師や産休補助教員でどんどん再就職していたので、当然、私も大丈夫と思っていたのに、現実は一変した」

大学で国文学を専攻した東京・品川区に住む山口美穂さん（四十五歳）は、このところすっかり意欲をなくしてしまった。国語科教員免許を生かして働こうと教育委員会や私立学校などを訪ね回り、「採用してほしい」と頼んだが、どこで

も「国語科は空きがなくて」と断られたという。

確かに「教員免許」が生かせる時代はあった。講師のなり手がなくて、校長自ら有資格者の家を訪問し、「ぜひ」と頭を下げた、という話もあるくらいだが、全国的に生徒数が下降線をたどっている現在、教職への復帰はなかなか難しい。十五年前、小・中学校合わせて四千人もの教員を採用していた東京都でも、昭和六十年には千六百人台に減り、採用試験の難関を突破してもなおかつ勤務先が見つからない、という合格者がかなりの

数にのぼっている。その上、国語、社会など文科系の科目は免許取得者が多いだけに倍率が高く、とても希望通りにはいかないし、採用試験のない非常勤講師や産休補助教員を希望しても、最近「正規教員として一年以上経験したものに限り」と規制されているので、資格を持っているても未経験の場合はあきらめるほかはないのだ。

ところが、科目によっては資格の生きる場合もある。東京・渋谷区の川上治枝さん（三十六歳）は、短大家政科出身で養護教員の免許を持っていたが、OL生活一年の後結婚、子育てにまぎれてすっかり忘れていた。「何か資格を持って働きたい」とあれこれ調べていた三年前、ふと、自分にも教員資格があるのを思い出した。

忘れていたくらいだからそれほど当てもせず、一応都の教育委員会へ登録しておこうと手続きしたところ、一カ月もしないうちに声がかかった。「小学校の

産休補助教員として採用」というのである。誰よりも川上さん自身が驚いた。

まさかこんなに早く再就職の道が開けるなんて思いもよらなかったから。

東京都の場合、養護と体育、そして家庭科などにとどき欠員があり、該当者がいない場合は未経験でも採用されることがある。高校時代、進路指導の教師から、「保母はすでに過剰ぎみ、どうせやるなら養護課程をとっておけ」とアドバイスされた川上さんは、「それが十年以上もたったいま生きたのです。あの先生は私にとっての恩師です」と喜ぶ幸運な人だ。

この他、社会科の免許では見通しが暗いと、通信教育で家庭科の免許を取得し直した人もいる。彼女は東京在住だが激戦地を避けて隣接県の教育委員会へ。ここは未経験でも比較的受け入れがゆるやかと聞いたからだだが、はじめのうちは相手にしてもらえなかった。しかし、とうとう産休補助教員として働くきっかけを

つかみ、いまでは三校かけ持ち、定時制高校でも教える立場になっている。

教員資格を生かしたいならば、各都道府県によって年齢制限や科目、人数など採用条件が異なっている場合が多いから、まずそれを確かめること。そして居住地だけにこだわらず、通勤可能範囲の教育委員会にも出掛けていって、その地域の状況を把握しておく努力が必要。いつでも使えると思いついて、ペーパードライバーのように「持っているだけ」に終わる羽目になる。

専業主婦から副社長秘書へ

ここ数年、学ぶ意欲に溢れた社会人を一般学生とは別枠の試験で入学させる大学が増えてきた。五十九年度現在、全国で国立六校（名古屋大、山形大、広島大、長崎大、三重大、大阪外語大）、公立一校（横浜市立大）、私立三十三校（立正大、青山大、国学院大、工学院大、芝浦



工大など、ほとんど二部）がある。

この制度を最初に取り入れた立教大法学部のデータによると、受験者の六五パーセントは主婦やキャリアウーマン。実施して七年たつたいま、四十余名の社会人学生を世に送り出したが、よく学び、上位の成績を取っていた彼女たちの就職状況はあまり芳しくない。

社会人学生というユニークな立場を評

価して、いくつかの問い合わせや熱心な求人依頼はあったものの、新卒と同じ条件でないためにかなりの苦戦を強いられたという。何しろ日本の企業では、大卒者の採用基準を「一定の年齢制限を持った新卒者」と決めているのだから、年齢の高い社会人学生は「新卒」扱いにはならない。ほとんどが、在学中にも何らかの形で続けていた仕事に戻るか、コネを

探して就職していった。

アメリカなら、大学へカムバックして単位を取り、資格を得た社会人は、就職に際してはつきりそれだけ条件が上がるそうだが、日本の場合には「大卒Ⅱエリート」というわけにはいかないようだ。

しかし、即戦力になる学部を選んで再就職を果たした主婦もいる。神奈川県厚木市の斉藤輝美さん（三十五歳）は商業高校卒業後五年半〇しとして勤めたあと家庭に入り、十年専業主婦生活を送っていた。二人の子が小学生になったのを契機に、長年の夢であった大学進学を決意したのだが、家庭と大学生活が両立するという自信がなかったため、まずは、と近くの短大秘書科に聴講生として一年通学することにした。

ところがこの学科がなかなか面白い。これならやれる、と猛勉強をし、翌年現役の高校生と同じ条件で受験、学内唯一人のママさん学生として入学した。登校前に家事をし、帰宅後子供や夫の世話を

すませてから予習復習する毎日は、「一緒に住む義母の助けが大きかった」とはいうものの大変だった。試験のときは徹夜もしばしばという思いもした。

二年の学業を修了したとき、何と大企業傘下の商社から、「長く勤めてくれる秘書がほしい。若い人はすぐ辞めるから人生経験豊かなあなたを」と思いがけない白羽の矢。現在、その副社長秘書として元気に霞ヶ関まで通勤している。収入も「OL時代の五年半と年齢給が加味されて、とてもラッキーな職場です」とニコリ。

犬も歩けば資格に当たる

「資格をとりたいたい」というけれど、世のなかに資格といわれるものがどのくらいあるかご存知だろうか。「七百種」という人もあれば「千種以上」という人もある。「いやいや、国家資格だけでも数え方によっては千四百種はある」という声

まであって、まさしく、犬も歩けば資格に当たる”感じ。何しろ毎年のように増えたり消えたりで、資格の専門家でも正確な数が把握できない「玉石混交」。素人の我々は、ただただ驚くばかりだ。

資格の種類を大型小型と分ける見方もあるが、どこが認定するかで分類すると、

- ① 国家資格
 - ② 準公的資格
 - ③ 民間資格
- となる。

この三つのうち、国家資格はその名の通り「国の行政機関が認定するもの」で、よく知られているのは、医師、看護婦、栄養士、教員、弁護士、公認会計士、税理士、不動産鑑定士などから、つい最近加わったインテリアコーディネイター、商品装飾展示といろいろある。

この資格は、一般に社会的信用と評価が高く、一度取得すれば原則的には生涯有効で、しかも取得に要する費用が安く、就業に際して独占的保証が与えられ

ているものも少なくないといわれている。準公的資格とは「日本商工会議所、都道府県、所轄官庁の認可を受けた社団法人、財団法人などが認定したもので、実用英語、英、和文タイプ、簿記、珠算、トレース、販売士、速記、レタリング、ペン字、和裁、編物など、女性にもなじみ深い資格が多いが、これらは個人の特技や技能を検定によって評価しようというもので、国家資格に次いで権威がある。

民間資格は「各種民間団体が自由に認定したもの」で、科学技術翻訳士、校正、医療秘書、消費生活アドバイザー、特許管理士などいろいろあるが、全く規制がないので取得しようと思えば誰でもすぐ取れるものもあり、また国家資格並みにレベルが高く、社会的信用度の高いものもあるようだ。

このように多種多様な資格の中から、再就職に結びつくものを選択するのは非常に難しい。チェックポイントの一つは、それがなければその職業につけないとい

う「職業上の必須資格」なのか、それがなくてもその職業につくことはできるが、資格を持つことで「その道のスペシャリストとして評価される」ものか、を見極めること。

例えば、医者、看護婦、薬剤師などの医療、衛生関係や、教員、保母などの教育関係の職業は、その資格がないと絶対できない。それに対して英検、消費生活アドバイザー、珠算など修得したことを示すだけの資格は、たとえそれを持っていなくても職業につけるのだ。

第二のポイントは、資格の価値は取得の困難度に正比例する、と知っておくこと。社会的に評価の高い資格は、合格するまでに大変な時間と学習が必要なのだ。簡単に取れる資格は、取得しても社会に通用せず、ということになりかねない。

第三に、資格にも流行り廃りがあること。かつては脚光を浴びていたものが、時代の流れとともに需要が減少し、無用の資格になっているものもある。

このように、あらゆる角度から検討しなければ、折角の資格も生かせないという結果に終わるのだ。そうならないためには、日ごろ新聞の政治、経済面にも目を通し、テレビのニュースにも関心を持って情報を得ておく必要があると思う。

同じ取るなら一ランク上を

実際に役立つ資格を取得するには、二年なり三年なりの学習が必要だ。その教育機関としてあるのが専修学校で、最近では主婦の入学者も多いという。ところがビジネススクールなどでは「高校新卒者以外はお断り」というところもある。その辺の事情を、専修学校教育振興会の渉外部長横山茂氏に聞いてみたところ、本来なら主婦でもOKなのだ、という。

しかし、年々高校新卒者は増加する一方で、現在、年間百六十万人程度だが、昭和六十七年には二百五万人に増えると予想される。そうなると、教育する側と

しては年齢が同じで画一性のあるほうが楽なので、学校によっては高年齢の人を拒否する場合もあるとのこと。

また、昭和六十年台は慢性的不況なので、主婦が再就職を目指す場合は、若い世代に負けないような、相当高い技能を身につけておかねければならない。「主婦の皆さんが家庭にいた数年に、社会は技能的に大変なハイテクノロジーになっていきますから、OLのころの感覚では通用しないですよ」という。

あれこれ思いわずらうよりは、時代に適した技能を一日も早く身につけ、再就職に踏み切らないと、ますます状況は困難になるな、という感じだ。

それはともかく、専修学校というのは時代の先端をいく実学を取り入れているところ。ハイテクノロジーの今日では、時代に合った科目を新設して養成するが、社会のニーズに合わない科目はどんどん切り捨ててしまう。最近では、商業、事務系の科目にその変化が見られるそうだ。



かつて、女性の経済的自立に大いに貢献し、あこがれの職業でもあった「タイプ」や「速記」は、就職先や仕事先が減り、タイピスト学校はほとんど閉鎖されてしまった。それではワープロの技能ならと考えるのは早計、ワープロは誰でも打てて当り前の時代だから、特別な技能にはならない。

商業分野では、いま「簿記」だけが生き残っている。しかしこれもコンピュータ管理が進んできて、だんだん出番が少なくなってきた。「いや、データ入力の際にミスをチェックできるのは簿記を学んでいる人。まだ需要はある」という見方もあるが、OA化によってより高度な技能が求められていることは確かだ。

「一般事務なら簿記三級資格で十分。私は税理士の資格に挑戦しました」というのが、東京・渋谷区に住む若林満子さん（二十九歳）。故郷の商業高校を卒業するまでに簿記三級の資格を取っていたが、上京して働き始めたころ「一級のほうが

有利かな」と考えて、夜間の簿記学校に通って「簿記一級」を取得したが、勤務先の評価はまったく変わらなかった。

その後結婚生活に入ったが、このまま勤めているよりは「税理士」の資格を取って独立しようと思うようになり、思い切って退職してアルバイトで収入を得ながら、M簿記学校の税理士コースに入学。四年後に晴れて合格し、現在ある会計事務所「税理士」として勤めている。

「簿記より税理士のほうがはるかに資格が生かれます。夫に万一の場合でも一人生きられるし、自宅を事務所にして子育てもできるし」と明るい。資格を取ったから子供を生もう、と決めていた倉林さんだから、近いうちにその念願も果たせることだろう。

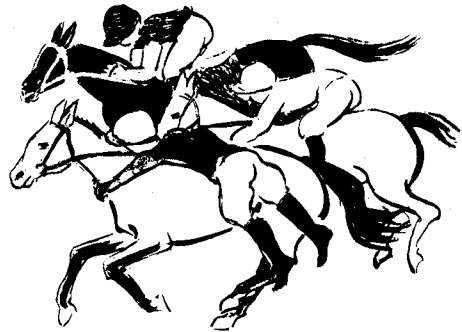
埼玉県・岩槻市の金城高子さん（二十七歳）も同じような体験をして、出産のあと自宅に事務所を開き、いま商店主などの税務相談に乗っているが、「税理士試験は五科目一度にパスしなくても、毎年

「科目ずつ合格でもいいのですから数字に強い人は挑戦したらいいか」とすすめてくれた。

適性と興味と能力と

仕事の性質上か慣習からか、女性の挑戦者が圧倒的に多いのが、校正、写植オペレーター、医療保険事務請求士、消費生活アドバイザー、保険士、販売士などというデータがある。その中でも「校正」の資格は人気がある。わが「わいふ」の読者にも、「本を読むことが何より好き。編集の仕事にかかわれたら」と校正者を目指す人が相当いるはずだ。

千葉県・市川市の吉田礼子さん（三十九歳）も「ぜひ自宅校正者になりたい」と、新聞広告で見つけた通信講座を六カ月受講したが、仕事に結びつくほどの実力はつかなかったので、あらためてＡスクールの通信講座を選んだ。この添削指導は程度が高く、「とても勉強になり



ました」。その結果、ここで認定している「校正技能資格四級」を得た上、校正者グループにもコネができ、仕事を回してもらえようになったという。

Aスクールが発行している求人ニュースを見ると、校正者の求人がかなりあるので、この仕事の需要はまだまだ続きそうだが、十五年前、三級の資格をとってから通信講座の添削講師を勤めたことのある、埼玉県・所沢市の柏木輝子さん

（四十二歳）は、「活版が落ち目の現在、校正の仕事は先細り」と悲観的だ。電算写植やワープロに、単純な校正機能が組み込まれる時代が遠からず来るという。

従来、校正者の適性は「活字を何時間見ても飽きない根気のある人」がよいといわれていたが、このＯＡ化の時代に校正者として生き残るには、文書・原稿などの誤りや不備をもチェックできる「校閲力」など、より複雑高度な能力が要求されるともいう。

現在、書籍、雑誌の発行所は、九割までが東京に集中している。校正は時間に追われる仕事だけに、発行所から遠いところに住んでいたり、徹夜してでも間に合わせて届けるという気構えがなければ、いくら資格を取ったところで仕事にはなかなか結びつかないことを、この資格を選ぶ人は知っておくこと。

この他、「カウンセラーの資格を」と志す人も非常に増えている。大学の付属研究所から、ビルの一室を借りてのセミ

ナー、スクールなど、養成講座は花ざかり。いろいろ調べてみたが、仕事に結びつくと思われるような講座には行き当たらなかった。決して安くはない講座料なのに、どこまで学んだらという基準がないに等しいのである。「コンサルタント」「カウンセラー」など、人間を対象とした職種の民間資格は生かせる場が少ない、と聞いたことがある。そのへんのことも考えに入れないと、結局はお遊びに終わってしまうおそれがある。

わいふ編集部では、現在、読売新聞婦人欄に「働きたいあなたへ」というコラムを連載中だが、先日、「学歴」「資格」についてまとめたところ、電話での問い合わせが殺到、あらためて「資格をとって働きたい」という主婦の多いのに驚かされた。

確かに、資格は社会の評価のもとでもあり、信用のパロメーターでもある。近ごろは、「ダブルスクール」といって、

大学在学中の学生が専修学校にも籍を置き、情報処理関係や経理、旅行業務などの資格を取るための学習をしている時代だ。何かの特徴を持っていなければ就職競争に勝てないこともあるし、それだけ大学での教育が実学とはほど遠いものになっている、という人もある。

まして社会生活からしばらく離れ、時代の波に疎くなっている再就職の我々が、技能や資格を持って社会に復帰することは意義がある。ただし、やみくもに資格に飛びつくのではなく、自分の適性と興味と能力をよく知った上、少なくともその資格がどんな内容で、どこが認定しているかを調べるくらいの努力が必要だと思う。

犬も歩けば資格に当たる、という現在。資格の中には駿馬もいるし駄馬もいる。どの馬に乗ったら振り落とされずにすむのか、どこまで乗っていきけるのか、それを見極めるのは誰でもない、あなた自身なのだから――。

(え・早乙女光子)

★わいふバックナンバー

- 178号 女・からだの履歴書
- 183号 女の言いたい放題
- 184号 私の災害体験
- 185号 私の親ばなれ闘争記
- 186号 お医者さんを診断する
- 189号 知的内職の落とし穴
- 190号 わが家の夫婦ゲンカ
- 191号 集合住宅で生きる
- 193号 学校教育への疑問
- 194号 わが家の受験戦争
- 195号 特集なし
- 196号 結婚生活の中の異性
- 197号 親があなたに伝えたもの

四五〇円 以下同じ

送料は一冊二〇〇円、二冊～三冊二五〇円、四冊～六冊三〇〇円、七冊～九冊まで三五〇円です。十冊以上は編集部で負担致します。ご注文は編集部へどうぞ。

電話 (〇三) 二六〇一四七七

女・離婚その後

干刈あがた 他



結婚生活を何年も続けるうちにはどんな人でも「離婚してしまおうか」と考えるときがあるはずだ。人は「だれかと一緒に暮らしたい」と願うのと同じくらい強さで、「もう一度ひとりでなつて自分だけの力で世の中を渡つてみたい」という欲求をも抱く。

では、実際、離婚に踏み切つた人々のその後はどうなのか。離婚に

ついでの本はいろいろ書店に並ぶようになったが、これは「その後」に焦点を当てた点で注目に値するレポート。「ウホッホ探険隊」で「僕たちは探険隊みたいだね、離婚ていう日本ではまだ未知の領域を探険する」と語り読者を驚かせた干刈あがた氏が率直な体験記を寄せている。ほかに「これから一体どんなことがおこるのか、私は

一〇〇〇円 (F)

発行 ユック舎 発売 批評社

国語辞典にみる

女性差別

ことばと女を考える会



日ごろ「ことば」にかかわる大学講師、高校教諭たち六人が、岩波、角川、学研、小学館、三省堂発行の国語辞典から、男と女に関するすべての記述を整理、分析し、知り得たものをまとめたという。

女盛り、男盛り、女らしさ、男らしさ、女は愛嬌、男は度胸、石女、出もどり、主婦、妻などが、辞典

にどう書かれているかを読んでみると、今日まで、いかに男性の視点だけで辞書が作られてきたかがよくわかる。男は強くたくましく、積極的に女を支配する立場にあり、女には受け身のやさしさと美しさだけを求めている。雇用平等法も成立したというのに、辞典の中は相も変わ

三一書房 六五〇円 (H)

ブルー・ローズ

文 ゲルダ・クライン

写真 ノーマ・ホルト

訳 青海恵子



この本を発行した千書房は、設立以来わずか三年のうちに、十三冊の障害者関係の本を出しているという。今後ともに養護学校、あるいは普通学校を卒業した障害ある子供たちのために、その将来を見据えた出版活動に力を入れていくそうだ。

このような良心的な小出版社が、女子の初等教育が普及したのは、明治三十年代以降のことだそうである。だから戦前、庶民の女性がモノを書くなどということは、想像もつかなかった。

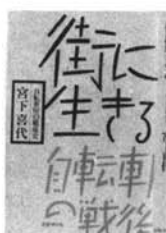
多くの読者に支えられるようになってほしいものである。

「ブルーローズ」は、障害を持つ（精神薄弱）ジュニーという少女の、生活と表情を記録した写真集だが、「めったに咲かない美しくふしぎな花」青いバラにたとえられた彼女の容姿は、透きとおった天使のようである。著者ゲルダ・

千書房 八〇〇円 (W)

街に生きる 自転車屋の戦後史

宮下喜代



戦後マスコミが市井の生活人の言論をも、力を入れて取り上げるようになったのを背景に、大正五年生まれの宮下喜代さんは、朝日新聞の「ひととき」の投稿から始ま

り文章を書くようになった。

「草の実会」「思想の科学研究会」に所属して、これまで書いてきたものを間にはさみつつ、戦後四十年の自分史をまとめたのがこの一冊である。

本所という下町、震災と戦災で再度全滅した隅田川沿いの地域に彼女は生まれ育った。二十年三月十日の東京大空襲に、父と弟妹を失

い、入院中だったため、危く生き残った母も、悲しみの余り自殺してしまふ。この悲劇を出発点に、戦争の意味、政治のあり方を問い続けながら、洋裁の内職、夫とともに自転車店を経営、と、つねに働く女性として、戦後の四十年を逞しく生き抜いた記録。下町の暮らしの描写も楽しく読める。

思想の科学社 一五〇〇円 (Y)

ほん

ほん

プライベート
ルーム

迷ってること悩んでること怒ってること
知りたいことどんなことでも大歓迎です

読者のための相談室開設！

息子の病気は、私の 手抜き料理のせい？

相 談

鈴木たづ子

アドバイス

松崎 光子

小田原市の鈴木たづ子さんは、自分の手抜き料理のせいで息子を入院させてしまった、と今でも後ろめたさに悩んでいます。

一九八五年の二月、それまで病氣一つしたことのない長男（当時高校二年）が、正月にひいた風邪をこじらせて一週間も入院することになってしまったのです。

たかが風邪、がなぜそんなにこじれたのでしょうか。

「お前が風邪ひきなのに風呂から出てシャツ一枚でドライヤーをかけたりするからだ」

と叱る鈴木さんに、息子は、

「お母さんが手抜き料理ばかり食べさせたからだ」

と逆襲。鈴木さんはウツ、と絶句しました。

考えてみると思い当たることばかり。

反論できない情なさに鈴木さんはどうとう、涙を流してしまっただけです。

鈴木さんはこのやりとりを朝日新聞の

「声」欄に投書。これに対して、

「高校生にもなって自分の健康管理ができないでどうする」「何でも親のせいにするな」などという投書も、朝日の紙上に掲載されました。

これらのいきさつは、「わいふ」の一九四号に鈴木さんの投書としてのっています。

△プライベート・ルーム／第一回目として、この鈴木さんの投稿をとり上げました。母親の手抜き料理で息子が病気に――これはゆるがせにできない問題を含む、と思うからです。



あんたの手抜き料理でカゼひいた、と

息子はいう

編集部 息子さんのひかれた風邪というのはどんなものだったのですか。

鈴木 正月の十五日ぐらいからすごい下痢をしましてね、一日四、五回、何か食べるとトイレに通うって状態で……。

編集部 風邪がお腹にきたんですね。あのころはやってましたよ。

鈴木 一時ちょっとよくなったときもあったけど、またがり返して、二月十二日入院して、点滴するさわぎ。一週間も入院してました。

体重は六二キロ、身長も一六二センチとどっちかという和小柄なほうなんですけど、とにかくすごく丈夫な子で、それまで学校休んだことないんです。それがたかが流感にかかってこんな騒ぎでしょ、ショックでしたね。

編集部 手抜き料理って、思い当たることがおありだったんですか。

鈴木 そうなんです。実家の父が正月の五日

に入院しましてね。約四十日間、私が病院と家を行ったりきたり、帰ってから家族の食事を作るヒマがない、というよりその気が起これなくて……駅弁買って渡したり、ホカポカ弁当買った、出前取ったり……週の中四、五日はそんな食事させていたんです。

編集部 息子さんが発病されたのは一月十五日ですね。お父様が入院されたのは一月五日。すると毎日手抜き食事をしたとしてもやると十日間。

それだけが原因なのかな？……何か息子さんの側にありませんか。

鈴木 そうねえ……そうだ、その前の年、つまり一九八四年の夏休みの七、八月、ビデオがほしいということで毎日アルバイトに出かけてましたね。

その後まだお金が足りなくて、学校が終わってから夜の八時までの三時間、またまたアルバイト。十二月二十四日まで働いて、その

後十二月二十五日から三十一日までの七日間、夜の十二時まで、八百屋の荷下ろしをしていました。

編集部 つまり夏休みから暮までずっとバイトね。

鈴木 それで正月は疲れた、疲れたって、七

最初の子どもを亡くしてから、丈夫な子を育てよう、とただそればかり

鈴木 実は最初の子を五カ月で亡くしているんです。本当に悲しかったけれど、そのときに、まわりの人からね、『今どき子どもを殺す親はいない』っていわれたの。

編集部 ひどいこという人がいるものですね。どんな人がそんなことをいうの？

鈴木 やっぱ旦那のほうの身内ですね。それで二度目——今の長男が生まれてから、もうわき目もふらず、丈夫な子に育てよう、の一心で。

編集部 すると栄養の方面にも、うんと気を使われた……。

鈴木 私、あんまり料理好きじゃないのね。

日ぐらいまでは寝てばかりいましたね。そう、そういうことがあったんだわね……。
編集部 夏以来の過労が祟ったんじゃないかということも考えられますね。ま、それは専門家にうかがうことにして、おたくの一般的な食生活についてきかせて下さい。

でもまあ私なりに一所懸命やってきて、牛乳うんと飲ませて、甘いものはなるべく食べさせないようにして。

編集部 野菜はどうでしたか。

鈴木 ええ、やっぱ青いものがいっていいからほうれん草とトマト、それからブロッコリとか、できるだけ食べさせてました。次男（当時中学三年）なんか身長が一八三センチ、一〇〇キロもあるんですよ。

編集部 ずいぶん太っていらっしゃるわね。どうしてかしら。

鈴木 肉を食べすぎるせいかしらね。

編集部 肉だけで太るかしらねえ。

鈴木 朝から食べるんです。ご飯二杯に肉は二〇〇グラムから三〇〇グラム、おみおつけそれから牛乳。牛乳をウーインと飲むんです。

編集部 どれくらい？

鈴木 リットル入りパックを三本くらい。

編集部 一週間にですか。

鈴木 いえ、一日にですよ。

編集部 え、一日に？ そりゃ大変だ。

鈴木 ええ、冷蔵庫開けてパック取り出して自分で好きなときに飲む。いつも買いおきを切らさないようにしてます。牛乳は健康にいいっていわれてますでしょ。

コーラはよしなさい、とか、ジュースはだめ、とかいったけど、牛乳は好きなだけ飲ましています。

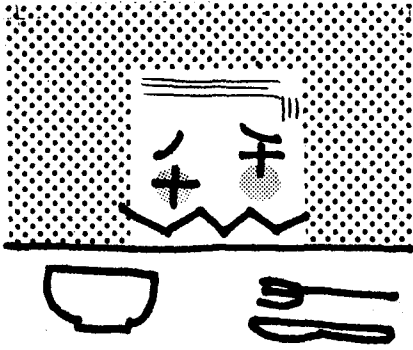
それに給食に牛乳がでるでしょ。きびしい先生がいてね、牛乳きらいな子が残すと叱られるもんだから、こっそりうちの子に渡して飲んでもらうんだって。『今日も〇〇君の牛乳飲んでやった』って帰ってくる。（大笑）
編集部 今まで大体、お子さんの好きなものを食べさせていらした？

鈴木 やっぱり、ハンバーグとか、カツ丼が
いいとかいわれると、夕食はそうなりますね。
子ども本位ですね。

編集部 好ききらいは許してました？

鈴木 私、教育ママじゃないの。ニンジンき
らいていえば、他のもので代用すればいい
わけだから強制しない。ほうれん草も、おひ
たしいやっていわれば、おみおつけに入れ
ると案外おいしいって食べてくれる。形を変
えて食べさせてました。

編集部 それで結局、鈴木さんが食事一切の
責任者なわけですね。



家にいるかぎり、母親がごはん作るのは 責任だろ、と息子は思ってる

鈴木 それがね、丁度長男の病気の一年ほど
前、私が子宮筋腫のねんてんで入院したこと
があるんです。二月から三月まで入院して、
五月ごろまでフラフラして家事ができなかっ
た。

ところがその間、子ども二人と夫が協力し
て、何から何までよくやったの。はじめは店
屋もの取ってたらしいけど飽きちゃって、料
理も自分たちでやるし、掃除や洗濯もけっこ
うやって、退院してみたら家の中ピカピカ。
編集部 意外と能力があった、と。

鈴木 ところがね、私は根が丈夫で元気がいっ
ぱいだったものだから、三時間半の大手術だ
ったのに、恢復がめざましくて、すぐ家事が
やれるようになってしまったのね。そうしたら
三人の男たちが、波が退くようにすーっと、
手をひいて……。(笑)

編集部 そうすると朝日の投書での反論みた
いに、自分の健康管理ぐらい自分で、といっ

てもダメなわけ？

鈴木 やっぱり私が家にいるとね。専業主婦
だから。自分の好きなことで出かけたりはす
るけど。

編集部 つい頼ってしまうということですか。

鈴木 いえ、長男なんかはね、ごはん作る
くらい母親の責任だろ”っていう考えね。だ
から実家の父が病気で私が看病にいても、
”そんなことはよその家のことだろう、自分
の家の家事一切やってからやればよい”とい
う考えなんです。だから長男だって、私の
入院中のこと考えれば、料理は十分できるは
ずなのに、私の責任だと思ってるから、自分
で料理をしなければとは思えない。それにあ
のときは、長男が高二、次男が中二で、勉強
もたいへんになってたし。

編集部 それで、お母さんが料理を手ぬきし
たからおれの健康が損われた”とくるわけ
ですね。

(え・カステラネンコ)

結論からいえば、息子さんの発病はお母さんの料理のせいではありませぬ。

病気の経過をみると、手ぬき料理になってから十日間。そのくらいで体力を消耗したり、栄養失調になるはずはありません。

栄養ではなく、原因はアルバイトね。その疲労がたまっただと思えます。お正月中ごろごろしていたというから、すでに発病してたんじゃないかな。

流感の原因はウィルスの感染です。

感染しても体の抵抗力が強ければ発病しない人もあります。しかしこのお子さんのように発病しても、たいていはまず熱が出てせいぜい三、四日です。そのあと一週間ぐらいセキなどの症状が残る、

だんだん快復していく。その間に無理すると、他のバイ菌による二次感染がおこる。流感のウィルスで体が弱っているところに二次感染がおこって、こじれて長びく、ということになる。

この子の場合、アルバイトの疲

松崎 光子 小児科医

私のアドバイス



う考え方は、飛躍のしすぎです。

それから息子が自分の病気の責任を母親のせいにするというのは、ちょっと問題があるんじゃないでしょうか。家庭科もあるんですし、栄養面も含めて、女も男も、家

労で体が弱っていたことと、感染したあとの養生が悪かったのではないでしょうか。下痢に対する食餌療法が行きとどいていなかったんじゃないか、ということとは考えられますけれど、母親の手抜き料理のために流感にかかった、とい

もともと食欲おうせいというか、そういう傾向のある子に、赤ん坊のときから食べる食べると食べさせすぎて、胃拡張になると、牛乳でもドスンと胃の底に來ないと物足りない。

身長は一八三ですから、せいぜい八〇キロぐらいで体重は抑えないといけない。

のちのち糖尿病や心臓病の心配をしなければならなくなると思えますよ。お母さんが、食べたいだけ食べさせる、というのでは困りますね。限度があります。

未熟児で生まれた子が、案外肥満になることが多いんですよ。お母さんが何とか大きく、丈夫にというんで一生けんめい食べさせすぎてしまうのです。

さりげなくヨーロッパが香る 三井ホーム「モンブラン」



●モンブランは、完全洋風タイプと和室付きタイプ。「基本は洋風でも和室が欲しい」という方のご希望にもお応えしています。7つのバリエーションあり。それぞれ敷地の広さにあわせてお選びいただけます。

●モンブランはツーバイフォー工法。その独特の壁構造から生まれるのは、まず耐震性。一般木造に求められる基準の約2.3倍の強度。そして大幅に冷暖房費を節約する省エネルギー性。●優れた耐火性が高く評価され、木造でありながら公庫は「簡易耐火構造」扱いとなり「木造」「不燃構造」より融資額もアップ。最長30年返済なので月々の返済もラク。また火災保険料も約20%割安になります。●また、「アティック」と呼ばれる小屋裏スペースがつけられるほか、話題の「3階建」も可能です。

三井ホーム八重洲営業所

〒104 東京都中央区八重洲2-1-4

八重洲GMビル3F(電)03-281-3131

投稿ホットライン——物いわぬは腹ふくるるわざ

マジの発言

黄色い声、赤い声——五色の声でもの申そう！

アリバイではれた濡衣

千葉県船橋市 鈴木 詠子

一、私は、ある婆さん（六十五歳くらい、以下Xとする）に、数日間横領犯人という、でっち上げをおしつけられた。全くの濡衣で、何といやアな思いをしたことか。以下書いてみる。

身体を悪くしてぶらぶらしているときに、あるひよんなきっかけで、某生命保険会社の外務員になった（もっとも、やりたくてやっ

たものでないから、六カ月くらいで止めてしまったが……）。そのときの話である。

六月某日、ある高層マンションに住むXから契約をもらった。このXが、十一月十八日午前九時半ごろ会社に来て、私が八月の下旬に七月分の保険料を集金に行つて、ねこばはしたと言ふのだそう。会社に来た時点では、私とは言っていないかったそうであるが、契約

をとったコンビの内の一人に会わせたら違ふというので、私の写真を見せたらしい。そうしたら、この人だと言ふそう。このX、口達者な婆さんだから、私がいらないのを幸いに、恐らく私にとって不利なことをしゃべったのであろう。

会社は客本位に動くから、Xの言うことを信用してしまつたらしい。その日の午後九時ごろ、係長が拙宅に来て、始末書を書いてくれという。（もっとも、午後二時半ごろ一度来たそうであるが、留守だったので会えなかったようである）だから、私はその日一日中いや真相が判明した二十一日迄は、会社とXは私を横領犯人だと疑っていたわけである。

二、この契約の場合、銀行振り込みの手続きがとつてあった。だが、口座番号に誤記があつて、七月分は引き落とされなかった。そこで、事務員が、私に、その旨客に伝えて、七月分は集金にうかがうから何日が都合がよいか聞いてくれ、との連絡をしてきた。私はその日の内に電話をし、三十日の午前中がよいとの返事をもつたので、その旨事務に伝

えた。この生命保険会社の場合、外務員が集金するというシステムをとっていないので、勿論私は集金に行っていない。

もっとも、この契約の場合、X自身が誤記に気づいて、六月下旬に訂正の手続きをとったそう。だから、本来ならば、事務のほうで私に前述の連絡をしなくてよかったはずなのである。Xも私からの電話があったので、おかしいな? と思いながら、八月の下旬の某日にある人に支払ったという(このある人が私だというのである)。その際、Xは領収書を受け取っていない。また、家計簿もつけていないので、何日かはっきりしない。

保険料はある月に引き落とされないと、翌月に二カ月分引き落とされる。だから、Xの場合、訂正された口座番号で八月二十七日に七月分と八月分が引き落とされた。そのため七月分が二重払いになった。集金に行った私がねこばしたから、こういうことになったというらしい。

ところが、事務員も私の連絡を受けたが、訂正手続きがとられていることが分かったの

で、二カ月分一括引き落としがされることから、集金人に集金に行くように依頼しなかったそう。会社としては誰も集金に行っていないのである。恐らく、Xは何かの勘違いをしているのであろう。

三、その後、会社が以上の経緯をXに説明したが、Xは強硬に私が横領したと言い張るそう。だから、会って話をつけてくれと会社と言うので、私は係長と十一月二十一日にX宅にうかがった。会ったときから、さも私が犯人のような目つきで迎える。話を始めても、もう私がやったという前提で、一步も引かないという態度である。

事前になるべく穏便に済ますようにと係長に言われていたが、このような態度をみて、私も腹が立った。もう、喧嘩になってもやる



だけやってやれと思った。

互いに譲らず、横領したしないの水掛け論になってきた。次第に声も大きくなってきた。どうしようもないので、最後の切り札として、裁判で決着をつけてくれと言った。

Xには、私を横領犯人とする確実な証拠がない。私には八月三十日のアリバイがある。

仮りに八月三十日でないとしても、その前後の数日間についてはアリバイがある。というのは、この保険会社の場合コンビで仕事をやるシステムになっているので、その日の午前九時半から午後五時ごろまでの私の行動を相棒が知っているからだ。相棒は毎日変わるが、私はこれを全て記録してある。だから、この相棒に証人になってもらえばよいわけである。私は、出る所に出てもらおうよう強硬に主張した。前述のことから私は無罪になる。そうしたら、Xを名誉毀損で告訴してやると言ってやった。六法全書を出し、友人の弁護士の名刺を見せて、この人を弁護士に立てると主張した。

そうしたら、Xは勝ち目がないと思ったの

か、態度を和らげ始め、最後には頭を下げて謝った。だが、心の中ではまだ私を犯人と思っているような感じだった。目を見ていてそう感じた。帰り際に、Xは八月某日に支払ったのは確実なのだと言う。全くしつこい婆さんだ。恐らく勘違いをしているのだろう。私には関係ないことだ。

愛児をなくした友へ

「しばらく会わないうちに、大きくなってるだろうな」と思ったばかりでした。あなたの赤ちゃんが、託児所で窒息して亡くなったときいたのは。しかも、追いうちをかけるように、故意によるものだなんて。なんとむごいことでしょう。あなたの気持ちを考えると、何といって慰めればいいのか、言葉もありません。同じ状況にいる私にとっても、仕事を続けていく上での覚悟というものを再認識させられた気持ちです。

な嫌疑をかけられるか分からないからである。三、皆さんの中にも刑事犯人の嫌疑をかけられて、いやな思いをした人がいると思う。そのような場合のアリバイ立証のために、一日の行動をメモするか日記につけておくことを、お勧めします。面倒なことであるが、どんな品行方正な生活をしていても、何日どんな

福岡県久留米市 島村 雅子

ただ、今度の事件で、あなたが仕事をやめてしまうのではないかと心配です。こういう事件が起こると、世間は「だから女が外に出ると……」とか、「やはり子供は母親が自分の手で育てねば……」とかいうような意見であふれることでしょう。

でもそれは短絡的な思考だと思います。今度のことはまったくあなたの責任ではありません。せなし、あなたが仕事をしているからでは決してありません。ただ単に、一人の、資格も



持っていない少女、ひいてはそんな少女を働かせていた託児所、こんな資格もない人達で運営されている無認可託児所を放置している行政等に見え、責任は帰されるものでしょう。ご自分を責めることなどないと思います。私もくやしくてたまりません。なんでこんなことが、と思います。

ともあれ、また、あなたが以前のように、バリバリと仕事をしている姿を見たいと思っています。

ウサギ惨殺事件に見る学校の体質

長野県長野市 岡村 和代

子供達に通っている小学校で、十月末と十一月月上旬、飼育小屋で飼育していたウサギ計十七匹が、二回にわたって踏みつぶされて殺される、というショックな事件があった。

最初に殺された折、かぎのなかった小屋は施錠され、かぎは事務室で保管されていたという。二度目の事件のときは、かぎのなかった小屋の中でウサギが死んでいたことから、犯人はなんらかの方法でかぎをはずし、犯行後にかぎをかけ直して帰っていったことも考えられる、と地元紙は伝えている。

実は、新聞に載る前、小四の子が、「ウサギが死んじゃったので、何か悪い物を食べたのかもしれないから、今、調べていんだって」とは言っていたが、まさか殺されたとは思いませんでした。

このウサギの世話は代々一年生の仕事にな

っており、我が家の下の子も、当番になると一キロもの野菜や草を運んだものだった。

この事件が起きたとき、学校側はどう対処したか。まず、空っぽになったウサギ小屋を新聞紙で覆って、隠してしまった。そして、地元の新聞に大きく報道された日も、子供達には何の説明もなかった。

先日の父母懇談会の際、やっと「ことがとです、子供達には伝染病にかかって、全部死んじゃったんだよ、と言ってあります」という簡単な説明があっただけだ。

学校側がはっきり説明しないのなら、私が言ってやろうと、我が家では、新聞に載った日の夕方に、二人の子供に記事を読んで聞かせた。難しい言葉は解説しながら……。

「先生はそうおっしゃったそうですが、うちでは、新聞に載った日に、本当のことを言っ

て聞かせました。むごたらしい事件ですし、私も怯む気持ちはありませんが、可能な限り真実は伝えていきたいと思えます」とは言ったものの、一人の母親の思いが、学校側に伝わったとは思えない。

何故、学校側は真実を子供達に隠すのか。今回の場合、犯人が学校関係者ではないかと疑われる点もあるので、その配慮なのだろうか。小さい一年生に告げるにはあまりに無惨な真実だとは言っても、彼らは彼らなりの能力で、それなりに理解していくのではないかと思えてならない。事実を教えて、子供達にショックを与えるよりも、先生が子供に嘘を教え、真実を隠したことのほうが、子供にはより深い傷になったのではなからうか。

教育県長野といえど、教育現場の本音は、荒廃していると言われる東京とさして変わりはない。

教育の場が真実を伝えないのであれば、私は母親の立場で、子供達に真実を伝えていこうと思っています。

自分の手で稼いだお金がほしい

千葉県千葉市 山田 淳子

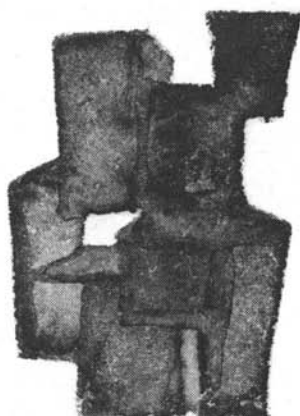
男女を問わず、仕事をして金銭を得るといふ行為は人として当然の権利だ、と自分に言い聞かせています。健康な人間が、女、主婦、母親というだけで「稼げる」仕事から疎外されているのはおかしいことだし、不当なことだと。

専業主婦として十年。次第に自分が狭い所狭い所へと向かっているような焦りがあります。食べていかれぬ状況ではないし、どちらかといえば、夫も専業主婦であることを望んでいる状況からいけば、家で趣味のことをしたり、子育てに本格的に身を入れたりのほうが、楽であろうとは思いますが、その楽さのほうへ流れていってしまいそうな危うさを自分に感じているから、なおさら、今ここで、しっかり考えてみようと思っています。あとの半分の人生を、家の中だけの世界で

生きることは、どの女の人にも困難なことだろうと思います。だから仕事をする、外に出る、というのは、短絡的だと言われそうですが、やはりずっと主婦であつた女をきたえ直してくれるのは、労働の場でしかない、と思っています。

楽をしようと思えばそれが許される状況の中で、敢えて、私が、しんどいであろう、金を稼ぐ、労力を売る、という立場に向かおうとしている根本のところは、今、現在の自分が、好きでないからかも知れません。

どう言いにくろってみても、私は夫に扶養されている人間で、そのことが、私を卑屈にしていることも事実です。カッコいいことをいろいろ並べるより、私は、お金が、自分の手で稼いだお金が欲しいのです。後ろめたさが、尊大なひらき直りになっている、自分の



夫に対する気持ちを、どうにかしたいのです。仕事をする事で、今の自分の心のウツウツとしたものでスッキリするとは思っていません。考えられなかった、いろいろな問題も背負い込むことにもなりましょう。でも、だからやめておこう、と、自分を甘やかすことは、もうやめようと、決心しています。失敗すれば、もう一度やり直せばいいのだと、考えることにします。

以上、長々と書いてしまいました。アンケートの欄外にも、書き切れなかった、私の、仕事に対する、今の気持ちです。

甘え社会ニッポン

神奈川県藤沢市 河野 民枝

「広島」が目的の旅を娘二人とした折、瀬戸内海の瀬戸田から宮島まで、船を利用した。STSルートのといて、途中の大三島では神社を訪ねる時間も組んである、三時間半ほどの船旅である。たまたまその日は、仏人の団体客が主で、日本人は我々の他数人。子供達も「フランスを旅してる気分」などとはしゃいでいた。

が、「日本」をはっきり印象づけられたのは、大三島での下船観光のとき。港からバスに乗り、神社を見学、またバスで船にといっ



た段取りをガイド嬢が説明。「神社を見学して、十五時三十分にはバスが出ますから、遅れないように」と注意。ひとまわりし、集合場所のみやげ物屋をうろうろしていると、アナウンス「STSルートのお客様、バスにお乗り下さい。発車のお時間です」。仏人にも声をかけ、バスに乗り込むと、みやげ物屋の主人が人数をチェック。「ご丁寧に」と私。仏人は苦笑しながら数えられていた感。何年か前、やはり小さな娘二人を連れて、フランスを旅したときを思い出した。仏人、アメリカ人、ドイツ人他と国籍多様、日本人は我々母娘だけという城めぐりのバス。お城に着くと、ガイド嬢が英語と仏語で「出発は何時です」とアナウンス。勝手に我々はバスを降り、城をみ、時計を気にしながら、またバスへ。時間になるとバスは発車。かなり交

通不便な城なのに全てそうなのだ。人数をかぞえたり、城内にアナウンスが流れたりはない。各自の責任において行動する。だから、途中で一人乗り遅れた人がいて、私と子供などは「あの人どうするんだろう」なんてハラハラしたが、ガイドさんは二分くらい待っただけで、そのまま発車。

日本とフランス、どちらが良いとか悪いとかではないが、甘えの問題かな？ と興味深く二つの旅を比べてみた。

旅から戻っての市内バス、バス停に中年女性三人、おしゃべりに夢中。バスは少し手前からその存在をブザーと鳴らしてるのに、まだおしゃべり。ドアを開けても乗ってくる気配はない。「乗るんですか？」と声かけられて、やっと乗って来て、おサイフをバッグから出す。せっかちはほめられないが、社会生活の中では、周囲への配慮も必要と思う。彼女らの運転手への信頼度は絶対で、どんなにのんびりしていても、バスは自分達が乗るまで待っていてくれると思うようだ。ここにも私は甘えを感じてしまう。

お知らせ

、一九八号から△プライベート・ルーム▽の連載を始めました。これは、読者の抱えていらっしゃる問題を、編集部でくわしくうかがい、それに基づいて専門家にお答えをいただくという企画です。

マスコミにも身の上相談がありますが、質問が簡単すぎるため、いつも回答が一方的であったりヒント外れだったり、要するにいい加減なのが気になります。

まず最初に、質問の内容をはっきりさせ、その背景を洗うことで問題の所在をあきらかにする、一方通行でない「何でも相談」。そういうものを考えています。

親子関係、法律問題、教育問題、職場での悩み、隣人とのいざこざ、どんな事でも△プライベート・ルーム▽に持ちこんで下さい。今回は初めてですので質問者がいないため一九四号で投稿なさった鈴木たづ子さんの問題提起を取り上げさせていただきました。

誌上匿名はもちろん可能です。ご投稿は二

月末日までに。枚数制限なし。こちらからご連絡しますので電話番号を明記して下さい。

お願い

△わいふ▽一冊をお仲間で回覧していらっしゃる読者が多く、一冊を三人で読んでいるなどというお便りは本当に嬉しいのですが、何とかお一人でも正式の読者になっていただきたい、というのが私たちの心からのお願いです。

皆さまのお力で、何とかミニコミの域を脱しましたが、まだまだ経営が苦しく、スタッフの奉仕的労働におんぶしている現実から脱出できないでいます。現状打開のためには、読者拡大より方法がありません。

どうかお一人が、お一人でもいい、読者をふやして下さいませんか？（心ばかりの感謝のしるしとして、お一人につき一号分、誌代延長サービスをさせていただいております）去年の暮もようやく越せた、という状況です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

編集部

わいふ原稿整理方針

◆投稿誌であるので、「原稿尊重」の方針で整理しています。

◆常用漢字表にない漢字または読みであっても、間違いでない限り、原則としてそのまま載せています。ただし次のような語はかな書きに直しています。

又↓また 程↓ほど 位↓くらい 為↓ため 事↓こと 丈↓だけ 方↓ほう 様↓よう 御↓ご 迄↓まで etc

◆送りがなについては、一応次のような方向で統一しています。

例 変（わ）る↓変わる 浮（か）ぶ↓浮かぶ 話（し）合う↓話し合う 気持（ち）↓気持ち 行（な）う↓行なう 表（わ）す↓表わす

◆用字用語の原則は三省堂発行「用字用語辞典」に準拠しています。

◆ハガキ以外の投稿は必ず原稿用紙にお願い致します。

特集テーマ原稿募集

●一九九号の特集テーマは「変わってしまった子どもの遊び」ときまりました。

テレビが子どもの生活を侵食しはじめたのはもう三十年もの昔にさかのぼります。今や子育て真っ最中の若い母親たち自身がテレビ世代の申し子。その人々にとって、遊びはすでにそれ以前の世代の人々の遊びとは大きく違っていたはずです。子どもが遊べる「場」も、都会では姿を消してしまいました。

最近、子どもたちの遊びは、ますますさまざま変わりしてきました。言わずと知れた「ファミコン」登場のおかげです。テレビ世代の母親たちも、わが子の遊び時間、勉強時間に食いこむ「ファミコン」には手を焼いている様子ですが、この際、この問題も含めて、自分たちの幼かった時代をふり返り、それと比較しながら、わが子の遊びの実態をレポートして下さいませんか。

どんな遊びを、どんな友だちと、どんな時間、どんなふうに行っているのか。それに

対して母親は、どんな関わりかたをしているのか。

遊びといっても種類はいろいろあります。地域での野球、リトルリーグの活動なども入れて下さってかまいません。

ご自分の住んでいらっしゃる土地柄（農村地帯とか、過密都市のただ中とか）も書き込んで下さるとよいと思います。

枚数は四百字詰め原稿用紙で十枚以上。
締切は二月末日です。

ワンポイント情報募集

●一九九号のテーマは、「もらって嬉しい贈物・持て余した贈物」です。

お中元、お歳暮の贈答のやりとりは、デパートの商魂がからんで年々さかんになりこそすれ、いっこうに下火になりません。

でも、義理だけでなく、お世話になった方に、心をこめたプレゼントを差上げる嬉しさも、大切にしたいと思います。

ただし年々、ものが溢れる一方の生活の中で、本当に贈って喜ばれるプレゼントを考え

つくのは、容易なことではありません。そこでお中元、お歳暮に、みなさんがもらっても嬉しかったもの、重宝したもの、その反対に、いただいて持て余してしまったものをレポートして下さいませんか。

誕生日や結婚記念日など、特別な日に、特別な人からもらったものでなく、ごく一般の贈答のやりとりの中で、これは、と感じられたものをリストアップして下さい。

家族の人数とか、年代も関係してくると思いますので、お差し支えなければご夫婦の大体の年齢（四十代後半、とか）と、お子さんの数と年齢をお書き添え下さると嬉しいのです。それからちょっぴり欲張って、誰かがこんなものくれたらどんなにいいかなあ、と夢みているもの（もちろんふつうの贈答品の金額の範囲内で可能なもの）もつけ加えて下さい。字数八百字前後。締切二月末日です。

わいふ・投稿規定

書くもヨシ
書かぬもヨシヨシ

ドンドン書いてノドシドシ送ってノグイグイ載せますノ!

●定期購読者になればどなたでも投稿できます。誌上匿名は可。ただし原稿には住所氏名を明記すること。(無記名のもは受け付けません)

●次のコラムへご投稿をどうぞノ!

- うちのワルガキ 子どもとその周辺の話題について、どんなことでも。
- オットどっこい 夫について、ノロケ、珍談、不満、ケンカ、何でも。
- ナウい熟年 今どきの若い者へ、一言いい方のためのシルバーシート。若い方がそれを読んで、文句言いたい場合もどうぞ。
- ファミリー・イン・ブルー 家庭内、親戚づきあいなどのトラブル、よそ

では言えないホンネのはけ口に。

●マン・ウォッチング 家庭で、職場で、PTAで、その他どこでも、あなたの観察したヒト科男属の生態を。

●職場は多面体 あなたの職場レポート。フルタイムはもとより、パートでも内職でも、切実な体験や悩みなど、ぜひ寄せて下さい。

●親のホンネ 親、ことに母親ほどつらいものはない。子育ての全責任者、何でも母親のせいだと言われ……でもこっちにも言いたいことがありますよ。母親だってニンゲンだ。言いたいこと言おう。

●男性専科 敵に塩を送る心意気、男

のいいたい放題のページです。

●マスコミむしる 新聞、雑誌、テレビ。ずいぶんどうかと思うこと、腹の立つこと、被害を受けたこと……いろいろあるんじゃないですか。遠慮ない告発をノ 強いマスコミに弱いミニコミからなぐり込みかけよう。

●マジの発言 まじめは「わいふ」の本領なんですわねー。あなたの主張や切実な体験を。

●対話のページ 本誌の投稿や記事についての感想、反論など。

●女の道案 あなたがやってるホビーについて。

●観たり聴いたり 映画、演劇、音楽

会展覽会などの感想を。

●生きてます活字人間 読んだものについて。

●遊びましょ こんなところ行ってみた、こんな遊びしてみたなど、楽しかった話を。費用も忘れずにね。

●わいわいがやがや どこにも当てはまらないものを押しこむスペース。

●エッセイストクラブ ずいひつのよさをたっぷり味わわせてくれるよい文章を。この欄だけ千六百字まで。

●ワンポイント情報 一つのものまたは事柄に関する読者の情報の徹底収集。テーマはそのつど設定します。

●以上いずれも八百字まで。オーバーしても内容がよければ掲載いたします。締め切り偶数月二十五日。

×

●持ちこみ原稿 詩、小説、評論、旅行記、ルポルタージュ、どんなジャンルのものでも。二十枚―三十枚程度。長篇なら連載も可。

掲載分には薄謝を贈呈します。締め切り日はともにもうけません。

●短い投稿はハガキでもけっこうです。気楽に投稿して下さい。

●絵・カット・イラスト・写真などの投稿も歓迎します。

●ご自分の投稿に、イラストや写真が用意できる方は、ぜひそれも合わせてお送り下さい。

×

●投稿は原則として一応編集部で選択します。できるだけ多くの方の投稿を公平に掲載することをめざします。

●編集部・編集長へのたよりで掲載ご希望でないものは必ず「私信」とお書きをえ下さい。

●「わいふ」の特色は、完全な言論の自由を守ることにあります。思想信条を問わず、すべての女たちに自分の考えを発表する場を獲得することが、「わいふ」の望みです。

●投稿は多少添削することがありますのでご了承下さい。

●「わいふ」からこれまで数人のライターが巣立っています。文章を書くことをしごとにしたいと思っていらっしゃる方に、「わいふ」は絶好のトレーニングの場となります。

●あなたの周囲に、誌上でご紹介できるようなすばらしい仕事をしている方、特殊な体験をお持ちの方、ユニークな生活をしている方――はありますか？ そういう方をご存知でしたら、ぜひご一報下さい。

●ハガキ以外の投稿は必ず原稿用紙にお書き下さい。原稿用紙の使い方はルールを守って下さい。

●ヨコ書き原稿は書き直すことになるので必ずタテにお書き下さい。原稿はお返しできませんので、必要な方はコピーをとってからお送り下さい。

編集だより

●お天気に恵まれた暮、正月でしたがそれも表日本だけ、裏日本の豪雪地帯のみなさまはどんよりした空や厳しい寒さとたたかっていらつしやることでしょうか。明けましておめでとうございます、というには少し時期がずれてしまいました、どうぞ今年もみなさまにとってよいお年でありますように。

●今年から、なかば身の上相談、なかばカウソセリング風の「プライベート・ルーム」のページを設けました。迷うこと、心配なこと、思い余ること、どうぞ相談下さい。

マスコミの紙上をにぎわす、有名人が回答する身の上相談には、いまいちもの足りなさを感じていた私たちでしたが、この「プライベート・ルーム」で、新しいスタイルの「何でも相談」を創出できれば——と願っています。

●「わいふ」の読者のかたは、比較的「暮らし」に関心のない方が多いのか、「ワンポイント情報」で衣食住に関するテーマで投稿をつの

っても意外に集まりません。一九九号は少し趣きを変えてみましたのでどうぞふるってご投稿をおよせ下さい。今回からの欄にかぎり、他のコラムへのご投稿とダブっても双方ともおのせることに決定しましたので、どうかお気がねなく、投稿をおよせ下さい。

●今年からドイツ在住の高木梢さんの連載、「山の彼方の空遠く——声楽に憑かれた私のヨーロッパ留学記」が始まりました。ドイツ語もろくにできない、三十に近い女性が、海のものとも山のものともつかぬ声楽に自分を賭けて渡欧する、スリルに満ちた物語です。音楽界の赤裸々な姿は、これまで描かれたことがない分野ですが、そうした部分も含めて、興味深いエピソードが次ぎ次ぎに展開します。どうぞご期待下さい。

●モニターに応募して下さった方々、お忙しい中を有難うございました。一九八号発行が一段落しましたら具体的に動き出す予定です。その節はどうぞよろしくお願い致します。

●一年中で一番寒い二月がやってきました。お風邪など召さぬように、どうかお元気で。

□購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。
すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの
で、折返しご送金ください。バックナンバ
ーのご注文も同様に。二冊以上まとまりま
すと送料が半額以下になります。

WIFE

(隔月刊) 198号

1986年3月1日発行

印刷・浩文社印刷

定価 450円

(年間購読料送料共3600円)

発行所・瞬グループわいふ

編集・わいふ編集部 ● 162

東京都新宿区市ケ谷加賀町2-5-23

TEL (03) 260-4771

郵便振替 東京5-110430

銀行口座三菱銀行神楽坂支店

普通預金 052-4348909

□購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れに
なる方が多いので、誌代が切れてもひき続
き送本しています。お申出がないと、お送
りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

●第三ステージの開幕

更年期を生きる

駒野陽子・俵朋子ほか

四六判上製204頁 定価1200円

女性には更年期をどう受けとめ、どう生きているか——大勢の女性たちがあり、また自分の更年期を語ってくれた。専門医によるQ&A、ヨーロッパの更年期事情、からだを快適にするための情報など、更年期に親しみを感じさせる書。

●自立と自律へのアプローチ

女性の自己発見学

河野貴代美著

四六判上製238頁 定価1300円

わたしは何をしたいのか——女らしく、母親らしく、さもなくば働くべき、自立すべき——そのどちらでもない自由で柔軟な女のアイデンティティの確立を説く女のための自己分析入門。

「主婦の壁を破るセミナー」の記録

何かをしたい、主婦のために

東海BOC可能性教室

四六判上製196頁 定価1100円

何かをしたいけれど、でもどうしたら……共通の問いかけをもつ主婦たちが、何が自分のネックなのかを見きわめるなかで、自己実現への一歩を踏みだした。

東京都新宿区市谷薬王寺町26 **学陽書房** 営業(電)261-1111/振替東京7-84240



株式会社 ミネルワ書房

〒607 京都市山科区日ノ岡東谷町1
☎(075)581-5191 振替京都 2-8076

女・老いをたのしく

樋口恵子監修・高齢化社会をよくする女性の会編
高齢化社会の主役は女性です!! 一七〇〇円 250

戦争を生きた女たち

鞠谷美規子・証言・国防婦人会 当時の女性は国防婦人会とどのように関わったのか。一七〇〇円 250

私の「女性学」講義

小松満貴子著 女の自立、幸せ、生涯設計……女性学の視点で若い女性にアドバイス。一七〇〇円 250

女性の二つの役割

ミュルダール／クライン・家庭と仕事 ノーベル賞受賞者らによる名著の全面改訂版。二〇〇〇円 250

婦人解放と結婚の将来

嶋田津矢子著 真実の結婚、堅実な家庭のあり方を世界的視野からさぐった研究書。二四〇〇円 300

イギリス女性作家の深層

久守和子／吉田幸子編著 女性の作品の独自の意味を明らかにしたもう一つの英文学史。二〇〇〇円 250

自己実現への道
交流分析(TA)の理論と応用
M・ジェイムス他 深沢道子 訳
自己を知って他人を理解し、人間関係をスムーズにするための実践の自己啓発書。
25刷出来 ●2000円

突破への道
新しい人生のためのセルフ・リベ
アレコーディング M・ジェイムス 訳
深沢道子 訳 よりよい自分の人生を創り出す自己改造法。
●2200円

農薬の陰謀

「沈黙の春」の再来

R・バンデンボッシュ 矢野宏 訳
●1800円

●話題の本

R・ラシキ 輪妙子・井上紀子 訳
●2400円

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

●話題の本

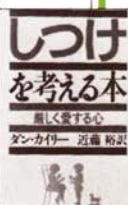
●話題の本

●話題の本

ベストセラー
『ピーター・パン・シンドローム』の
ダン・カリー
最新話題作!

しつけ を考える本

定価 2000円



●新しい観点から今、しつけを考える!
世の親たちや教師たちが直面しているいじめ・家庭内暴力、非行・校内暴力の問題に手がかりを与えてくれ、必要ならトラブルを回避するノウハウが具体的に書かれています。
★永畑道子さん 推せん……もともと子どもは、親を支えるために生まれてきた。心やさしい存在である。素朴な子育てを回復しよう。文明の最先端に立つダン・カリーのこの一冊に、子育ての手がかりがみちみちている。

反響騒然! いま「しつけ」とは?



投稿誌わいふから生まれたユニークな文章学

書きたい女たちへ

体験的文章入門——田中喜美子著

●文章を書いてみたい、でもうまく書けそうもない、と迷っているあなた。

●ぜひこの本を開いてみて下さい。

●文を書くことが好きなあなた。

●自分の悪い癖に、はっと気がつきます。

●もの書きのプロになりたいあなた。

●自分の才能がどこにあるか、この一冊ですっきり見定めて下さい。

●アマチュアを書く文のよさ、プロの文章のぬうち

この本を読んだあとでは文章の味わい方が違ってきます。

重版出来!

定価 一六〇〇円

ご注文は書店か直接グループわいふへ

送料無料・新宿区加賀町二五三 260四七七